



**U.S. GRAINS &
BIOPRODUCTS
COUNCIL**

**2025/2026
トウモロコシ収穫時
品質報告書**



これほど広範で大規模な報告書を、時宜を得て作成するには、多くの個人や団体の協力が欠かせません。本報告書の作成にあたって監修および調整の労をお取りいただいたセントレック・コンサルティング・グループ LLC (Centrec) のスティーブ・ホフィング氏、リー・シングレトン氏、リサ・エッケル氏、ディー・アン・ホフマン氏、デイビッド・モック氏およびエリン・クラナウイター氏に対し、アメリカ穀物バイオプロダクト協会（当協会）は感謝の意を表します。彼らの分析や報告書作成の作業にはエキスパートチームの力添えをいただきました。外部チームのメンバーにはトム・ホイテカー博士、ローウェル・ヒル博士、マービン・R・ポールセン博士、フレッド・ベロー博士およびジュリアン・R・シーバウアー氏が含まれます。さらに、当協会はトウモロコシの品質検査の担当機関であるイリノイ穀物改良協会の分別流通管理穀物研究所 (IPG ラボ) とシャンペーン-ダンビル穀物検査所 (CDGI) に感謝いたします。

最後になりましたが、全米各地域の穀物エレベーター業者の皆さんの思慮深い時宜にかなった協力なくして、本報告書は作成しませんでした。収穫期という繁忙期に、試料の収集および提供にお時間を割いてご尽力頂き心よりお礼申し上げます。

アメリカ穀物バイオプロダクト協会は、米国農務省 (USDA) プログラムの参加団体として連邦、州および地方の公民権法で定める無差別政策と USDA 無差別政策を順守することをコミットします。

詳細情報については、USDA のウェブページ (<https://www.usda.gov/non-discrimination-statement>) をご覧ください。

1	アメリカ穀物バイオプロダクト協会からのご挨拶	
2	収穫時品質のハイライト	
4	はじめに	
6	品質試験結果	
A.	等級ファクター	6
B.	水分含量	18
C.	化学組成	22
D.	物理的ファクター	32
E.	マイコトキシン	49
59	作柄と気象条件	
A.	2025 年収穫ハイライト	59
B.	作付と初期生育の状況	60
C.	受粉と登熟の状況	62
D.	収穫の状況	64
E.	2024 年、2023 年および 5 年平均と比較した場合の 2025 年	66
68	米国産トウモロコシの生産量、消費量および見通し	
A.	米国産トウモロコシの生産量	68
B.	米国産トウモロコシの消費量および最終在庫量	71
C.	概要	72
75	調査および統計分析の方法	
A.	概要	75
B.	調査設計とサンプリング	76
C.	統計分析	79
80	試験分析法	
A.	等級ファクター	81
B.	水分含量	82
C.	化学組成	82
D.	物理的ファクター	82
E.	マイコトキシン試験	83
85	推移の検討	
A.	等級ファクターと水分含量	85
B.	化学組成	86
C.	物理的ファクター	87
D.	マイコトキシン	88
89	米国産トウモロコシ補足情報	
BC	USGC 連絡先情報	

アメリカ穀物バイオプロダクト協会（USGC）は本書「2025/2026 年トウモロコシ収穫時品質報告書」において、15 回目の年次品質調査結果をご報告いたします。

当協会は本書を提供することにより、米国産トウモロコシの品質に関して信頼性の高い情報を適時に提供し、業界のリーダーが十分な情報を得た上で購入決定を行えるよう支援します。当協会は取引を通じて世界の食料安全保障および相互の経済的恩恵を促進する所存です。

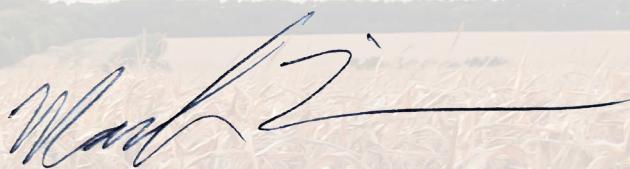
概して好天に恵まれた 2025 年のトウモロコシは、過去 5 年間の平均と同じようなペースで作付できました。作付後は、受粉期前の乾燥した気候にもかかわらず、高温条件のおかげで適時の発芽と早期の強い成長が促されました。受粉期の高温多雨な条件を経て、登熟期初期に徐々に気温が下がって乾燥した条件になつたため、トウモロコシの穀粒のサイズと重量が抑えられました。東部コーンベルトの多くは乾燥期と収穫期に異常な高温と乾燥に見舞われた一方、西部コーンベルトでは 9 月にまとまった雨が降って生育が遅れました。

こういった気象条件が、昨年の記録的な収量を 0.42 メートルトン／ヘクタール（6.7 ブッシュル／エーカー）上回る、11.67 メートルトン／ヘクタール（186.0 ブッシュル／エーカー）という平均単収の最高記録を米国農務省が予測するのに貢献しました。さらに、本年のトウモロコシは、1933 年の 3728 万ヘクタール（9213 万エーカー）以来最も広い 3644 万ヘクタール（9005 万エーカー）の総収穫面積から収穫されると予測されています。記録的な収量と歴史的に広い収穫面積を考慮すると、2025/2026 年の収穫量は 4 億 2553 万メートルトン（167 億 5200 万ブッシュル）と予測されます。これが実現すると、本年の収穫量は従来の記録である 2023 年の収穫量を 3586 万メートルトン（14 億 1200 万ブッシュル）上回ります。

2025 年の米国産トウモロコシは記録を塗り替えた収穫量に加えてその穀粒品質が高かったため、市場年度中の世界のトウモロコシ輸出量の 38.4%（予測値）を占めることができます。

「2025/2026 年トウモロコシ収穫時品質報告書」は国内の流通経路に投入される今年度の米国産トウモロコシの収穫時品質情報を提供するものです。バイヤーの皆様が今後目につくことになるトウモロコシの品質は、収穫後の取扱い、ブレンドおよび保管条件の影響を受けます。当協会が作成する報告書の第二弾、「2025/2026 年トウモロコシ輸出貨物品質報告書」は積載である輸出ターミナルにおけるトウモロコシの品質を分析するもので、2026 年初頭での発行が予定されています。

当協会は当協会の重要な取引パートナーの皆様に対するサービスとして本報告書をお届けしています。そして、本報告書は市場を開拓し、貿易を可能にし、生活を向上させるという当協会のミッションを遂行する手段のひとつとなっています。

Mark Wilson
アメリカ穀物バイオプロダクト協会会長
2025 年 11 月

「アメリカ穀物バイオプロダクト協会 2025/2026 年トウモロコシ収穫時品質報告書（2025/2026 年収穫時報告書）」の試験対象となった代表的サンプル全体の平均的な品質は、米国（US）No.1 等級の等級ファクター要件を上回ります。本報告書はサンプルの 87.1%が米国（US）No.1 等級の等級ファクター要件を満たしており、97.8%が米国（US）No.2 等級の等級ファクター要件を満たしていることを示しています。2025 年の米国産トウモロコシは、各品質ファクターの過去 5 年間の平均値（5YA¹）と同じ容積重および水分含量、ほぼ同じストレスクラック率、それより低い百粒重と穀粒容積で流通経路に入ります。本年の破損粒&異物（BCFM）平均値もまた、15 年間の収穫時報告書の中で最も低い値です。

2025 年トウモロコシの主要な収穫結果のハイライトを次に記載します。

等級ファクターおよび水分含量

容積重は 1 ブッシュル当たり 58.6 ポンド (lb/bu) (1 ヘクトリットル当たり 75.4 キログラム (kg/hl)) で、5YA と同じである。

2025 年米国集計 BCFM 平均値 (0.3%) は 2024 年 (0.6%) と 5YA (0.7%) を下回り、本報告書史上最小である 2023 年の値 (0.5%) も下回っている。

2025 年米国集計総損傷平均値 (1.1%) は 2024 年 (1.1%) と同じだが、5YA (1.0%) を上回っている。

2025 年サンプルの米国集計熱損傷平均値は 0.0% で、2024 年および 5YA と同じである。

2025 年米国集計水分含量平均値 (16.0%) は 2024 年 (15.3%) を上回っているが、5YA と同じである。

化学組成

2025 年米国集計タンパク質含量平均値 (乾物ベース 8.4%) は 2024 年 (8.5%) とほぼ同じであるが、5YA (8.6%) を下回っている。

2025 年米国集計デンプン含量平均値 (乾物ベース 72.3%) は 2024 年 (72.2%) とほぼ同じで 5YA (72.1%) を上回っている。

2025 年米国集計油分含量平均値 (乾物ベース 3.8%) は 2024 年および 5YA (いずれも 3.9%) を下回っている。

¹ 5YA は 2020/2021 年、2021/2022 年、2022/2023 年、2023/2024 年および 2024/2025 年の「収穫時報告書」の品質ファクターの平均値または偏差の単純平均を示している。

物理的ファクター

2025 年米国集計ストレスクラック率平均値 (9.5%) は 2024 年および 5YA (いずれも 9.3%) とほぼ同じである。

2025 年米国集計百粒重平均値は 34.04 グラムで、2024 年 (36.66 グラム) および 5YA (35.12 グラム) を下回っている。

2025 年米国集計真の穀粒密度 (1 立方センチメートル当たり 1.258 グラム(g/cm³)) は 2024 年 (1.265 g/cm³) を下回っているが、5YA (1.255 g/cm³) とほぼ同じである。

2025 年米国集計完全粒の平均値は 90.6% で、2024 年 (93.1%) および 5YA (92.3%) を下回っている。

2025 年米国集計硬胚乳の平均値 (83%) は、2024 年 (85%) および 5YA (84%) を下回っている。

マイコトキシン

2025 年は 100.0% の試験対象サンプルが米国食品医薬局 (FDA) のアフラトキシンの規制レベルである 20.0 ppb 以下であり、試験対象サンプルの 99.4% が 5.0 ppb を下回り、2024 年の割合 (91.7%) を上回っている。

2025 年の試験対象サンプルの 98.8% が、FDA のデオキシニバレノール (DON) の勧告レベルである 5.0 ppm 以下となった。さらに、試験対象サンプルの 89.4% が 1.5 ppm を下回った。この割合は 2024 年 (93.9%) を下回っている。

2025 年試験対象となったサンプルの 87.2% がフモニシンに対する FDA の最も厳格な指導レベルである 5.0 ppm を下回った。この割合は 2024 年 (97.2%) を下回った。

「収穫時報告書」によるオクラトキシン A、トリコテセン (T-2) およびゼアラレノンの試験は今年で 6 年目を迎えた。追加した各マイコトキシン試験の 180 サンプルの結果は「品質試験結果」のセクションに記載している。

「2025/2026 年収穫時報告書」は、世界のトウモロコシのバイヤーが流通経路に入る時点の米国産イエローコーンの当時の品質について理解するために役立つよう作成したものです。毎年実施しているこの収穫時の米国産トウモロコシの品質調査も今回で 15 回目となりました。15 年間の結果により、圃場から出荷された時点の米国産トウモロコシの品質に、気象条件や生育条件が及ぼす影響のパターンが浮かび上がります。

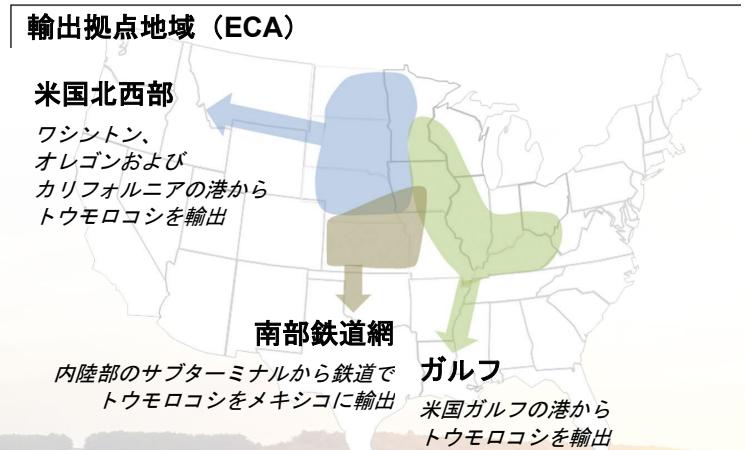
2025 年の生育期は、生育期の高温条件と多雨、乾燥期と収穫期の高温乾燥条件で特徴付けられます。このような条件を考えると、平均単収は史上最高になると予測されます。90 年間で最大の収穫面積と相まって、総生産量は 4 億 2553 万メートルトン（167 億 5200 万ブッシュル）と予測されます。これは従来の記録である 2023 年の収穫量を 3586 万メートルトン（14 億 1200 万ブッシュル）上回ります。

生育期の条件と適時の収穫が、良質な穀粒の生産に奏功しました。2025 年のトウモロコシの容積重と水分含量の平均値は 5YA と同じ、ストレスクラック率は 5YA とほぼ同じで、百粒重と穀粒容積は 5YA を下回りました。さらに、BCFM 平均値は本報告書史上最小でした。

2025 年流通経路に入るトウモロコシには、米国 (US) No.1 等級のトウモロコシに求められる各等級ファクターの数値要件を概ね満たしているか上回るという特徴があります。本報告書で示しているように、米国 (US) No.1 等級の等級ファクター要件すべてを満たしているサンプルの割合は 87.1% で、米国 (US) No.2 等級の等級ファクター要件を満たしているサンプルの割合は 97.8% です。

こうしたデータは、トウモロコシの品質に影響を及ぼす傾向やファクターを評価するための基盤を提供してくれます。加えて、報告の積み重ねにより、輸出バイヤーは年度別の比較を行い、こうした複数年の生育条件に基づいてトウモロコシ品質のパターンを評価することが可能になります。

本「2025/2026 年収穫時報告書」の内容は、トウモロコシ生産・輸出の上位 12 州内の特定の地域から入手した 621 件のイエローコーンのサンプルに基づいています。運ばれてくるトウモロコシのサンプルは、原点での品質を計測・分析し、様々な地域の品質特性のばらつきを示す情報を提供するために各地域の穀物エレベーターから採取されました。



12州のサンプル採取地域を3つのグループに分け、「輸出拠点地域」(ECA)と名付けました。これら3箇所のECAは、地図に示された輸出市場に向かう3つの主要輸出経路で区別されています。

米国集計の値と3ECA地域それぞれの値についてサンプル分析の結果を報告し、米国産トウモロコシの品質の地域によるばらつきを全体的に把握することができるようになっています。

収穫時に確認されるトウモロコシの品質特性は、最終的に輸出顧客の手元に到着するトウモロコシの品質の基礎となるものです。ただし、トウモロコシは、米国の市場システムの経路を進むに従って、他の地域のトウモロコシとブレンドされたり、トラックやバージ船、貨物列車に混載されたりして、保管、積み込み、積み卸しが何度も繰り返されます。そのため、市場投入当初から輸出エレベーターに至るまでの間にトウモロコシの品質や状態は変化する場合があります。この理由から、「2025/2026年収穫時報告書」は、当協会が2026年初頭に発表した「2025/2026年トウモロコシ輸出貨物品質報告書」と併せて検討する必要があります。いうまでもなく、輸出貨物のトウモロコシの品質は買い手と売り手との契約に基づくものであり、買い手側は自らにとって重要な品質ファクターについて自由に交渉することができます。

本報告書には、試験を実施した各品質ファクターについて、サンプルの米国集計と3箇所のECA別の平均値および標準偏差を含む詳細な情報を記載しています。「品質試験結果」のセクションでは以下の品質ファクターについてまとめています。

- 等級ファクター：容積重、破損粒&異物 (BCFM)、総損傷および熱損傷
- 水分含量
- 化学組成：タンパク質、デンプンおよび油分含量
- 物理的ファクター：ストレスクラック、百粒重、穀粒容積、真の穀粒密度、完全粒および硬胚乳
- マイコトキシン：アフラトキシン、デオキシニバレノール (DON)、フモニシン、オクラトキシン A、T-2 およびゼアラレノン

これらに加えて、「2025/2026年収穫時報告書」には米国産トウモロコシの作柄および気象条件、トウモロコシの生産量、消費量および見通しについての簡単な説明、調査方法、統計分析方法ならびに試験分析方法についての詳細な説明を記載し、さらに、過去の所見のセクションでは対象となった全15年間の報告から得た各品質ファクターの平均値を記載しています。

A. 等級ファクター

米国農務省（USDA）の連邦穀物検査部（FGIS）は、様々な品質特性の測定に用いる等級や定義、基準の数値を定めています。トウモロコシの等級を決定する特性は容積重、破損粒&異物（BCFM）、総損傷および熱損傷です。こうした特性の数値要件を示した表は本報告書の「米国産トウモロコシ補足情報」のセクションと次ページに掲載しています。

概要：等級ファクターおよび水分含量

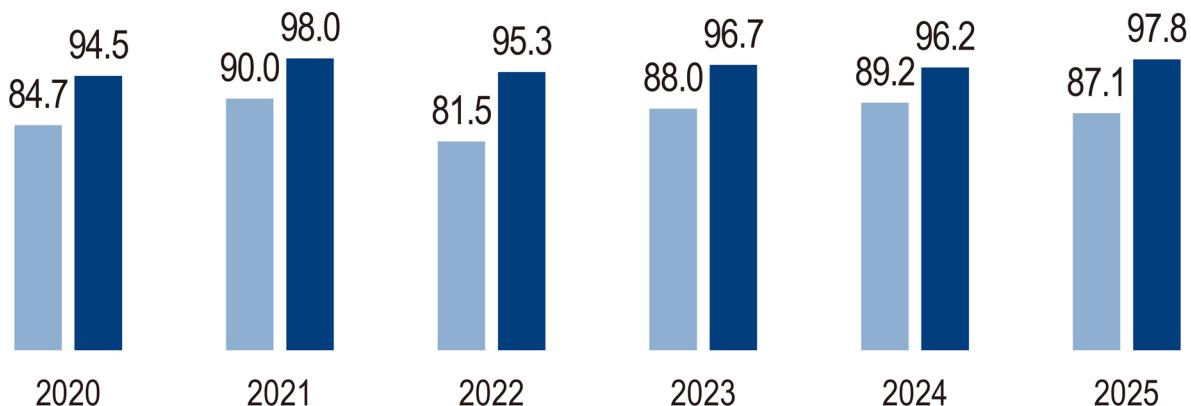
- 次ページに示した数値は、米国（US）No.1 および No.2 等級ファクターの限界値を満たす各年のサンプルの割合を表している。概ねサンプルの 87.1% は米国（US）No.1 等級の等級ファクター要件をすべて満たし、サンプルの 97.8% は米国（US）No.2 等級の等級ファクター要件を満たしている。
- 容積重の米国集計平均値 (58.6 lb/bu または 75.4 kg/hl) は米国（US）No.1 等級の下限値 (56.0 lb/bu) をはるかに上回り、5YA と同じである。
- 米国北西部 ECA の容積重平均値 (57.7 lb/bu) は最小である。ガルフ ECA と南部鉄道網 ECA の容積重は、それぞれ 58.7 lb/bu、59.3 lb/bu である。2025 年、2024 年、2023 年、5YA、および 10YA の米国北西部の容積重は ECA の中で最小である。
- 2025 年の BCFM 米国集計平均値 (0.3%) は 2024 年 (0.6%)、5YA (0.7%) および 10YA (0.8%) を下回り、本報告書史上最小の値である 2023 年 (0.5%) も下回っている。
- BCFM のレベルはトウモロコシのサンプルの 100.0% が No.2 等級に認められている上限値の 3.0% 以下である。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の平均 BCFM レベルはそれぞれ 0.3、0.4 および 0.3% で、いずれも米国（US）No.1 等級の限界値を下回っている。
- 2025 年の破損粒の米国集計平均値は 0.3% で、2024 年および 2023 年 (いずれも 0.4%)、5YA (0.5%) および 10YA (0.6%) を下回っている。
- 2025 年の異物混入率の米国集計平均値 (0.1%) は 5YA および 10YA (いずれも 0.2%) を下回っている。
- 2025 年の総損傷率の米国集計サンプルの平均値 (1.1%) は、2024 年と同じで、2023 年 (0.9%) および 5YA (1.0%) を上回っていて、10YA (1.5%) を下回り、米国（US）No.1 等級の限界値 (3.0%) を大きく下回っている。
- 損傷粒の割合が 3.0% 以下のサンプルは全体の 94.0% である。ガルフ ECA、米国北西部 ECA および 南部鉄道網 ECA のサンプルの総損傷平均値はそれぞれ 1.1%、0.8% および 1.4% であり、いずれも米国（US）No.1 等級の限界値 (3.0%) を下回っている。

概要：等級ファクターおよび水分含量

- 2025年のサンプルの熱損傷米国集計平均値は0.0%であり、これは2024年、2023年、5YAおよび10YAと同じである。
- 2025年の水分含量米国集計平均値(16.0%)は2024年(15.3%)を上回っていて、5YAと同じで、2023年(16.3%)および10YA(16.2%)を下回っている。
- 2025年のガルフECA、米国北西部ECAおよび南部鉄道網ECAの水分含量平均値はそれぞれ16.0%、16.2%および15.6%である。2025年、2024年、2023年、5YAおよび10YAの水分含有量平均値は、ECAの中で南部鉄道網が最も低い。
- 水分含量が17.0%を超える2025年のサンプルの割合は23.6%だが、これに対し2024年は19.9%、2023年は30.8%だった。水分含量を常に観察して十分に低いレベルに維持し、カビが増殖して貯蔵寿命が短くなる可能性を回避するよう注意する必要がある。

すべての等級別要件を満たすサンプル(%)

■米国(US) No.1 ■米国(US) No.2



米国産トウモロコシの等級および等級要件

等級	ブッシュル当たり の容積重最小値 (ポンド)	最大限界値		
		熱損傷 (%)	総損傷 (%)	破損粒&異物 (%)
米国(US) No.1	56.0	0.1	3.0	2.0
米国(US) No.2	54.0	0.2	5.0	3.0
米国(US) No.3	52.0	0.5	7.0	4.0
米国(US) No.4	49.0	1.0	10.0	5.0
米国(US) No.5	46.0	3.0	15.0	7.0

容積重

容積重（容積当たりの重量）はかさ密度を表し、全体的な品質を示す一般的な指標として、また、アルカリ処理やドライミリング処理をする業者向けの胚乳の硬度を示す目安としてよく用いられます。容積重が高いトウモロコシは容積重が低い同じ重量のトウモロコシよりも少ないスペースで保管することができます。容積重という観点で穀粒の構造に最初に影響を及ぼすのは遺伝子的な差異です。ただし、乾燥方法、トウモロコシ粒の物理的損傷（破損粒および表面擦損）、サンプルに混入した異物、穀粒の大きさ、生育期間中のストレス、微生物被害、および水分含量からの影響も受けます。通常、トウモロコシを徐々に乾燥させると、水分が1パーセント減るごとに容積重は0.25~0.33 lb/bu 増える可能性があります。ただし、トウモロコシ粒の大きさ、形状、微細物、損傷、乾燥速度といったその他のファクターは、容積重が変わることに影響を与える場合があります¹。

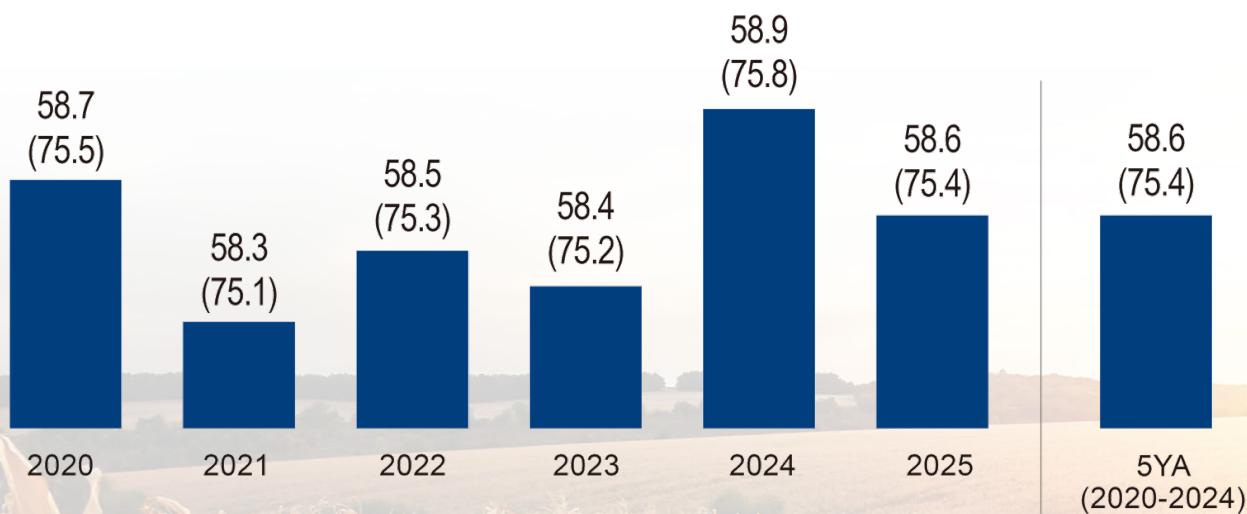
圃場から搬入された地点でサンプルを採取・測定した場合、一般的に、水分含量が一定であれば、高い容積重の値は高い品質、高い硬胚乳率、かつ、完全で破損や異物のないトウモロコシであることを示唆します。容積重は真の密度と正の相関関係にあり、穀粒の硬さと成熟度を反映します。

結果

- 容積重米国集計平均値（58.6 lb/bu または 75.4 kg/hl）は2024年（58.9 lb/bu）を下回り、2023年（58.4 lb/bu）および10YA（58.3 lb/bu）を上回っているが、5YA（58.6 lb/bu）と同じである。また、米国（US）No.1等級の最小値（56.0 lb/bu）も大きく上回っている。

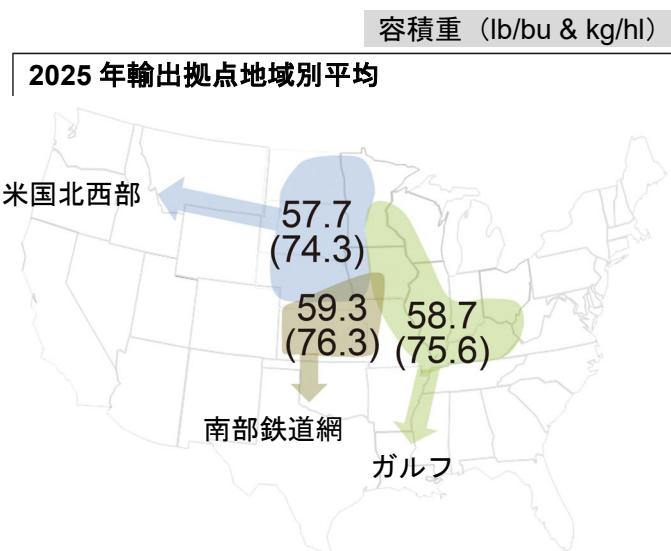
容積重（lb/bu & kg/hl）

米国集計結果の概要



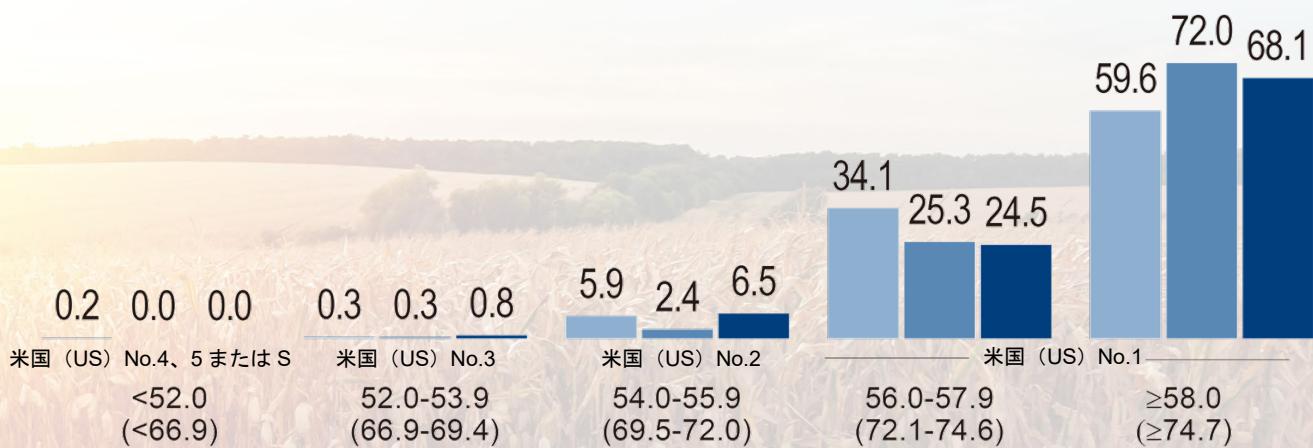
¹ Hellevang, K. (2019年)「トウモロコシ容積重は数多くのファクターから影響を受ける」 NDSU Agricultural Communication、2019年11月27日、NDSU エクステンション・サービス

- 2025 年の容積重米国集計の標準偏差 (1.37 lb/bu) は 2024 年 (1.27 lb/bu)、2023 年 (1.23 lb/bu)、5YA (1.24 lb/bu) および 10YA (1.23 lb/bu) を上回っている。
- 2025 年の容積重の収穫時サンプルでのばらつき幅は 11.0 lb/bu (52.6~63.6 lb/bu) で、2024 年のばらつき幅である 11.3 lb/bu (52.5~63.8 lb/bu) とほぼ同じだが、2023 年のばらつき幅である 16.6 lb/bu (46.4~63.0 lb/bu) より小さい。
- 2025 年の容積重の分布をみると、米国 (US) No.1 等級の限界値 (56.0 lb/bu) 以上のサンプルは 92.6% で、これに対し 2024 年は 97.3%、2023 年は 93.7% である。2025 年のサンプルで米国 (US) No.2 等級の限界値 (54.0 lb/bu) を上回るものは 99.1% で、これに対し 2024 年は 99.7%、2023 年は 99.6% である。
- 2025 年の容積重平均値は米国北西部 ECA (57.7 lb/bu) が最も低い。ガルフ ECA および南部鉄道網 ECA の容積重は、それぞれ 58.7 lb/bu、59.3 lb/bu である。米国北西部の容積重は、2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれでも ECA の中で最小である。南部鉄道網の容積重は、2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれでも ECA の中で一貫して最大である。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



破損粒&異物 (BCFM)

破損粒&異物 (BCFM) の値は飼料や加工に用いることのできる清浄で健全なトウモロコシ粒の量を量る目安となります。BCFM の割合が低いほどサンプル中の異物や破損粒が少ないことを示しています。通常、圃場から運ばれてきたトウモロコシのサンプル中 BCFM の値が高いものについては、収穫方法や圃場の雑草の種子にその原因を見出することができます。採用する方法や穀粒の健全性によって変化するものの、一般に BCFM の値は乾燥や取扱いの過程で破損粒が増えることによって増加します。

破損粒 (BC) とは目開き 12/64 インチのふるいを通過するほど小さく、かつ、目開き 6/64 インチのふるいは大きすぎて通過しないトウモロコシ粒およびその他の物質（雑草の種子等）と定義されています。

異物 (FM) は目開き 12/64 インチのふるいを通過しない大きな物質でトウモロコシ以外のものや、目開き 6/64 インチのふるいを通過するすべての小さな物質と定義されています。

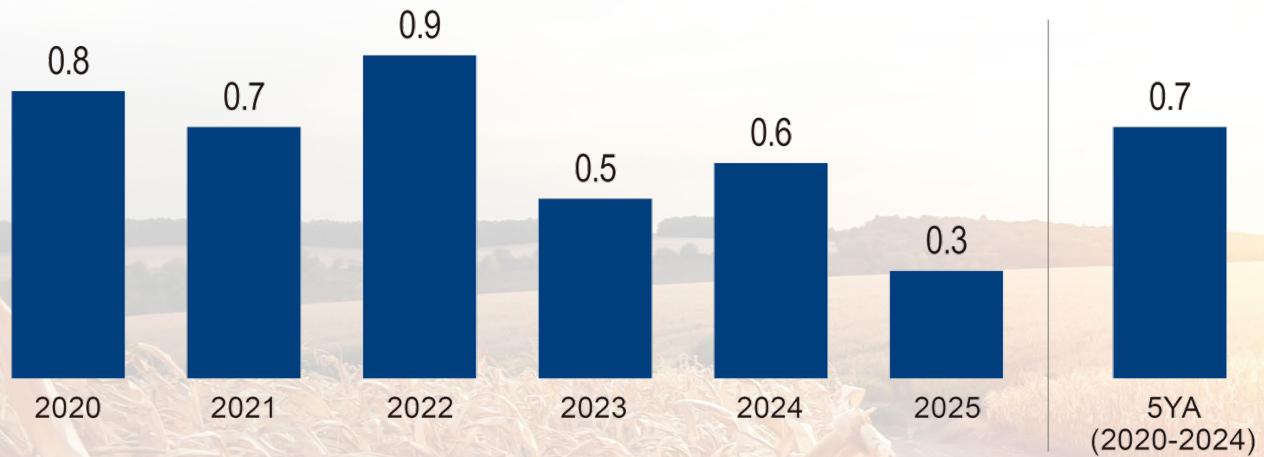
次ページの図は米国産トウモロコシ等級で用いられる破損粒および異物を測定するための方法を示したものです。

結果

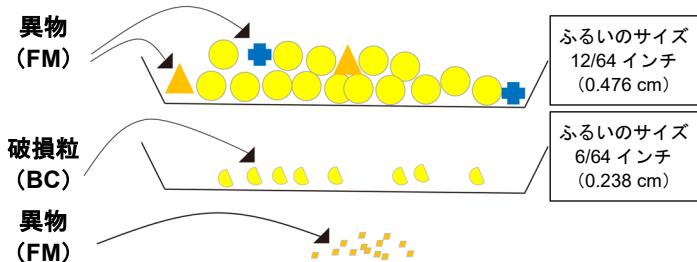
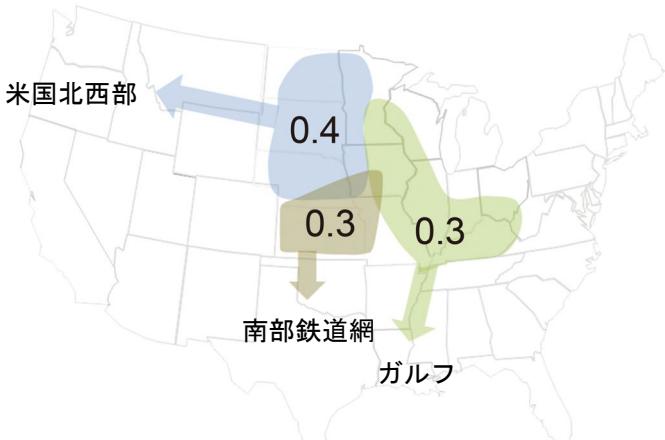
- 2025 年の BCFM 米国集計平均値 (0.3%) は 2024 年 (0.6%)、5YA (0.7%) および 10YA (0.8%) を下回り、本報告書史上最小の値である 2023 年 (0.5%) も下回っている。これは、米国 (US) No.1 等級の上限値 (2.0%) をはるかに下回っている。

破損粒&異物 (BCFM) (%)

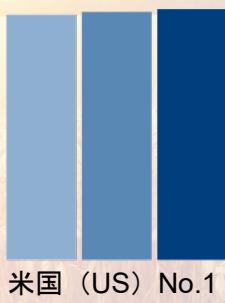
米国集計結果の概要



- 標準偏差 (0.21%)に基づく 2025 年トウモロコシのBCFM のばらつきは 2024 年 (0.38%)、2023 年 (0.45%)、5YA (0.47%) および 10YA (0.52%) を下回っている。
- 2025 年収穫時サンプルのBCFM の最小値と最大値の幅は 2.6% (0.0~2.6%) である。この値は 2024 年サンプルの 7.3% (0.1~7.4%) と 2023 年サンプルの 5.9% (0.0~5.9%) を下回っている。
- 2025 年のサンプル分布では、米国 (US) No.1 等級のBCFM レベルの上限値 (2.0%) 以下の割合は 99.5% で、これに対し 2024 年は 98.3%、2023 年は 97.2% である。サンプルのすべて (100.0%) が米国 US No.2 等級のBCFM 上限値である 3.0% 以下である。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA のBCFM 平均値はそれぞれ 0.3%、0.4% および 0.3% であり、米国 (US) No.1 等級の限界値を下回っている。

破損粒&異物 (BCFM) (%)**重量パーセントとして測定した破損粒および異物****破損粒&異物 (BCFM) (%)****2025 年輸出拠点地域別平均****破損粒&異物 (BCFM) (%)****収穫年別サンプル割合**
■ 2023 ■ 2024 ■ 2025

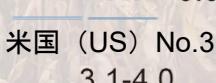
97.2 98.3 99.5



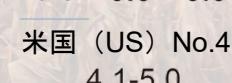
1.3 0.9 0.5



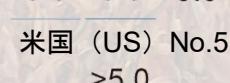
0.8 0.5 0.0



0.3 0.0 0.0



0.3 0.3 0.0



破損粒

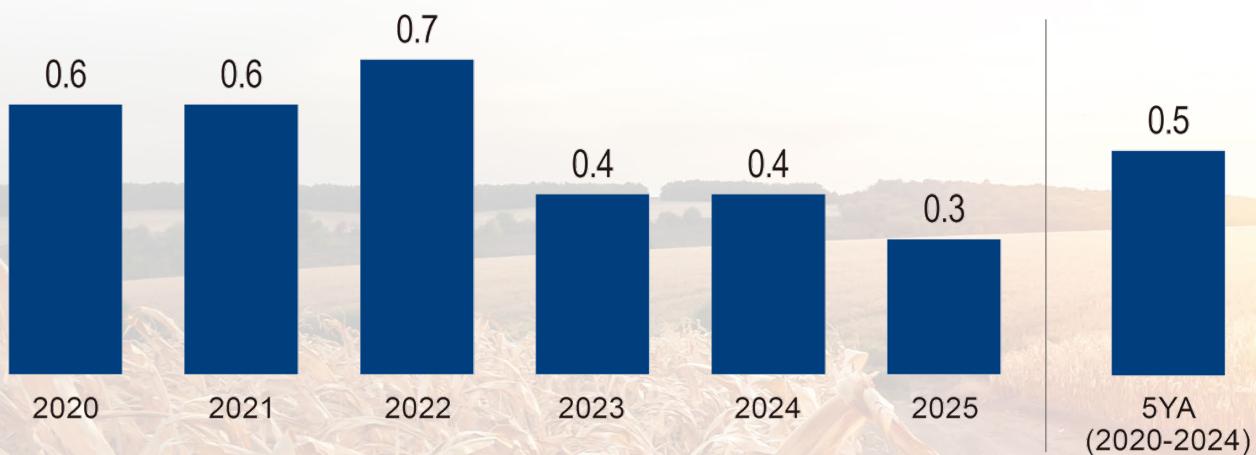
米国等級では破損粒は穀粒のサイズに基づいて測定され、通常わずかな割合ながらトウモロコシ粒以外の物質が含まれます。破損粒は完全粒よりもカビや害虫の被害を受けやすく、取扱いや加工上の問題を引き起こすことがあります。貯蔵大型BIN内で拡散させたりかき混ぜたりしなければ、破損粒はBIN内の中央にたまりやすく、完全粒は外縁に移動する傾向があります。破損粒が集まりやすい中央部分は「スパウトライン」として知られています。必要に応じて、BINの中央からこうしたトウモロコシ粒を引き出すことでスパウトラインを低減することができます。

結果

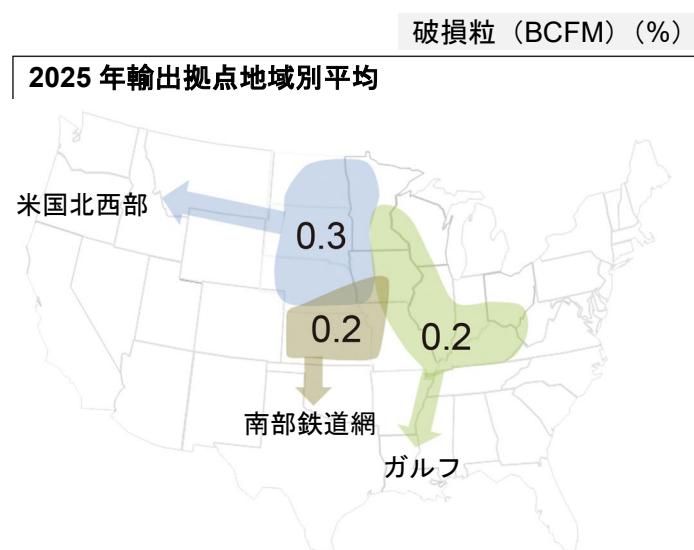
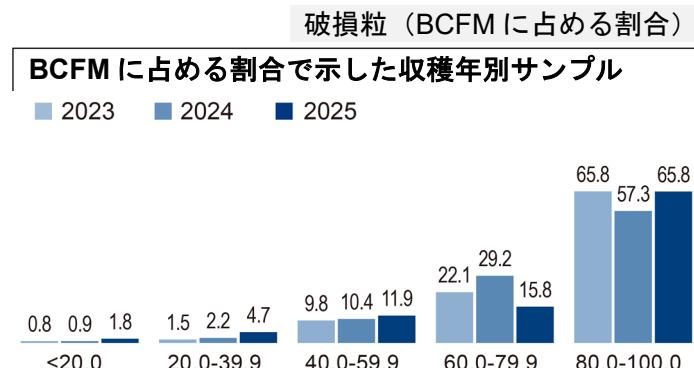
- 2025 年のサンプルの破損粒米国集計平均値は 0.3% で、2024 年 (0.4%)、2023 年 (0.4%)、5YA (0.5%) および 10YA (0.6%) を下回っている。
- 2025 年のトウモロコシでは、サンプル間の破損粒のばらつきは標準偏差からわかるように 2024 年および 2023 年をわずかに下回っている。2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA の標準偏差はそれぞれ 0.15%、0.26%、0.35%、0.34%、および 0.36% である。
- 2025 年の破損粒のばらつき幅は 1.6% (0.0~1.6%) で、2024 年の 4.6% (0.0~4.6%) と 2023 年の 5.0% (0.0~5.0%) を下回っている。

破損粒 (%)

米国集計結果の概要



- 2025 年のサンプルの分布をみると、破損粒の値は 1.0%以上のものが 0.8%を占め、これに対し 2024 年は 6.5%、2023 年は 7.1%である。
- BCFM に占める破損粒の割合を示した右の分布図では、65.8%のサンプルにおいて、BCFM が 80.0%以上破損粒により構成されていることを示している。
- 破損粒の割合は、ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA はそれぞれ 0.2%、0.3%、および 0.2%である。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



異物

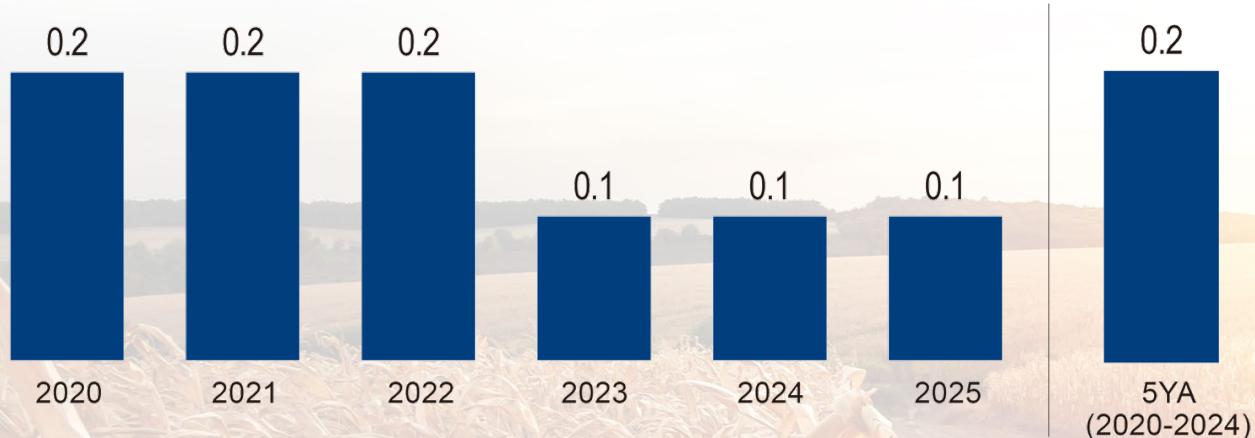
異物は、飼料や加工用としての価値を落とす重大な要因です。一般に、異物はトウモロコシよりも水分含量が高く、そのため保管中のトウモロコシの質を低下させる可能性があります。加えて、異物は（「破損粒」のセクションで述べたように）スパウトラインの原因にもなります。水分含量が多いため、破損粒より多くの品質問題を引き起こす可能性も高くなります。

結果

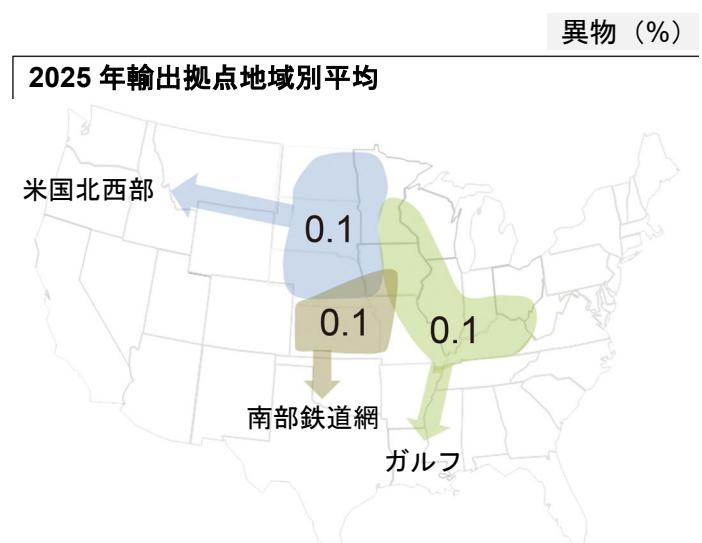
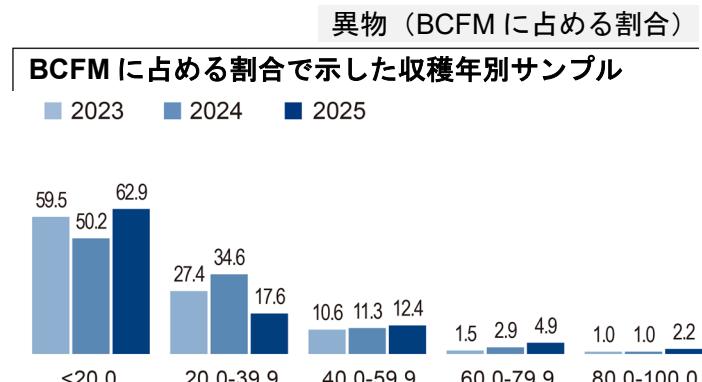
- 2025 年の米国集計サンプルに占める異物の割合の平均値は 0.1% で、5YA および 10YA (いずれも 0.2%) を下回る。しかし、2025 年の平均値は 2024 年 (0.1%) と 2023 年 (0.1%) より低い統計的な差がある。コンバインは極小の物質でも除去するように設計されており、対象年を通して混入異物の割合が一貫して低いことから判断して、コンバインの機能が十分に発揮されていると考えられる。
- 標準偏差で示されるばらつきについては、2025 年の米国集計サンプル (0.12%) は 2024 年 (0.19%)、2023 年 (0.16%)、5YA (0.20%) および 10YA (0.22%) とほぼ同じである。
- 2025 年サンプルの異物のばらつき幅は 0.0~1.9% で、2024 年 (0.0~3.5%) および 2023 年 (0.0~2.3%) を下回る。

異物 (%)

米国集計結果の概要

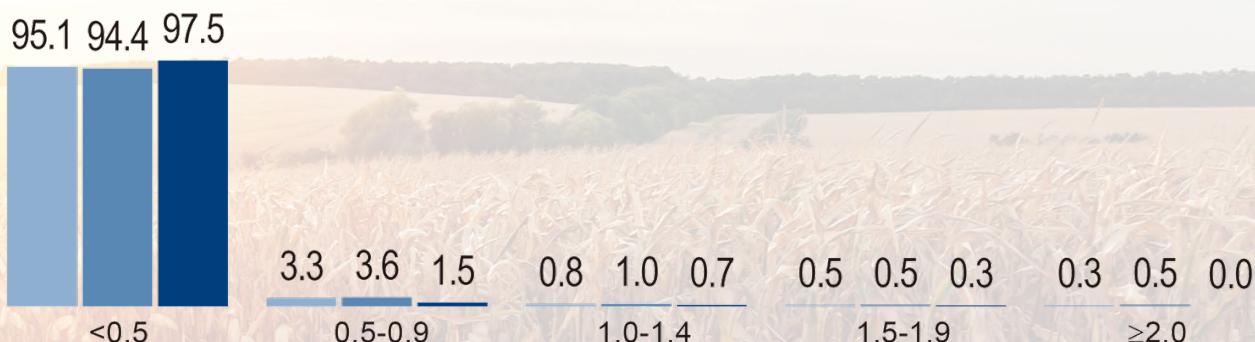


- 2025 年のトウモロコシでは異物の値が 0.5%未満のサンプルは 97.5%で、2024 年 (94.4%) および 2023 年 (95.1%) とほぼ同じである。
- BCFM に占める異物の割合を示す右の分布図は、サンプルの 62.9%で異物が BCFM の 20.0%未満であることを示している。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の異物の割合は、いずれも 0.1%である。どの ECA の異物平均値も、2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のすべてで 0.2%以下となっている。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



総損傷

総損傷率とは、カビ、霜、害虫、発芽、病害、天候、土壤、細菌および熱に起因する損傷を含め、どのようななかたちであれ、目視検出可能な被害や損傷のある穀粒とそのかけらの割合です。熱損傷は総損傷の一部であり、許容値が米国等級基準で別途定められています。こうした種類の損傷の大半は一種の退色や穀粒の質感の変化を引き起こします。割れていること以外に外観上の異常が見られない穀粒のかけらは損傷粒に含めません。

一般に、カビによる被害は生育期間中または保管期間中の水分含量の高さや高温と関係付けられます。ディプロディア属、アスペルギルス属、ザリウム属、ジベレラ属等、圃場の複数のカビ類は気象条件がこうした菌の発生に適している場合には生育期間中のカビ被害に結びつくことがあります。カビ被害の原因となる菌類の中にはマイコトキシンを産生するものもありますが、すべての菌類がマイコトキシンを産生するわけではありません。トウモロコシを乾燥させ、冷却して低温にすると、カビの発生する可能性は減ります。

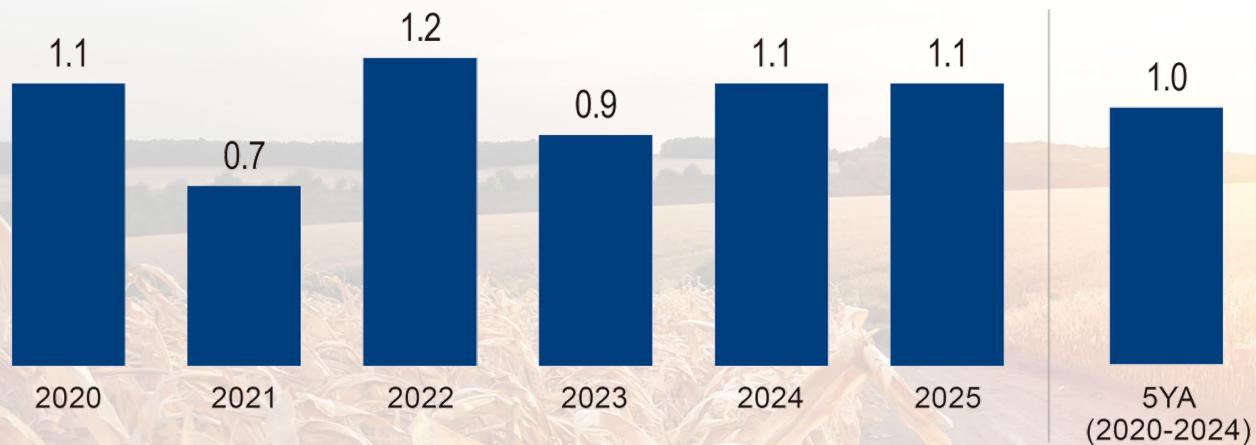
熱損傷は、暖かく湿ったトウモロコシ中の微生物の活動や乾燥工程で加えた高熱により発生することがあります。収穫時に圃場から直接運ばれてくるトウモロコシに熱損傷が存在することは稀です。

結果

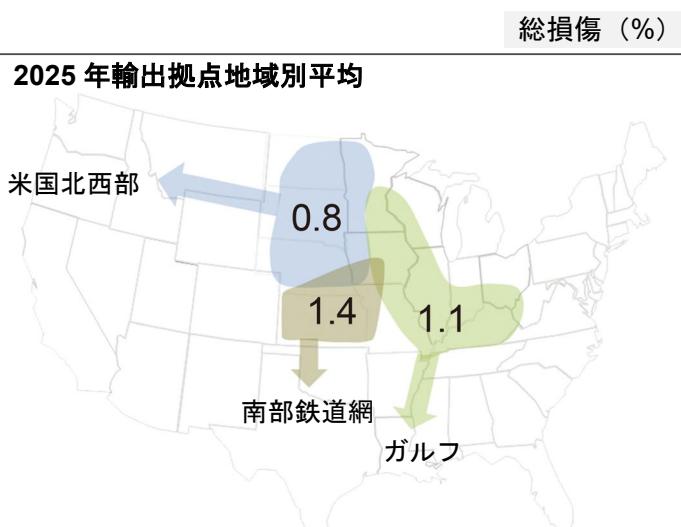
- 2025年の米国集計の総損傷平均値（1.1%）は2024年（1.1%）と同じで、2023年（0.9%）および5YA（1.0%）を上回っているが、10YA（1.5%）を下回っている。2025年の総損傷平均値は米国（US）No.1等級の限界値（3.0%）を大きく下回っている。

総損傷 (%)

米国集計結果の概要

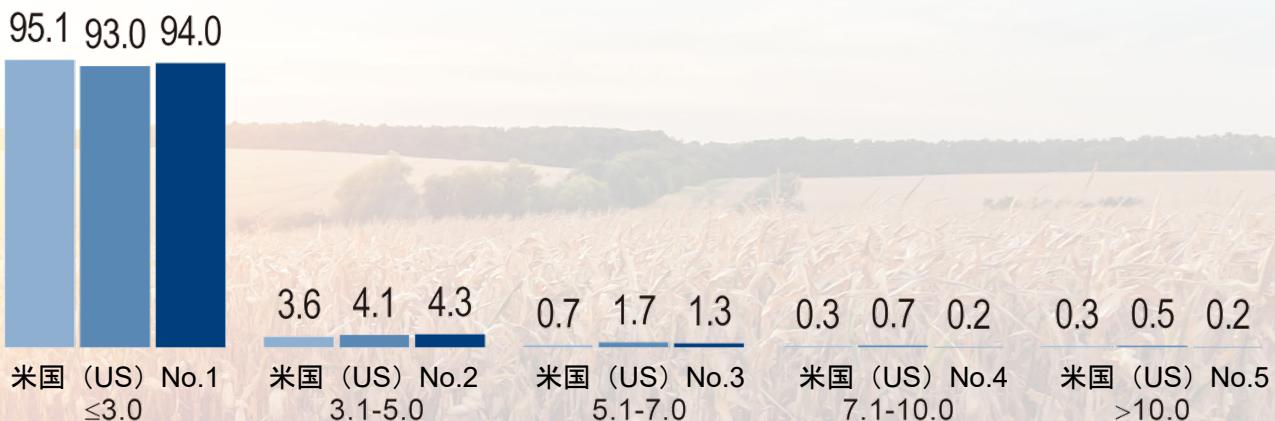


- 標準偏差に基づく 2025 年の総損傷のばらつき (0.89%) は、2024 年 (1.05%)、2023 年 (0.88%)、5YA (0.93%) および 10YA (1.20%) とほぼ同じである。
- 2025 年の総損傷のばらつき幅(0.0~11.4%)は 2024 年(0.0~21.3%)および 2023 年(0.0~26.0%)を下回っている。
- 2025 年、総損傷が 3%以下のサンプルの割合 (94.0%) は 2024 年 (93.0%) および 2023 年 (95.1%) とほぼ同じである。
- 総損傷平均値はガルフ ECA が 1.1%、米国北西部 ECA が 0.8%、南部鉄道網 ECA が 1.4%となって いる。2025 年、2024 年、2023 年、5YA お よび 10YA の総損傷平均値は、ECA の中で 米国北西部が最も低い。すべての ECA の 総 損傷 平 均 値 は 米 国 (US) No.1 等級の限界値 (3.0%) 以下である。
- 2025 年サンプルの熱損傷の集計平均値は 0.0%であり、これは 2024 年、2023 年、5YA および 10YA と同じである。
- 試験した 2025 年の調査対象サンプルで 0.0%を上回るものはなかった。熱損傷がな かった理由のひとつは、おそらく圃場から エレベーターに直接運ばれた新鮮なサンプ ルで、人工乾燥が最小限に抑えられていたためと考えられる。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



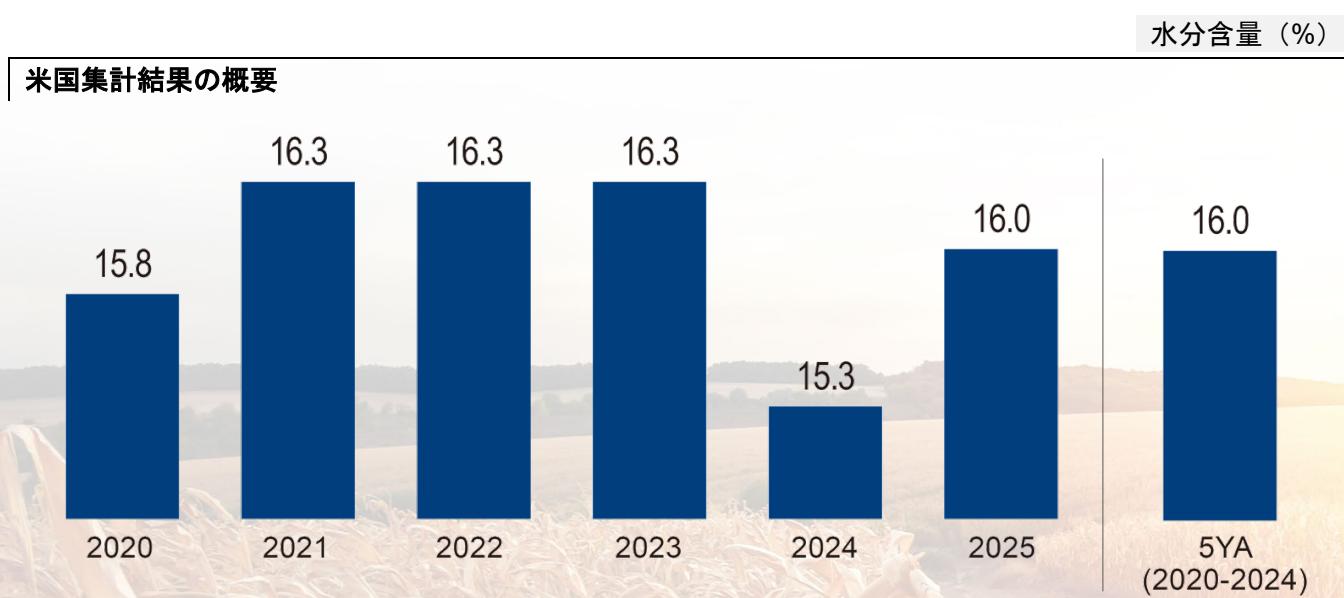
B. 水分含量

水分含量は公的な等級証明書に記載され、多くの場合、契約では最大水分含量が規定されます。ただし、水分含量は等級ファクターではないため、サンプルの等級付けに影響を及ぼすことはありません。水分含量は販売時の乾物量に影響を与えるため重視されます。水分含量は乾燥の必要性を示す指標であり、保管性を示します。収穫時の水分含量が多いと収穫作業中や乾燥時に穀粒が損傷を受ける可能性が高まり、必要とされる乾燥の程度がストレスクラックや破損にも影響を及ぼします。

極端に水分が多く含まれるトウモロコシでは、後の保管や輸送の期間中にカビにより著しい損傷が発生しやすくなることがあります。生育期間中、トウモロコシの単収や穀粒の組成・成長は気候の影響を受ける一方、収穫時のトウモロコシの水分含量は主に作物の成熟度や収穫のタイミング、収穫時の気象条件の影響を受けます。水分と保管についての一般的なガイドラインでは、米国コーンベルト地帯の典型的な条件下において、良好な品質で損傷なくトウモロコシを通気のある場所で 6~12 か月間保管するには 14.0%以下、1 年を超える保管には 13.0%以下の水分含量を推奨しています²。

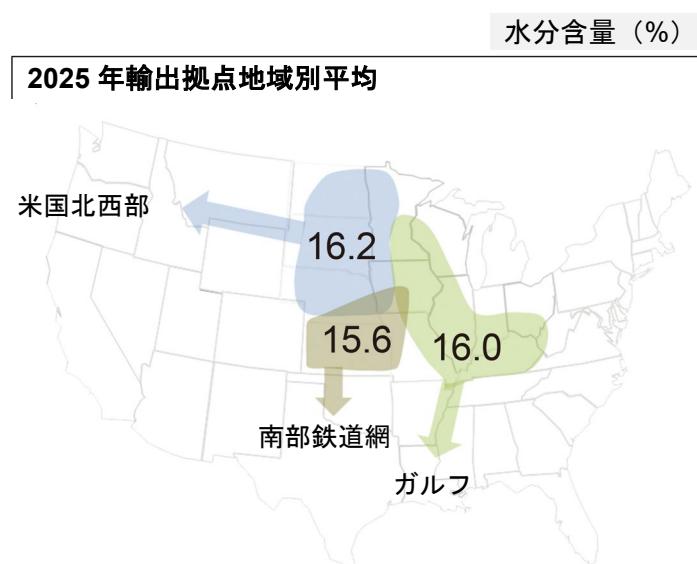
結果

- エレベーターにおいて記録された 2025 年の米国集計水分含量の平均値 16.0%で、2024 年(15.3%)を上回っていて、2023 年 (16.3%) および 10YA (16.2%) を下回っていて、5YA と同じである。過去 15 年の米国集計水分含量の平均値の幅は、2024 年および 2012 年の 15.3%が最小値で、2019 年の 17.5%が最大値である。



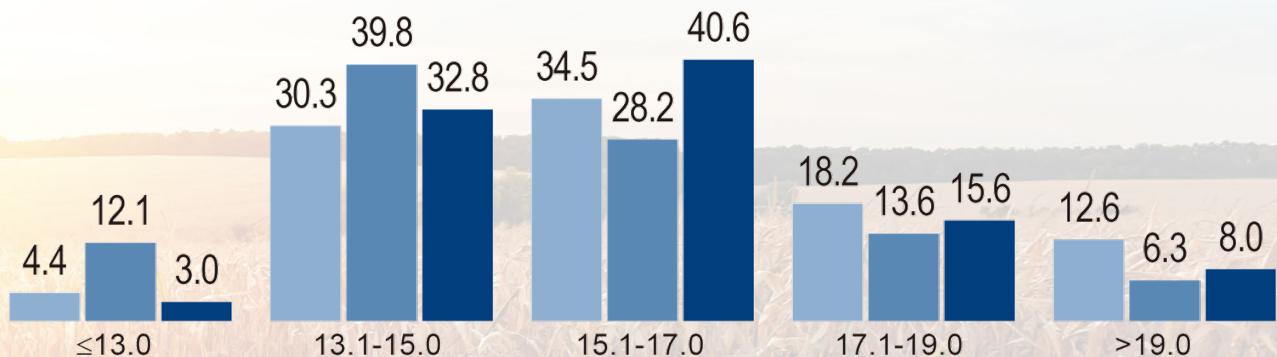
² MWPS-13 (2017 年) 「穀物の乾燥、取扱いおよび保管についてのハンドブック」 Midwest Plan Service No. 13。アイオワ州立大学 Ames, IA 50011

- 2025 年米国集計水分含量の標準偏差(1.65%)は 2024 年(1.74%)とほぼ同じだが、2023 年(1.95%)、5YA (1.91%) および 10YA (1.84%) を下回っている。
- 水分含量が 17.0%を超える 2025 年サンプルの割合は 23.6%で、これに対し 2024 年は 19.9%、2023 年は 30.8%である。水分含量を監視して十分低く維持し、カビが増殖する可能性を回避し貯蔵寿命が短くならないよう注意する必要がある。
- 2025 年の分布をみると、サンプルの中で水分含量が 15.0%以下のものの割合は 35.8%である。一般に、エレベーターでの値引きの基準値となるのが 15.0%である。この水分含量は冬季低温時の短期保管には安全なレベルと考えられている。
- 水分含量が 13.0%以下の 2025 年サンプルはわずかに 3.0%で、これに対し 2024 年は 12.1%、2023 年は 4.4%である。13.0%以下の水分含量は、一般に長期間の保管および輸送に安全と考えられている。
- 2025 年のガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の水分含量平均値は、それぞれ 16.0%、16.2%、15.6%である。2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれにおいても、南部鉄道網 ECA の水分含量平均値がすべての ECA 地域の中で最も低かった。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



まとめ：等級ファクターと水分含量

2025 収穫					2024 収穫		2023 収穫		5 年平均 (2020~2024)		10 年平均 (2015~2024)	
	サンプル 数 ¹	平均	標準 偏差	最小	最大		標準 平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
米国集計						米国集計			米国集計		米国集計	
容積重 (lb/bu)	599	58.6	1.37	52.6	63.6	58.9*	1.27	58.4*	1.23	58.6	1.24	58.3* 1.23
容積重 (kg/hl)	599	75.4	1.77	67.7	81.9	75.8*	1.63	75.2*	1.58	75.4	1.59	75.1* 1.58
BCFM (%)	599	0.3	0.21	0.0	2.6	0.6*	0.38	0.5*	0.45	0.7*	0.47	0.8* 0.52
破損粒 (%)	599	0.3	0.15	0.0	1.6	0.4*	0.26	0.4*	0.35	0.5*	0.34	0.6* 0.36
異物 (%)	599	0.1	0.12	0.0	1.9	0.1*	0.19	0.1*	0.16	0.2*	0.20	0.2* 0.22
総損傷 (%)	599	1.1	0.89	0.0	11.4	1.1	1.05	0.9*	0.88	1.0*	0.93	1.5* 1.20
熱損傷 (%)	599	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0*	0.00	0.0* 0.00
水分含量 (%)	609	16.0	1.65	11.4	27.8	15.3*	1.74	16.3*	1.95	16.0	1.91	16.2* 1.84
ガルフ						ガルフ			ガルフ		ガルフ	
容積重 (lb/bu)	572	58.7	1.50	52.6	63.6	59.0*	1.38	58.6	1.26	58.6	1.30	58.5* 1.24
容積重 (kg/hl)	572	75.6	1.93	67.7	81.9	75.9*	1.77	75.4	1.62	75.5	1.68	75.3* 1.60
BCFM (%)	572	0.3	0.21	0.0	2.6	0.6*	0.39	0.6*	0.51	0.7*	0.50	0.7* 0.53
破損粒 (%)	572	0.2	0.14	0.0	1.6	0.4*	0.26	0.5*	0.39	0.5*	0.36	0.6* 0.37
異物 (%)	572	0.1	0.12	0.0	1.9	0.1*	0.20	0.1*	0.17	0.2*	0.20	0.2* 0.23
総損傷 (%)	572	1.1	0.95	0.0	11.4	1.4*	1.29	1.0*	0.92	1.2	1.11	1.7* 1.38
熱損傷 (%)	572	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0*	0.00	0.0* 0.00
水分含量 (%)	585	16.0	1.77	11.4	27.8	15.6*	1.84	16.4*	2.08	16.4*	2.04	16.5* 1.92
米国北西部						米国北西部			米国北西部		米国北西部	
容積重 (lb/bu)	262	57.7	1.13	52.9	62.3	58.4*	0.97	57.6	1.03	58.1*	1.07	57.7 1.20
容積重 (kg/hl)	262	74.3	1.46	68.1	80.2	75.1*	1.24	74.2	1.33	74.8*	1.38	74.3 1.55
BCFM (%)	262	0.4	0.22	0.0	1.4	0.6*	0.35	0.5*	0.31	0.7*	0.44	0.8* 0.53
破損粒 (%)	262	0.3	0.18	0.0	1.2	0.4*	0.25	0.4*	0.23	0.6*	0.31	0.6* 0.38
異物 (%)	262	0.1	0.10	0.0	1.1	0.1*	0.16	0.1	0.12	0.2*	0.19	0.2* 0.21
総損傷 (%)	262	0.8	0.66	0.0	7.4	0.4*	0.37	0.6*	0.73	0.5*	0.59	0.8 0.86
熱損傷 (%)	262	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0*	0.00	0.0* 0.00
水分含量 (%)	269	16.2	1.55	11.5	24.7	14.9*	1.50	16.5	1.74	15.5*	1.67	16.0* 1.79
南部鉄道網						南部鉄道網			南部鉄道網		南部鉄道網	
容積重 (lb/bu)	342	59.3	1.29	52.6	63.6	59.3	1.24	58.7*	1.35	58.9*	1.23	58.8* 1.20
容積重 (kg/hl)	342	76.3	1.66	67.7	81.9	76.3	1.59	75.6*	1.74	75.8*	1.59	75.6* 1.55
BCFM (%)	342	0.3	0.20	0.0	2.1	0.5*	0.37	0.5*	0.46	0.7*	0.46	0.7* 0.46
破損粒 (%)	342	0.2	0.15	0.0	1.6	0.4*	0.26	0.4*	0.35	0.5*	0.33	0.6* 0.33
異物 (%)	342	0.1	0.11	0.0	1.9	0.1*	0.17	0.1*	0.17	0.2*	0.20	0.2* 0.20
総損傷 (%)	342	1.4	1.01	0.0	7.0	1.1*	1.05	0.9*	0.94	1.0*	0.87	1.4 1.06
熱損傷 (%)	342	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0*	0.00	0.0* 0.00
水分含量 (%)	341	15.6	1.44	11.9	27.8	14.6*	1.70	15.8	1.83	15.3*	1.83	15.5 1.63

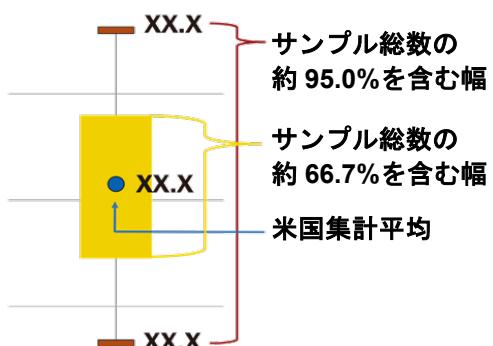
*は有意水準 95.0% で実施した両側 t 検定に基づき、平均値が本年との間で有意な差を示していることを意味する。

¹ ECA の結果は複合統計であるため、ECA のサンプル数の合計は米国集計を超える。本年の報告書では 621 サンプルを試験したが、重量が 1000 グラム以下のサンプルがいくつ含まれていたため、等級ファクターごとの試験結果は 621 未満である。12 サンプルに参加したエレベーターのサンプルバッグ上には流入水分含量が示されていなかったため、水分含量が含まれたサンプルは 609 しかない。

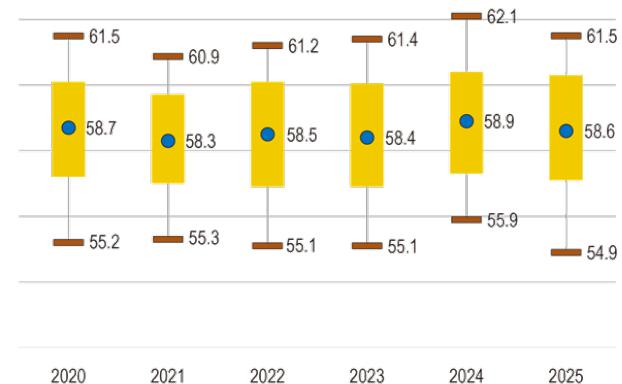
等級ファクター

6年集計比較

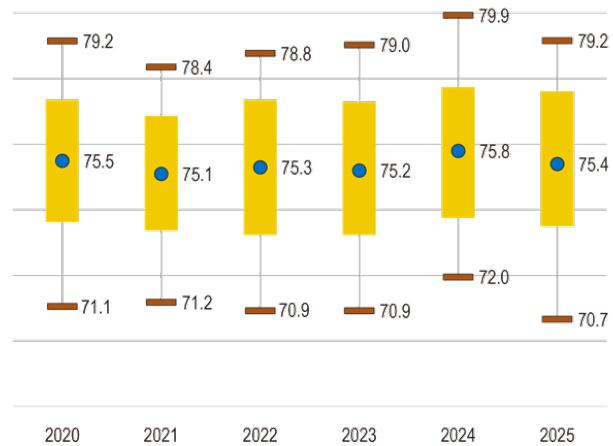
チャートの見方



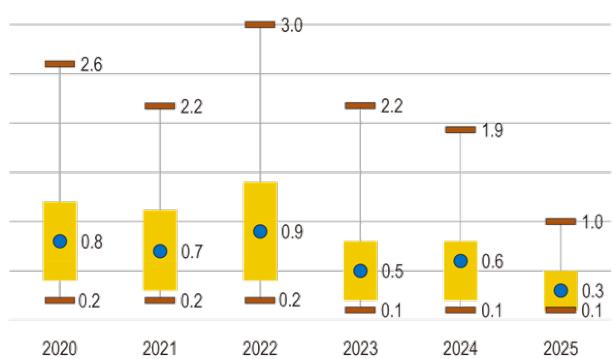
容積重 (lb/bu)



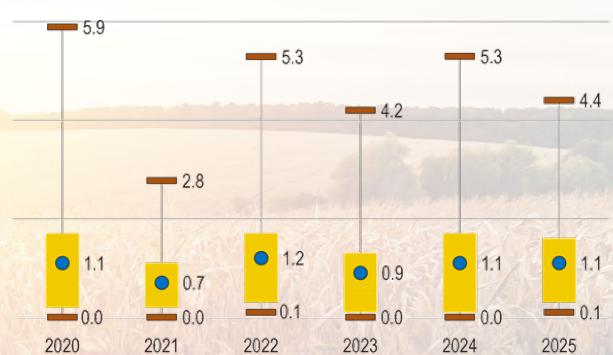
容積重 (kg/hl)



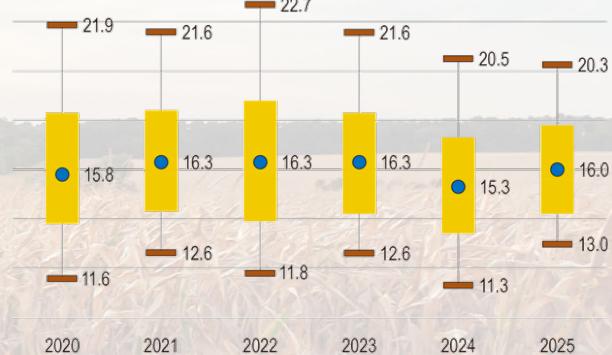
BCFM (%)



総損傷 (%)



水分含量 (%)



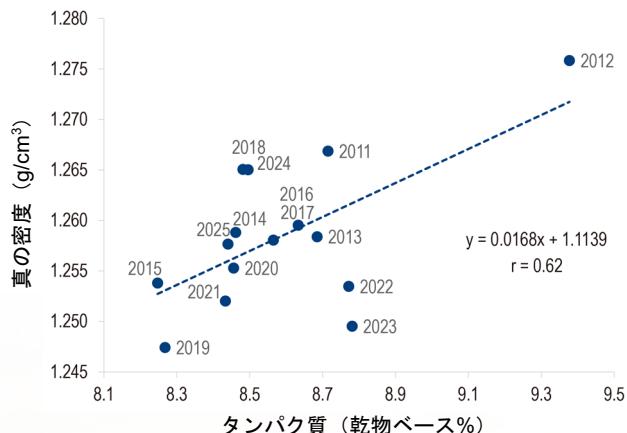
C. 化学組成

トウモロコシの化学組成は主としてタンパク質やデンプン、油分から構成されています。こうした化学組成は等級ファクターではありませんが、エンドユーザーは非常に強い関心を持っています。化学組成の値は、家畜・家禽類の飼料の栄養価値や、ウェットミリング等トウモロコシを加工するための追加的な情報となるものです。多くの物理特性とは異なり、化学組成の値は保管中または輸送中に大幅に変化するとは考えられません。

概要：化学組成

- 2025 年の米国集計タンパク質含量平均値（乾物ベース 8.4%）は 2024 年（8.5%）と同じだが、2023 年（8.8%）、5YA（8.6%）および 10YA（8.5%）を下回っている。
- 南部鉄道網のタンパク質含量は、2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれでも ECA の中で最も高いか、最も高い ECA と同じである。
- 右図に示すように、過去 15 年の米国集計平均値を基準として、タンパク質含量が増加すると、真の密度も上昇している（結果として相関係数は 0.62）。一般に、真の密度が低い年はタンパク質含量が低下し、真の密度が高い年はタンパク質含量が上昇する。
- 2025 年の米国集計デンプン含量平均値（乾物ベース 72.3%）は 2024 年（72.2%）とほぼ同じで、2023 年（71.9%）および 5YA（72.1%）を上回っているが、10YA（72.4%）を下回っている。

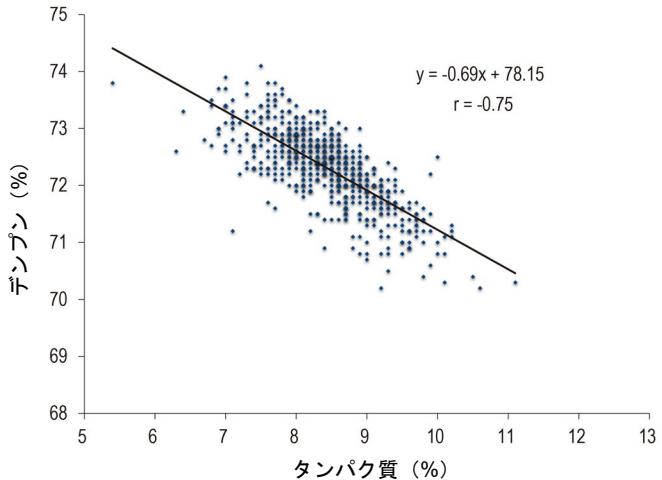
**真の密度とタンパク質の相関
15 年間の米国集計**



概要：化学組成

- デンプンとタンパク質はトウモロコシの二大栄養成分であるため、通常一方の割合が上昇すると他方が低下する。この関係を示したものが右の図で、デンプンとタンパク質との間に負の相関関係 ($r = -0.75$) があることがわかる。
- 2025 年の米国集計油分含量平均値（乾物ベース 3.8%）は 2023 年と同じだが、2024 年、5YA および 10YA（いずれも 3.9%）を下回る。
- 2025 年のガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の油分含量平均値はそれぞれ 3.8%、3.9% および 3.8% である。2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA の油分含量平均値のばらつきは、ECA 間で一貫して 0.2% 以内である。

デンプンとタンパク質の相関、2025 年米国集計



タンパク質

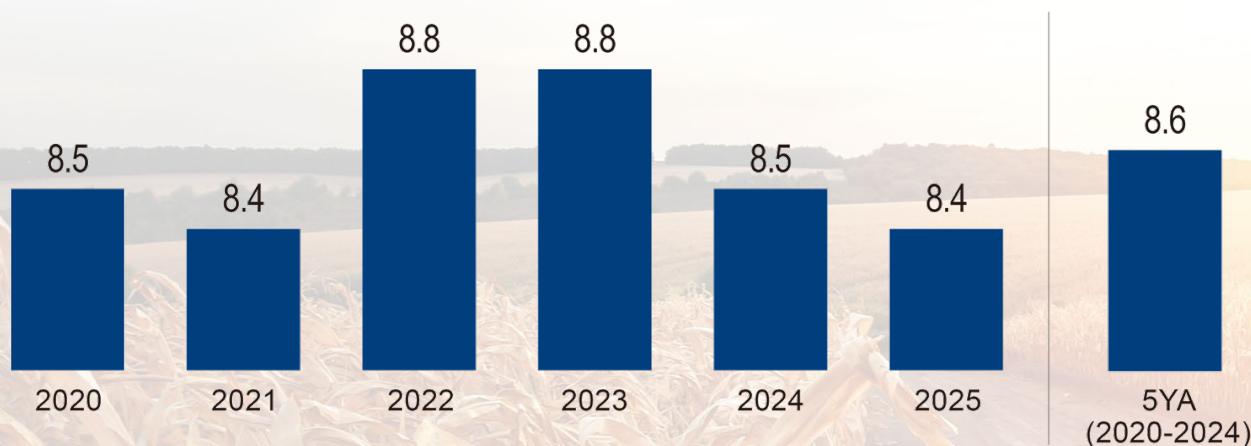
タンパク質は必須含硫アミノ酸を供給し、飼料要求効率を改善するという点で、家禽類および家畜用の飼料にとって非常に重要です。タンパク質は土壤中の可給態窒素が減ったときや収量の高い年には含量が低下する傾向があります。タンパク質の含量は、通常、デンプンの含量と負の相関関係にあります。報告結果は乾物ベースの値です。

結果

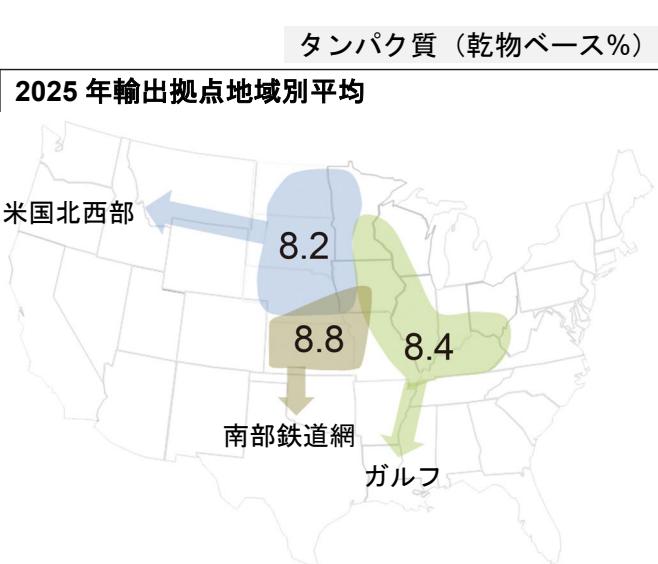
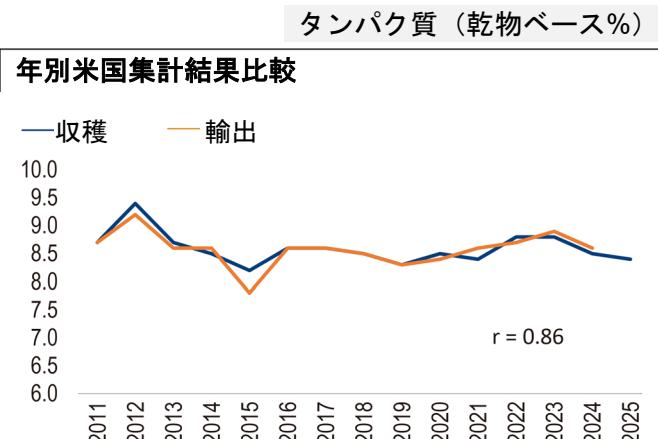
- 2025 年の米国集計タンパク質含量平均値 (8.4%) は 2024 年 (8.5%) とほぼ同じだが、2023 年 (8.8%)、5YA (8.6%) および 10YA (8.5%) を下回っている。
- 2025 年の米国集計タンパク質の標準偏差平均値 (0.53%) は 2024 年 (0.60%) を下回っているが、2023 年 (0.56%)、5YA (0.56%) および 10YA (0.54%) とほぼ同じである。
- 2025 年のタンパク質含量のばらつき幅 (5.4~11.1%) は 2024 年 (6.0~11.6%) および 2023 年 (6.9 ~12.8%) の幅とほぼ同じである。
- 2025 年のタンパク質含量の分布では、8.0%未満のものが 23.5%、8.0~8.9%のものが 53.9%、9.0% 以上のものが 22.5%を占めている。2025 年のタンパク質含量分布から、タンパク質含量の多いサンプル数は 2024 年と 2023 年よりも少ないことを示している。

タンパク質 (乾物ベース%)

米国集計結果の概要

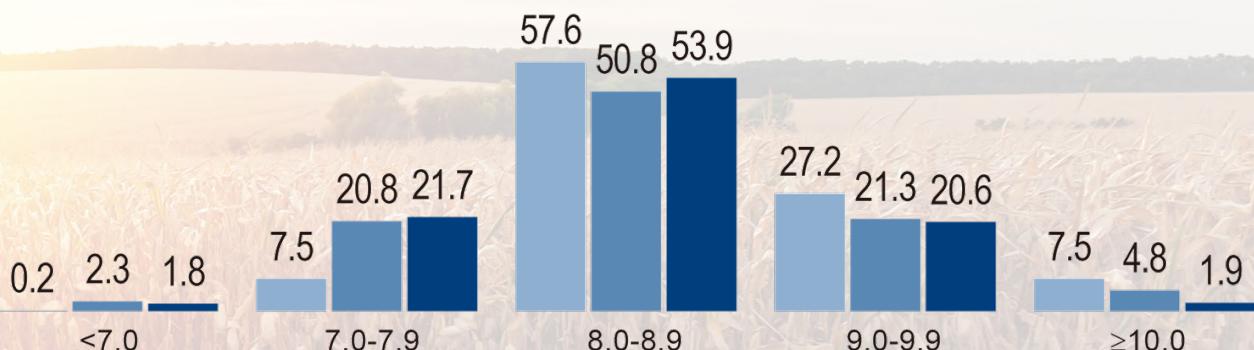


- 収穫から輸出までの追加的な取扱い、ブレンドおよび保管は化学組成の平均値にほとんど影響を及ぼしていない。各年の「収穫時報告書」と「輸出貨物報告書」では、ほぼ同じ化学組成が見られる。右の折れ線グラフは、2011年から2024年までの報告書に記載される米国集計タンパク質含量を示している。高い相関係数($r=0.86$)はこの一致性を示している。
- ガルフECA、米国北西部ECAおよび南部鉄道網ECAのタンパク質含量平均値はそれぞれ8.4%、8.2%および8.8%である。南部鉄道網ECAのタンパク質含量は、2025年、2024年、2023年、5YAおよび10YAのいずれでもECAの中で最も高いか、最も高いECAと同じである。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



デンプン

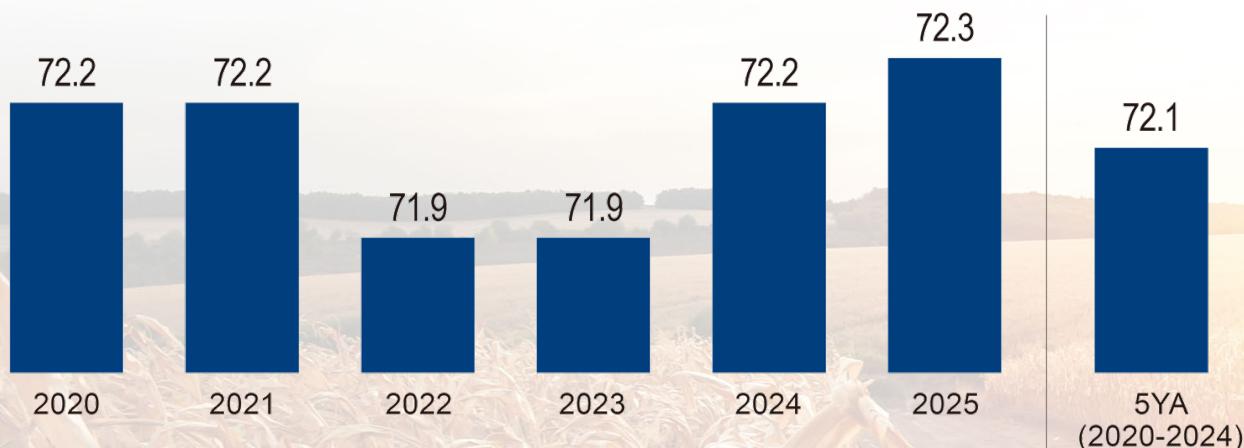
デンプンはウェットミリング業者や乾式粉碎エタノール製造業者が用いるトウモロコシには重要なファクターです。デンプン含量の高さは、多くの場合、穀粒の生育・登熟状態が良好であり、穀粒密度も適度であることを示唆します。通常、デンプン含量はタンパク質含量と負の相関関係にあります。報告結果は乾物ベースの値です。

結果

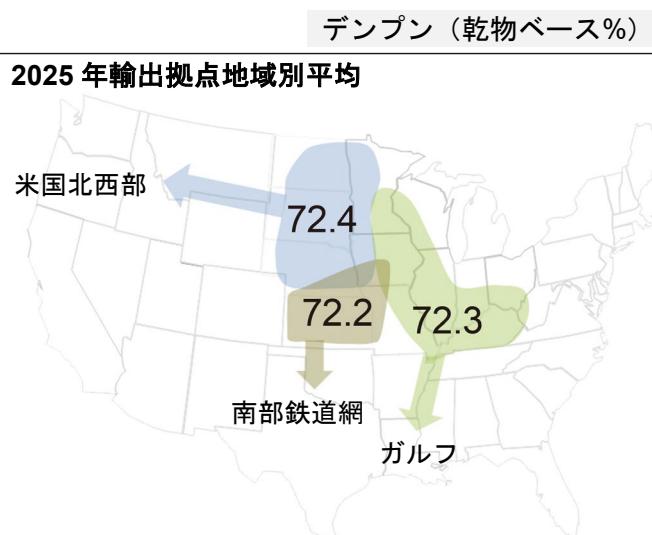
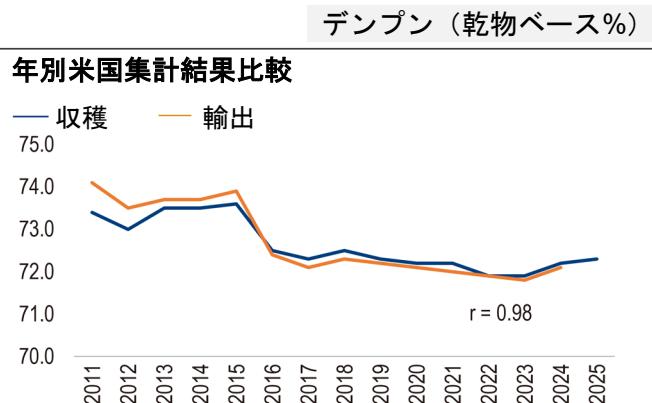
- 2025年の米国集計デンプン含量の平均値（乾物ベース 72.3%）は2024年（72.2%）とほぼ同じで、2023年（71.9%）および5YA（72.1%）を上回っているが、10YA（72.4%）を下回っている。
- 2025年の米国集計デンプン標準偏差値（0.55%）は2024年（0.65%）、2023年（0.61%）、5YAおよび10YA（いずれも0.60%）を下回っている。
- 2025年のデンプン含量のばらつき幅（70.2～74.1%）は2024年（69.7～74.3%）および2023年（68.4～73.7%）を下回っている。
- 2025年のデンプン含量の分布では、72.0%未満のサンプルが26.2%、72.0～72.9%のものが58.8%、73.0%以上のものが15.0%を占めている。

デンプン（乾物ベース%）

米国集計結果の概要

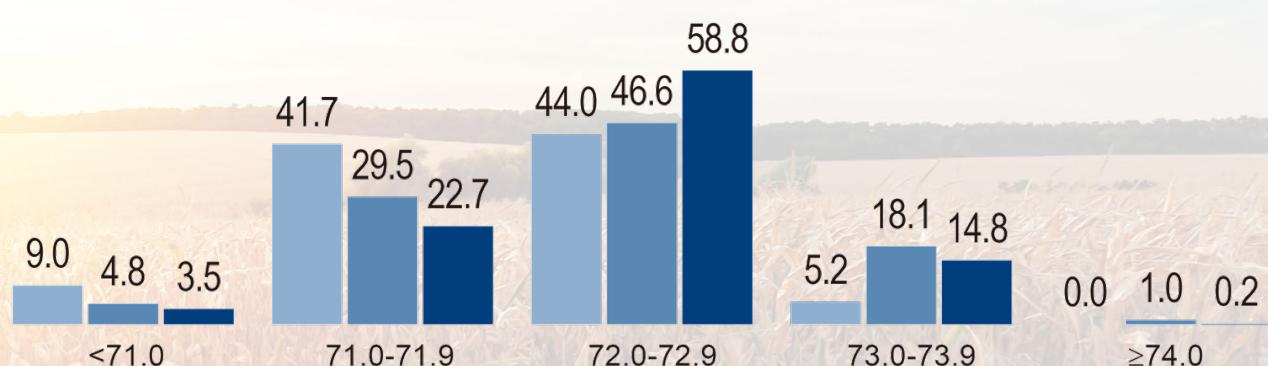


- 収穫から輸出までの追加的な取扱い、ブレンドおよび保管は化学組成の平均値にほとんど影響を及ぼしていない。各年の「収穫時報告書」と「輸出貨物報告書」では、ほぼ同じ化学組成が見られる。右の折れ線グラフは、2011年から2024年までのこれらの報告書のそれぞれに見られる米国集計デンプン含量を示している。高い相関係数 ($r = 0.98$) はこの一致性を示している。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA のデンプン含量平均値はそれぞれ 72.3%、72.4% および 72.2% である。ガルフ ECA のデンプン含量平均値は、2025 年を除き、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれでも ECA の中で最も高いか、最も高い ECA と同じである。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



油分

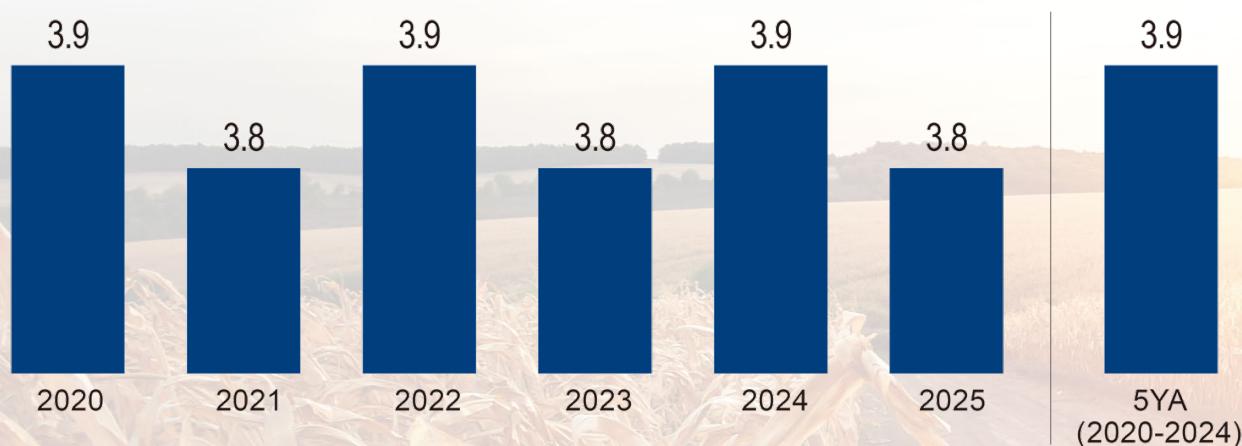
油分は家禽類および家畜用の飼料にとって必須の成分です。油分はエネルギー源であり、脂溶性ビタミンを利用可能にし、特定の必須脂肪酸をもたらします。油分はトウモロコシのウェットミリングおよびドライミリング工程の重要な併産物でもあります。報告結果は乾物ベースの値です。

結果

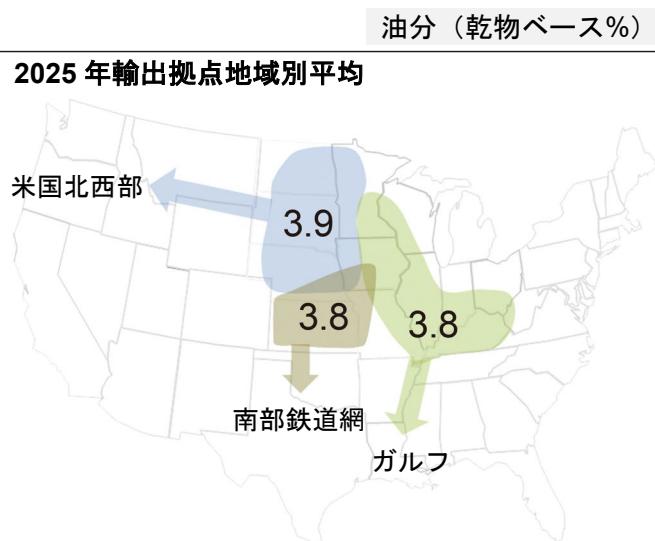
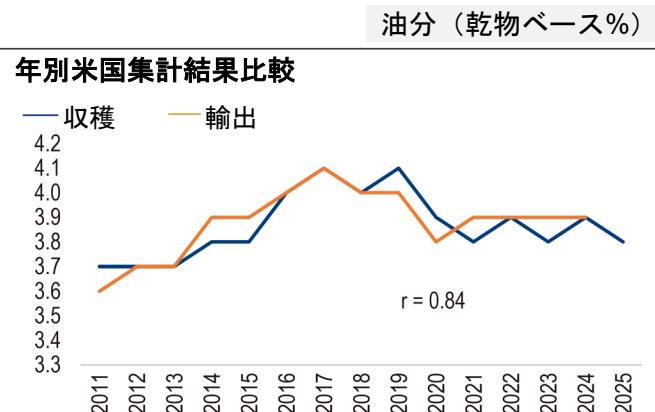
- 2025 年の米国集計油分含量の平均値 (3.8%) は 2023 年と同じだが、2024 年、5YA および 10YA (いずれも 3.9%) を下回る。
- 2025 年の米国集計油分含量サンプルの標準偏差 (0.23%) は、2024 年 (0.24%)、2023 年 (0.23%)、5YA (0.23%) および 10YA (0.24%) と同じか、ほぼ同じである。
- 2025 年の油分含量のばらつき幅 (2.9~5.0%) は 2024 年 (3.0~4.8%) および 2023 年 (3.2~4.6%) を上回る。
- 2025 年の油分含量の分布では、3.7%未満のサンプルが 27.4%、3.7~4.2%のものが 68.4%、4.3% 以上のものが 4.2% を占めている。

油分（乾物ベース%）

米国集計結果の概要

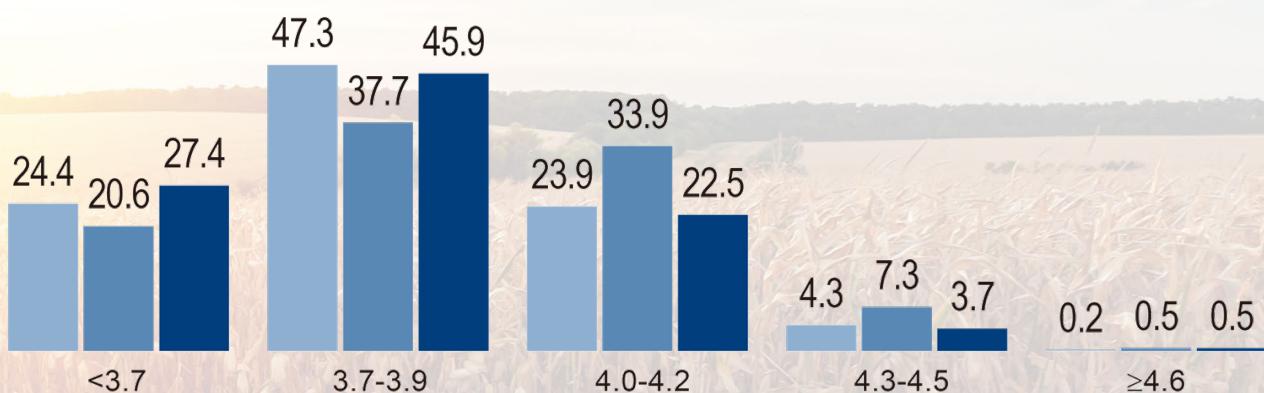


- 収穫から輸出までの追加的な取扱い、ブレンドおよび保管は化学組成の平均値にほとんど影響を及ぼしていない。各年の「収穫時報告書」と「輸出貨物報告書」では、ほぼ同じ化学組成が確認される。右の折れ線グラフは、2011 年から 2024 年までのこれらの報告書のそれぞれに見られる米国集計油分含量を示している。高い相関係数 ($r = 0.84$) はこの一致性を示している。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の油分含量平均値はそれぞれ 3.8%、3.9%、3.8%である。2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれにおいても、ECA 間の油分含量平均値のばらつきは 0.2%以下である。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



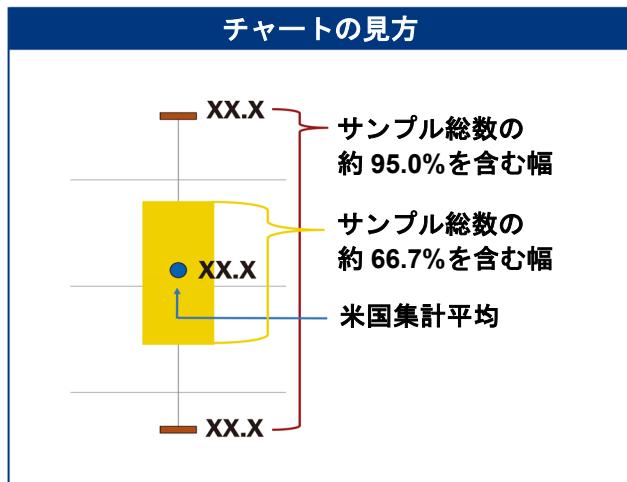
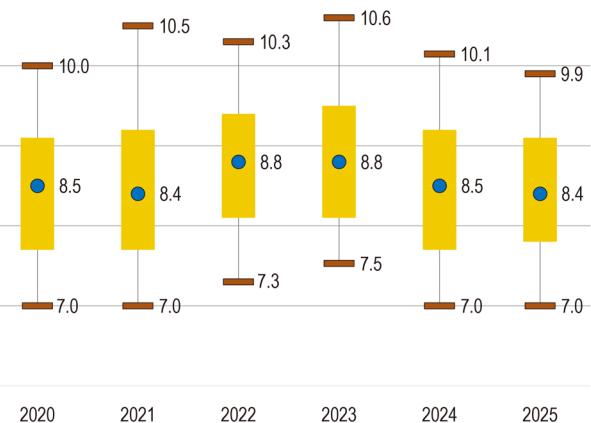
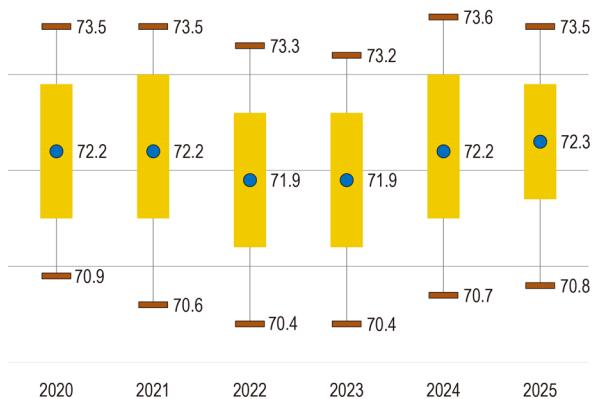
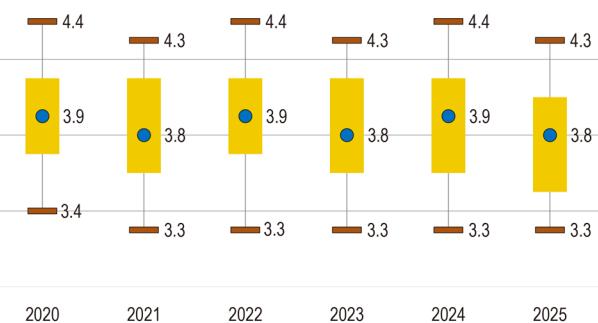
まとめ：化学組成

2025 収穫					2024 収穫		2023 収穫		5年平均 (2020~2024)		10年平均 (2015~2024)	
	サンプル 数 ¹	標準 平均	標準 偏差	最小	最大		標準 平均	標準 偏差		標準 平均	標準 偏差	
米国集計					米国集計		米国集計		米国集計		米国集計	
タンパク質 (乾物ベース%)	621	8.4	0.53	5.4	11.1	8.5	0.60	8.8*	0.56	8.6*	0.56	8.5* 0.54
デンプン (乾物ベース%)	621	72.3	0.55	70.2	74.1	72.2	0.65	71.9*	0.61	72.1*	0.60	72.4* 0.60
油分 (乾物ベース%)	621	3.8	0.23	2.9	5.0	3.9*	0.24	3.8	0.23	3.9*	0.23	3.9* 0.24
ガルフ					ガルフ		ガルフ		ガルフ		ガルフ	
タンパク質 (乾物ベース%)	594	8.4	0.54	5.4	11.1	8.4	0.60	8.7*	0.51	8.5	0.54	8.4 0.53
デンプン (乾物ベース%)	594	72.3	0.58	70.2	74.1	72.3	0.69	72.0*	0.59	72.2*	0.60	72.5* 0.60
油分 (乾物ベース%)	594	3.8	0.25	2.9	5.0	3.9*	0.26	3.8*	0.24	3.9*	0.24	3.9* 0.24
米国北西部					米国北西部		米国北西部		米国北西部		米国北西部	
タンパク質 (乾物ベース%)	271	8.2	0.51	5.4	11.1	8.3*	0.54	8.8*	0.66	8.7*	0.58	8.7* 0.58
デンプン (乾物ベース%)	271	72.4	0.47	70.2	73.8	72.3	0.53	71.9*	0.65	72.0*	0.59	72.2* 0.60
油分 (乾物ベース%)	271	3.9	0.21	3.2	4.7	4.0*	0.21	3.8*	0.23	3.9*	0.21	4.0* 0.22
南部鉄道網					南部鉄道網		南部鉄道網		南部鉄道網		南部鉄道網	
タンパク質 (乾物ベース%)	351	8.8	0.51	7.0	11.1	8.9*	0.64	9.0*	0.57	8.8*	0.56	8.7 0.55
デンプン (乾物ベース%)	351	72.2	0.54	70.2	74.1	72.0*	0.68	71.8*	0.62	72.0*	0.61	72.3* 0.61
油分 (乾物ベース%)	351	3.8	0.22	2.9	4.6	3.8*	0.24	3.8*	0.22	3.8*	0.23	3.9* 0.23

*は有意水準 95.0% で実施した両側 t 検定に基づき、平均値が本年との間で有意な差を示していることを意味する。

¹ ECA の結果は複合統計であるため、3ECA のサンプル数の合計は米国集計を超える。

化学組成 6年集計比較

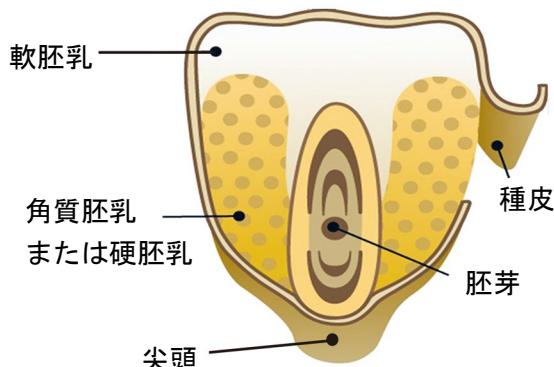
**タンパク質（乾物ベース%）****デンプン（乾物ベース%）****油分（乾物ベース%）**

D. 物理的ファクター

物理的ファクターは等級ファクターや化学組成以外の品質特性です。物理的ファクターにはストレスクラック、穀粒重量、穀粒容積、真の密度および完全粒の割合や硬胚乳の割合が含まれます。こうした物理的ファクターの試験を実施することで、保管性や取扱い中の破損の可能性だけでなく、トウモロコシを様々な用途で使用する際の加工特性に関する追加情報を得ることができます。こうした品質特性はトウモロコシ穀粒の物理的組成の影響を受けますが、物理組成自体は遺伝形質、生育・取扱い条件の影響を受けます。

トウモロコシの穀粒は胚芽、尖頭、種皮または外皮、胚乳という 4 つの部分から構成されています。胚乳は穀粒の約 82% を占めています。右図に示すように、胚乳は軟胚乳（粉状または不透明胚乳とも呼ばれる）と硬胚乳（角質胚乳またはガラス質胚乳とも呼ばれる）に分かれています。胚乳には主にデンプンとタンパク質が、胚芽には油分と多少のタンパク質が含まれており、種皮および尖頭の大半は繊維です。

トウモロコシ穀粒



概要：物理的ファクター

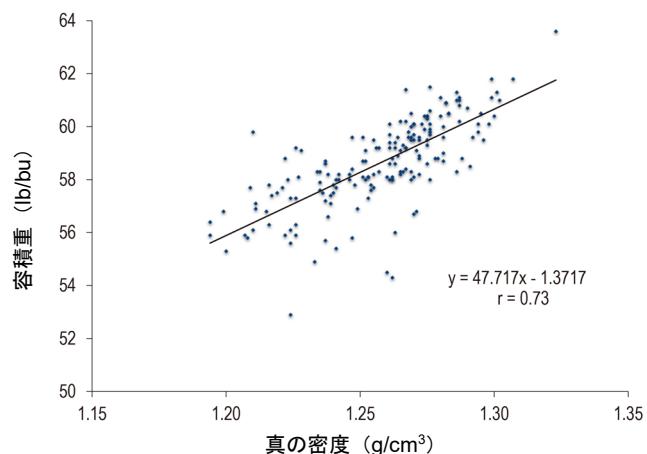
- 2025 年の米国集計ストレスクラックの平均値 (9.5%) は 2024 年および 5YA (いずれも 9.3%) と同じで、10YA (7.2%) を上回り、2023 年 (19.2%) を下回っている。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA のストレスクラック平均値はそれぞれ 9.9%、10.7% および 6.7% である。
- 2025 年の米国集計の百粒重平均値は 34.04 g で、2024 年 (36.66 g)、2023 年 (35.52 g)、5YA (35.12 g) および 10YA (35.09 g) を下回っている。
- 2025 年の米国集計穀粒容積平均値は 0.27 cm^3 であり、2024 年 (0.29 cm^3)、2023 年 (0.28 cm^3)、5YA (0.28 cm^3) および 10YA (0.28 cm^3) 下回っている。
- 2025 年、2024 年、2023 年、5YA、10YA のいずれにおいても、米国北西部 ECA の百粒重平均値と穀粒容積平均値はすべての ECA の中で最も低い。

概要：物理的ファクター

- 2025 年の米国集計の真の穀粒密度の平均値は 1.258 g/cm^3 で、2024 年 (1.265 g/cm^3) を下回り、2023 年 (1.250 g/cm^3) を上回り、5YA (1.255 g/cm^3) および 10YA (1.256 g/cm^3) とほぼ同じである。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の真の穀粒密度の平均値はそれぞれ 1.260 、 1.244 および 1.268 g/cm^3 である。3ECA のうち、米国北西部は 2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれにおいても真の密度および容積重が最も低い。
- かさ密度としても知られている容積重は 1 クオート入るカップに詰め込むことのできる質量を基にしている。右図に示すように、容積重は真の密度の影響を受ける ($r = 0.73$)。容積重は、水分含量、種皮の損傷 (完全粒)、破損、その他のファクターの影響も受ける。
- 2025 年のサンプルで真の穀粒密度が 1.275 g/cm^3 以上であったものは、2024 年の 32.4% 、2023 年の 13.8% と比べて、 26.9% であった。この分布は、2025 年のサンプル中のトウモロコシの硬度が、2024 年のものより低いが、2023 年のものより高かったことを示す。
- 2025 年の米国集計完全粒の平均値は 90.6% で 2024 年 (93.1%)、2023 年 (92.5%)、5YA (92.3%) および 10YA (92.5%) を下回っている。
- 2024 年 (84.2%) および 2023 年 (78.2%) に対し、2025 年のサンプルのうち完全粒が 90.0% 以上のサンプルは 64.3% である。
- 2025 年米国集計硬胚乳率平均値 (83%) は 2024 年 (85%)、2023 年 (85%)、および 5YA (84%) を下回るが、10YA (82%) を上回っている。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の硬胚乳平均値はそれぞれ 83% 、 82% および 85% である。
- 南部鉄道網 ECA の硬胚乳、真の密度、容積重は 2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれでも ECA の内で最も高く、タンパク質は最も高いか、または最も高い ECA と同じである。

容積重と真の密度の相関

2025 年米国集計



ストレスクラック

ストレスクラックはトウモロコシ粒の硬胚乳内部の亀裂を意味します。通常、ストレスクラックのある穀粒の種皮（外皮）には損傷が見られず、ストレスクラックが存在していたとしても、一見するだけでは穀粒になんら問題はないように見えます。

ストレスクラックの原因は穀粒の硬胚乳内の水分含量や温度の変化から生じる圧力の蓄積です。これは、ぬるい飲み物に氷を入れたときに氷の内部に発生する亀裂に例えることができます。トウモロコシ粒ごとにストレスクラックの程度が異なることがあります。ストレスクラックが1本だけの場合も、2本またはそれ以上の場合もあります。最も一般的なストレスクラックの原因是、高温乾燥による、または乾燥中の低湿度条件による急激な水分の除去です。ストレスクラックの程度が激しいと、次のような様々な用途に影響を及ぼします。

全般：取扱い中に破損しやすさが増し、洗浄処理中に除去しなければならない破損粒が増える。

ウェットミリング：デンプンとタンパク質とを分離させることが困難になるため、デンプン収率が低下する。ストレスクラックによって浸漬要件も変わってくることがある。

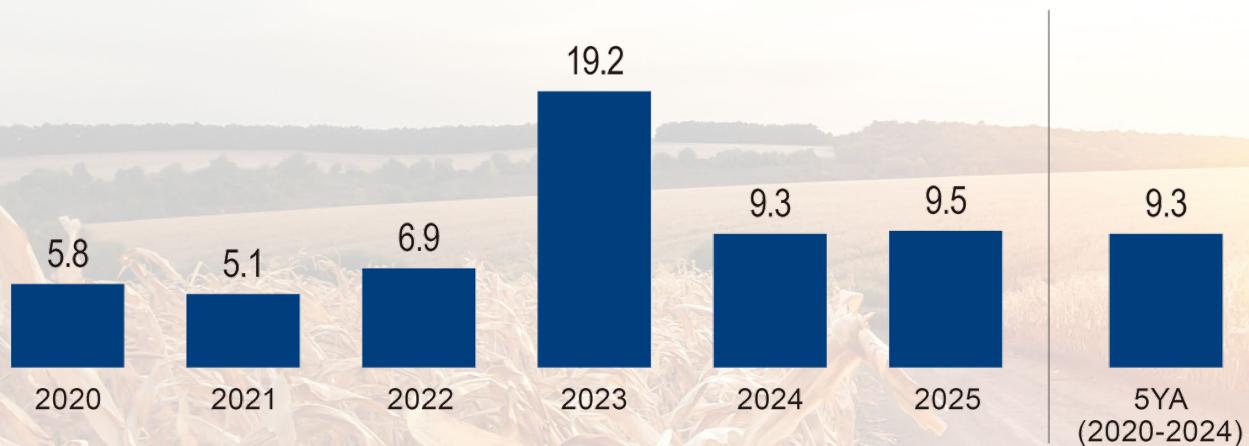
ドライミリング：大型フレーキンググリッツの収量が低下する。

アルカリ処理：不均一な水分吸収により過剰または不十分な加熱処理となり、これが処理のバランスに影響を及ぼす。

生育条件は作物の成熟度や収穫時期、人工乾燥の必要性に影響を及ぼし、これらの要素はすべてストレスクラックの程度に影響を与えます。例えば、降雨による作付の遅れや低温により成熟期や収穫期が遅れた場合には、人工的に乾燥させる必要性が高まることがあります。そのためストレスクラックの発生も増える傾向にあります。

ストレスクラック (%)

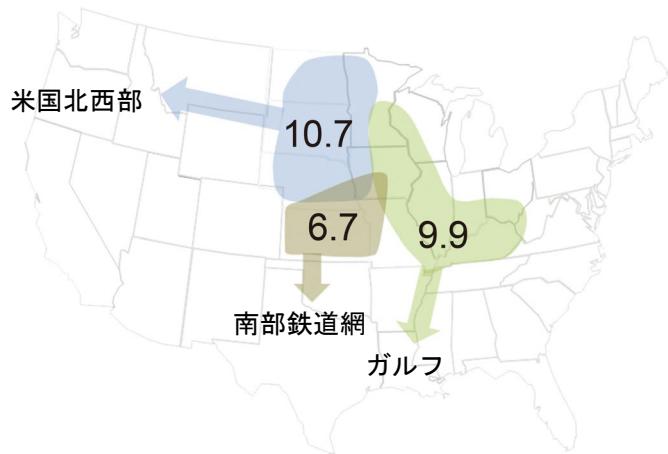
米国集計結果の概要



結果

- 2025 年の米国集計のストレスクラック率の平均値は 9.5%で、2024 年および 5YA(いずれも 9.3%) とほぼ同じで、10YA (7.2%) を上回り、2023 年 (19.2%) を下回っている。
- 2025 年の米国集計ストレスクラック率の標準偏差 (8.3%) は 2024 年 (9.4%)、5YA (8.9%) および 10YA (7.6%) とほぼ同じだが、2023 年 (18.6%) を下回っている。
- 2025 年のストレスクラック率 5.0%未満のサンプルの割合 (35.3%) は 2024 年 (43.9%) および 2023 年 (42.2%) を下回っている。2025 年のストレスクラック率が 20%以上のサンプルの割合 (10.6%) は、2024 年 (11.8%) とほぼ同じであるが 2023 年 (28.6%) を下回っている。ストレスクラック率の分布は、2025 年のトウモロコシの破損しやすさは 2024 年のトウモロコシとほぼ同じで、2023 年のトウモロコシより破損しにくい可能性を示唆している。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の米国集計ストレスクラック率の平均値は、それぞれ 9.9%、10.7% および 6.7% である。

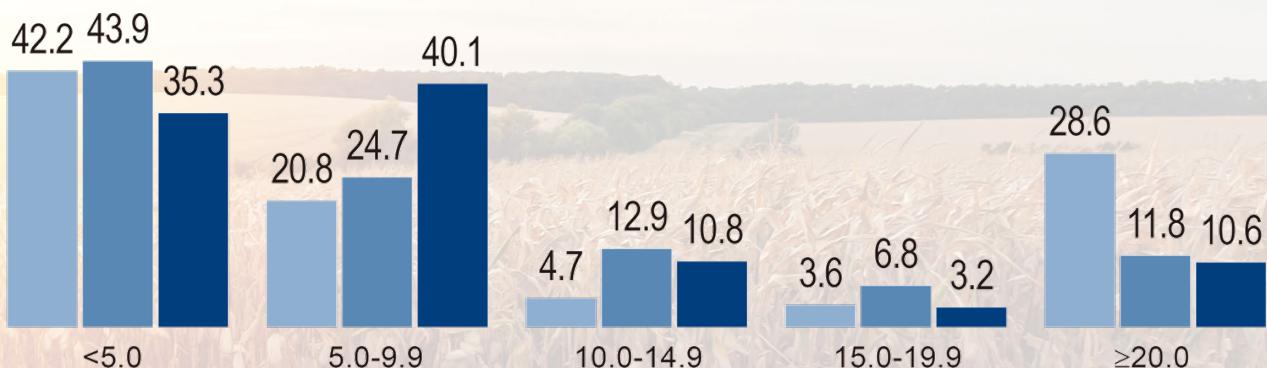
2025 年輸出拠点地域別平均
ストレスクラック (%)



ストレスクラック (%)

収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



百粒重

百粒（100-k）の重量（グラム表示）をみると、百粒重の値が増加するに従って穀粒のサイズが大きくなることがわかります。穀粒の大きさは乾燥速度に影響を及ぼします。穀粒のサイズが大きくなると表面積に対する体積の比率が高くなり、この比率が高くなると乾燥速度が遅くなります。さらに、多くの場合、大きく均一なサイズの穀粒はドライミリングでのフレーキンググリット収量を高めます。硬胚乳の量が多いトウモロコシのスペシャルティ品種では穀粒の重量は高くなる傾向があります。百粒重は、1群百粒の2反復群を対象とし、0.1 mg 単位の値まで測定する化学天秤を用いて平均重量を求めます。

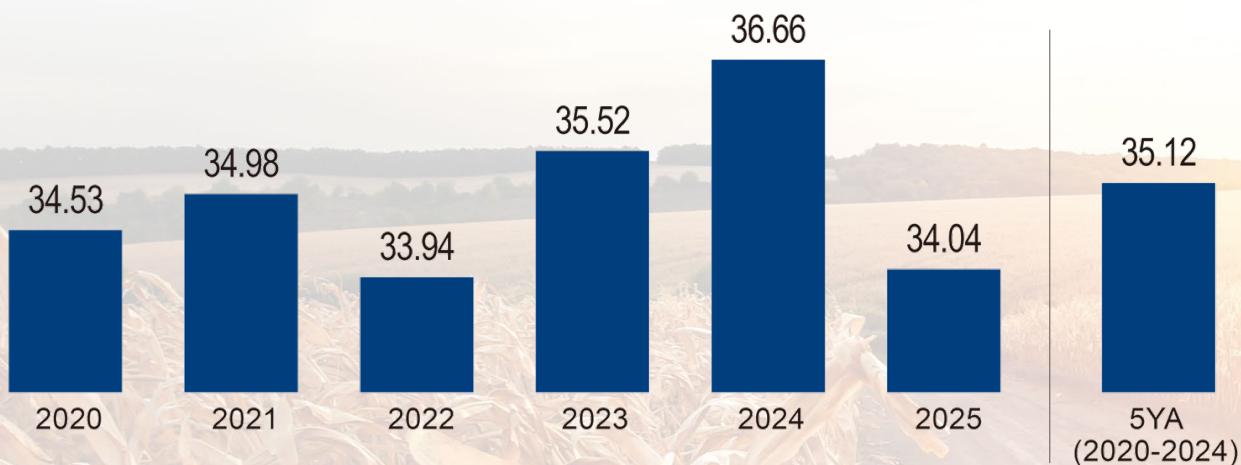
「2020/2021 年収穫時報告書」から、マイコトキシン試験用のサンプルに限定して百粒重試験が実施されることになりました。このプロトコルにより、今回の「収穫時報告書」では百粒重試験を実施する最小サンプル数が 180 に減りましたが、この品質ファクターの相対許容誤差は目標精度レベルである 10.0% 以下をはるかに下回ったままになると予想されました。この調査に用いたサンプリング基準の詳細は「調査および統計分析の方法」のセクションに記載されています。

結果

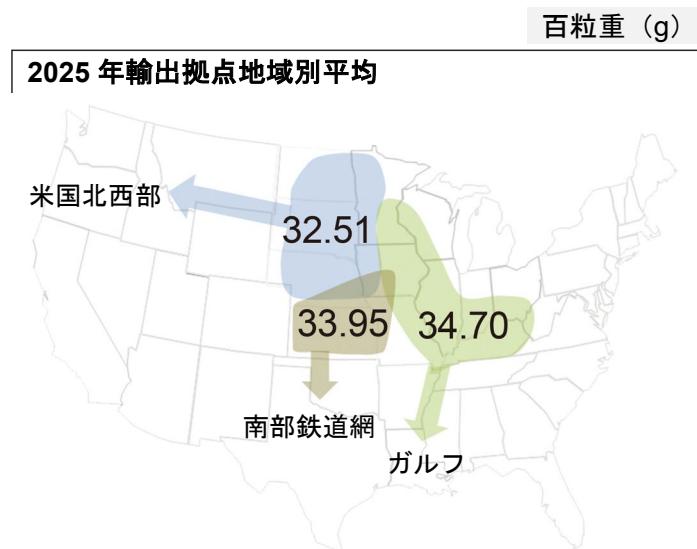
- 2025 年米国集計百粒重平均値は 34.04 g であり、これは 2024 年 (36.66 g)、2023 年 (35.52 g)、5YA (35.12 g) および 10YA (35.09 g) を下回っている。
- 2025 年米国集計百粒重のばらつき（標準偏差 3.54 g）は 2024 年 (4.33 g) を下回るが、2023 年 (3.76 g)、5YA (3.87 g) および 10YA (3.21 g) とほぼ同じである。

百粒重 (g)

米国集計結果の概要



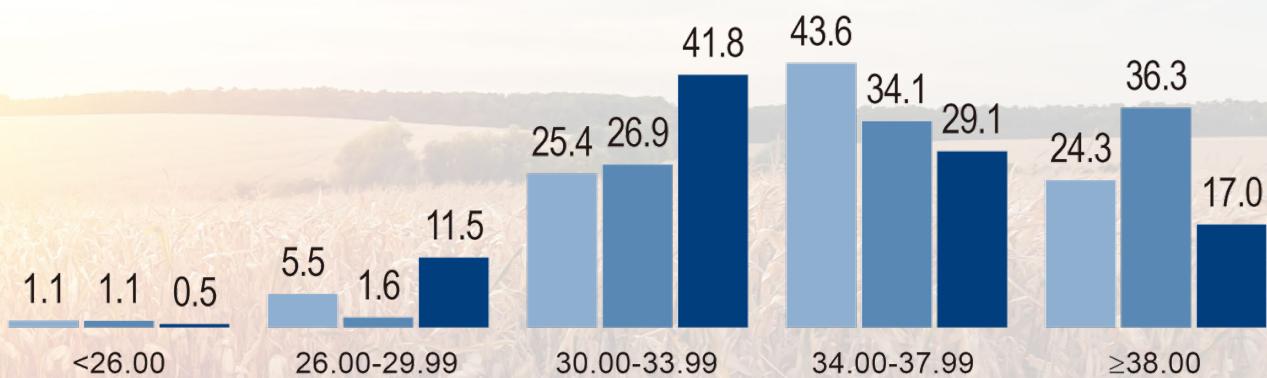
- 2025 年の百粒重のばらつきの幅 (25.50~41.90 g) は 2024 年 (23.60~47.20 g) および 2023 年 (17.60~45.40 g) を下回っている。
- 2025 年の百粒重の分布をみると、百粒重が 34.0 g 以上のものはサンプルの 46.1% となり、これに対し 2024 年は 70.4%、2023 年は 67.9% である。この分布は、2025 年のサイズの大きな穀粒の割合が過去 2 年を下回ることを示している。
- 米国北西部 ECA の百粒重平均値が最も低く (32.51 g)、これに対しガルフ ECA は 34.70 g、南部鉄道網 ECA は 33.95 g である。2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれにおいても、米国北西部 ECA の百粒重が最も軽い。



百粒重 (g)

収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



穀粒容積

穀粒容積はヘリウム比重瓶を用いて計算し、立方センチメートル (cm^3) 単位で表示します。穀粒容積は、多くの場合生育条件の指標となります。乾燥した条件下では穀粒の体積は平均値を下回ることがあります。シーズン後半で干ばつに見舞われると登熟度が低下する可能性があります。小さい粒あるいは丸い粒では胚芽を取り除くことが困難になります。加えて、粒が小さいと加工業者の洗浄損が増加し、繊維収率が高まることがあります。

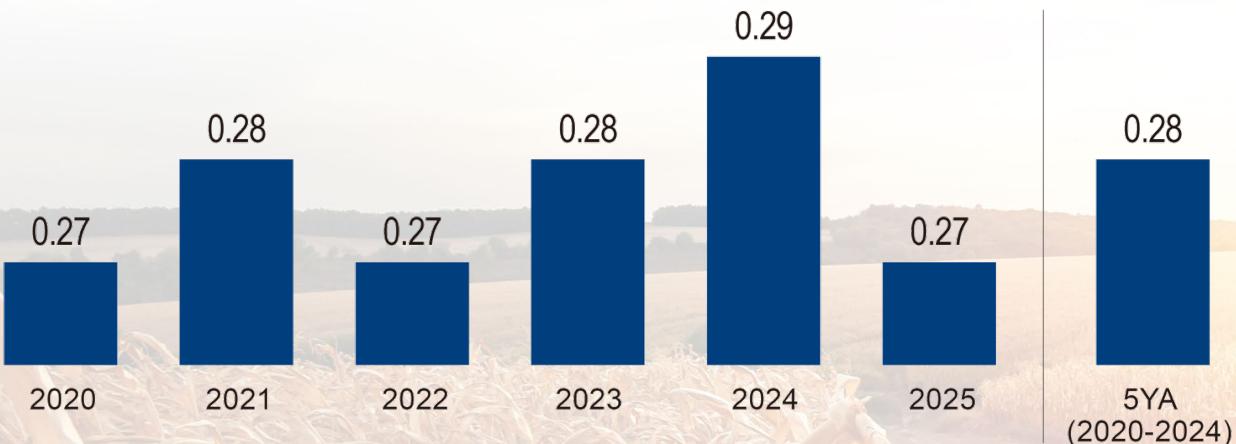
「2020/2021 年収穫時報告書」から、マイコトキシン試験用のサンプルに限定して穀粒容積試験が実施されることになりました。このプロトコルにより、今回の「収穫時報告書」では穀粒容積試験を実施する最小サンプル数が 180 に減りましたが、この品質ファクターの相対許容誤差は目標精度レベルである 10.0% 以下をはるかに下回ったままになると予想されました。この調査に用いたサンプリング基準の詳細は「調査および統計分析の方法」のセクションに記載されています。

結果

- 2025 年の米国集計穀粒容積は 0.27 cm^3 で、2024 年 (0.29 cm^3)、2023 年 (0.28 cm^3)、5YA (0.28 cm^3) および 10YA (0.28 cm^3) を下回る。
- 2025 年、米国集計穀粒容積の標準偏差は 0.03 cm^3 で、2024 年、2023 年および 5YA と同じだが、10YA (0.02 cm^3) を上回る。

穀粒容積 (cm^3)

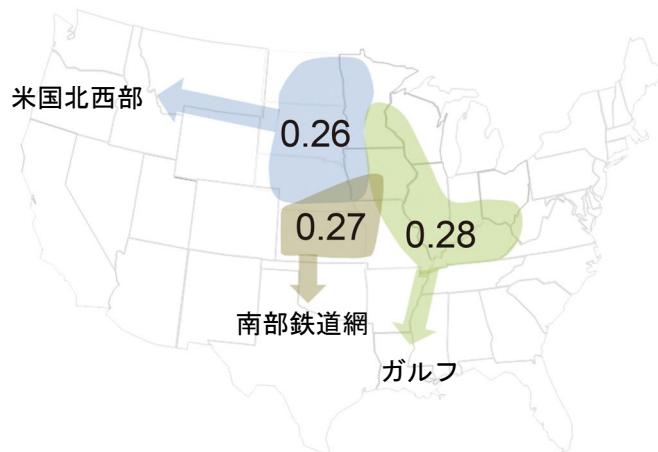
米国集計結果の概要



- 2025 年の穀粒容積のばらつき幅 ($0.21\sim0.33 \text{ cm}^3$) は 2024 年 ($0.19\sim0.37 \text{ m}^3$) および 2023 年 ($0.15\sim0.36 \text{ cm}^3$) とほぼ同じである。
- 2024 年 (51.7%)、2023 年 (48.0%) に対し、2025 年の穀粒容積の分布では、 0.29 cm^3 以上のものがサンプルの 32.4% となった。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の穀粒容積の平均値はそれぞれ、0.28、0.26 および 0.27 cm^3 である。2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれにおいても、米国北西部 ECA の穀粒容積平均値が 3ECA の中で最も低い。

穀粒容積 (cm^3)

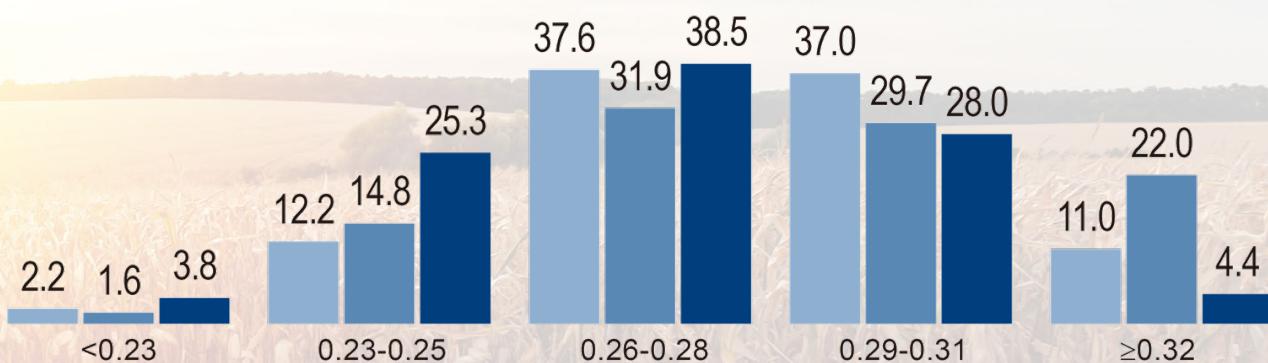
2025 年輸出拠点地域別平均



穀粒容積 (cm^3)

収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



真の穀粒密度

真の穀粒密度は百粒のサンプルの重量を同じ百粒の容積、すなわち押しのけ容積で除して求め、1立方センチメートル当たりのグラム数 (g/cm^3) 単位で報告します。真の密度は穀粒の硬度を相対的に示す指標で、アルカリ処理やドライミリングを行う業者にとって有用です。真の密度は、ハイブリッド品種のトウモロコシの遺伝形質および生育期間の環境の影響を受けることがあります。一般に、密度の高いトウモロコシは密度の低いトウモロコシよりも取扱い中に破損が発生しにくいものの、高温乾燥が用いられるとストレスクラックを発生させるリスクが上昇します。真の密度が $1.30 \text{ g}/\text{cm}^3$ を超えると、通常ドライミリングやアルカリ処理に適した非常に硬質なトウモロコシであることが示唆されます。真の密度が $1.275 \text{ g}/\text{cm}^3$ 程度、あるいはそれを下回る場合には、トウモロコシは柔らかくなり、ウェットミリングや飼料原材料用の加工が容易になります。

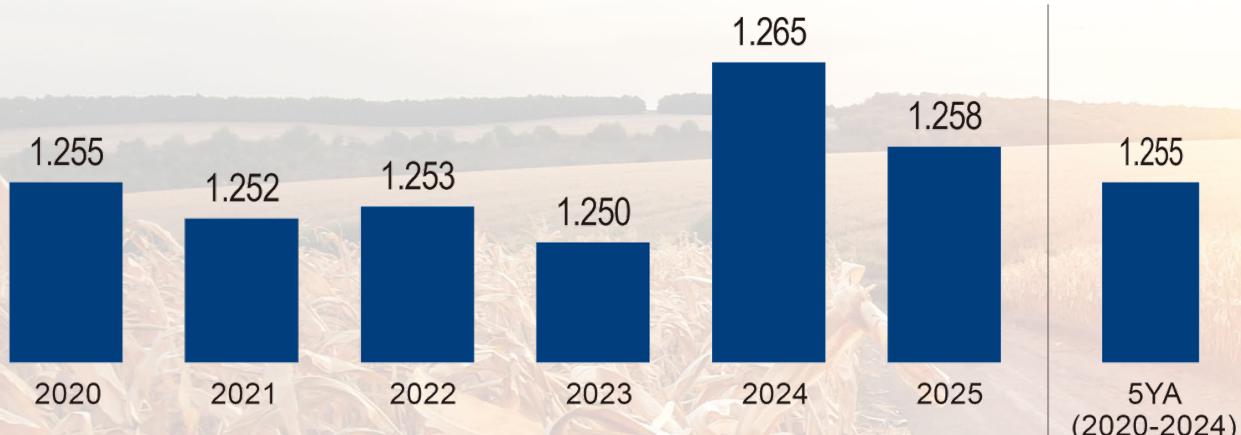
「2020/2021 年収穫時報告書」から、マイコトキシン試験用のサンプルに限定して、真の密度を計算するのに必要な 2 つの分析試験である百粒重および穀粒容積試験が実施されることになりました。このプロトコルにより、今回の「収穫時報告書」では真の密度の結果を調べる最小サンプル数が 180 に減りましたが、この品質ファクターの相対許容誤差は目標精度レベルである 10.0% 以下をはるかに下回ったままになると予想されました。この調査に用いたサンプリング基準の詳細は「調査および統計分析の方法」のセクションに記載されています。

結果

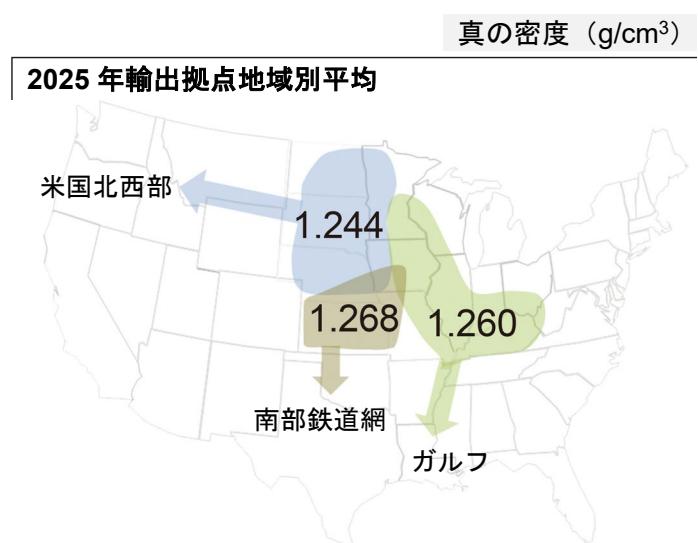
- 2025 年の米国集計真の穀粒密度の平均値 ($1.258 \text{ g}/\text{cm}^3$) は、2024 年 ($1.265 \text{ g}/\text{cm}^3$) を下回り、2023 年 ($1.250 \text{ g}/\text{cm}^3$) を上回り、5YA ($1.255 \text{ g}/\text{cm}^3$) および 10YA ($1.256 \text{ g}/\text{cm}^3$) とほぼ同じである。過去 15 年にわたり、真の密度はタンパク質含量が多いほど上昇する傾向にある（相関係数は 0.62）。

真の密度 (g/cm^3)

米国集計結果の概要

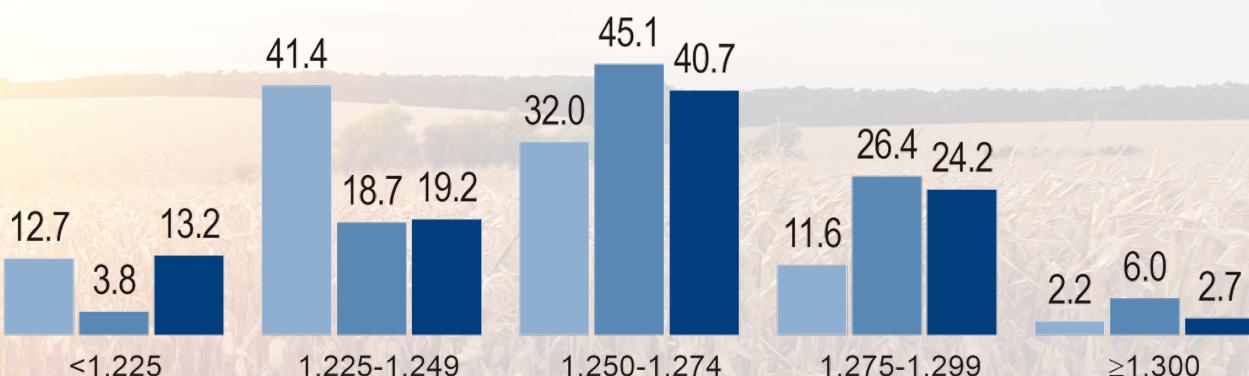


- 2025 年の標準偏差に基づく真の密度のばらつきの幅 (0.025 g/cm^3) は 2024 年 (0.022 g/cm^3)、2023 年 (0.023 g/cm^3)、5YA (0.022 g/cm^3) および 10YA (0.020 g/cm^3) とほぼ同じである。
- 2025 年の真の密度のばらつきは、 $1.194\sim1.323 \text{ g/cm}^3$ で、これに対し、2024 年は $1.203\sim1.325 \text{ g/cm}^3$ および 2023 年は $1.176\sim1.303 \text{ g/cm}^3$ である。
- 2025 年のサンプル中、真の密度が 1.275 g/cm^3 以上のものは 26.9% で、これに対し 2024 年は 32.4%、2023 年は 13.8% である。多くの場合、 1.275 g/cm^3 を上回る値は硬いトウモロコシ、 1.275 g/cm^3 を下回るものは柔らかいトウモロコシであることを示すと考えられるため、この穀粒分布は 2025 年サンプルの硬度が 2024 年より低く 2023 年より高いことを示している。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の真の穀粒密度の平均値はそれぞれ 1.260 、 1.244 および 1.268 g/cm^3 である。2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれにおいても、米国北西部 ECA の真の密度およびかさ密度（容積重）の平均値は他の ECA 地域の数値を下回っている。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



完全粒

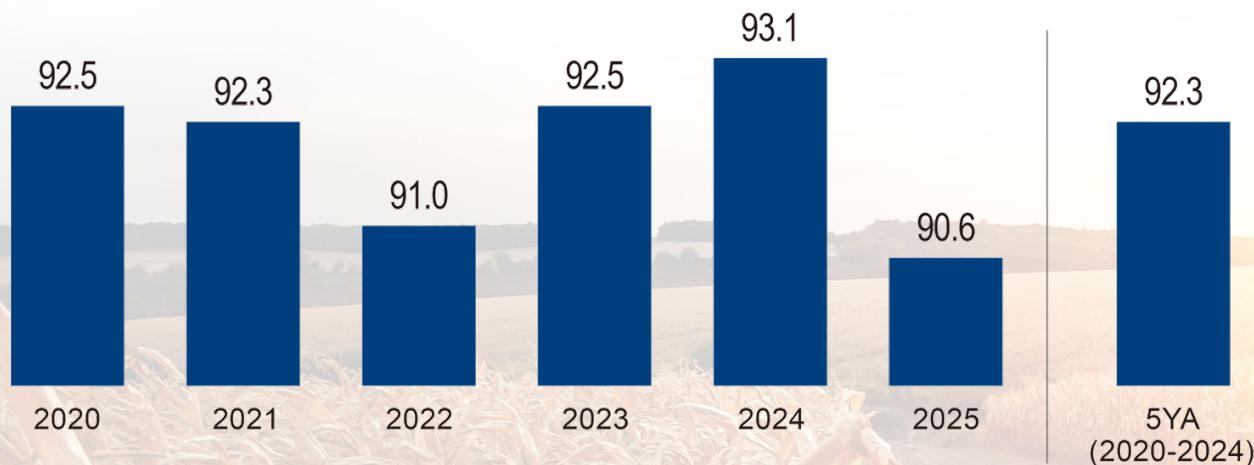
その名称から、完全粒と BCFM との間に何らかの負の相関関係があるかのように思われますが、完全粒試験は BCFM 試験による破損粒の割合とは異なる情報を提供するものです。破損粒は物質のサイズだけで決まります。完全粒というのはその名が示すように、サンプルに含まれる完全無傷で、種皮に損傷がなく、欠損のない穀粒のことです、値はパーセントで示されます。

主として 2 つの理由からトウモロコシ粒の外観の完全性は非常に重要です。第一はアルカリ処理および浸漬工程での吸水状態に影響を及ぼすという理由です。穀粒に欠けまたは種皮に亀裂があると、水は無傷の穀粒すなわち完全粒よりも早く染み込んでいきます。加熱中に水分が過剰に内部に取り込まれると、可溶性画分の損失、不均一な加熱、高額な費用のかかる運転停止といった事態や、仕様から逸脱した製品といった結果を招きかねません。契約によって、納入されたトウモロコシが指定した完全粒レベルを上回った場合プレミアムを支払う企業さえあります。

第二に、穀粒が無傷で完全であると保管中にカビが発生しにくく、取扱い中の破損も少なくなります。軟質トウモロコシよりも硬胚乳の方が完全粒の維持に適していますが、完全粒を提供するために最も重要なファクターは収穫・取扱いです。このファクターはコンバインの適切な調整に始まり、次に圃場からエンドユーザーに届けられるまでに必要なコンベヤーや取扱い作業の回数によって穀粒が受ける衝撃の程度です。その後の取扱いのひとつひとつがさらなる損傷につながります。水分含量が低下し、落下高さか、穀粒が衝撃を受けるときの速度が増すに従って、実際の損傷の量は飛躍的に増加することになります³。さらに、通常は水分含量の高い状態（例えば 25%超）で収穫すると、低い状態で収穫する場合よりも種皮が柔らかくなり、トウモロコシの種皮損傷が起こりやすくなります。

完全粒 (%)

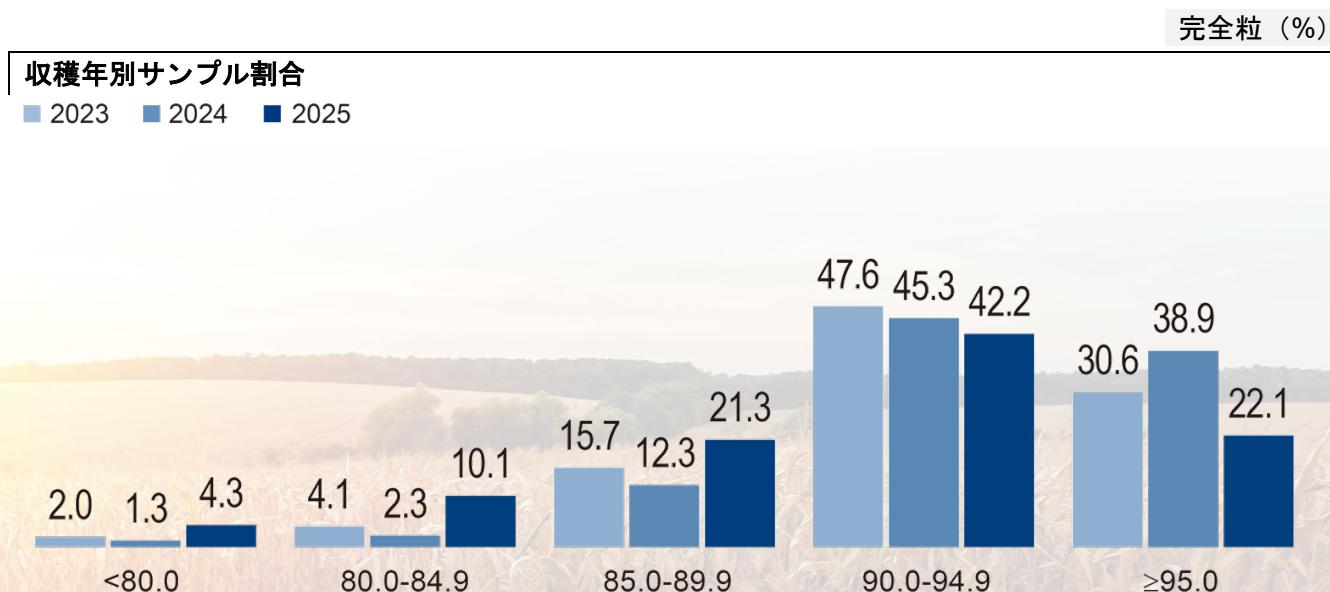
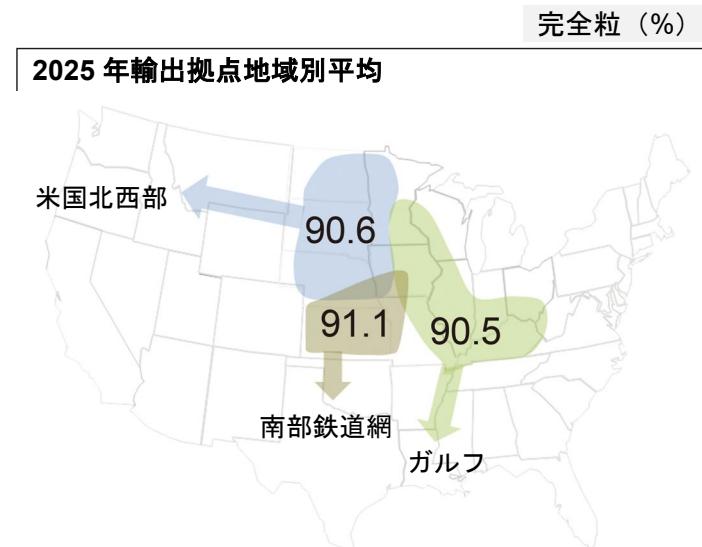
米国集計結果の概要



³ Foster, G. H. および L. E. Holman (1973 年) 「Grain Breakage Caused by Commercial Handling Methods」 USDA. ARS Marketing Research Report Number 968

結果

- 2025 年の米国集計完全粒平均値は 90.6% で 2024 年 (93.1%)、2023 年 (92.5%)、5YA (92.3%) および 10YA (92.5%) を下回る。
- 2025 年の完全粒サンプルの標準偏差 (4.9%) は 2024 年 (3.6%)、2023 年 (3.9%)、5YA (3.9%) および 10YA (3.7%) を上回る。
- 2025 年の完全粒のばらつき幅 (66.4~99.4%) は、2024 年 (49.8~99.6%) を下回るが、2023 年 (63.2~100.0%) とほぼ同じである。
- 完全粒が 90.0% 以上のサンプルは、2024 年 (84.2%) および 2023 年 (78.2%) に対し、2025 年は 64.3% である。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の完全粒平均値はそれぞれ 90.5%、90.6% および 91.1% である。



硬胚乳

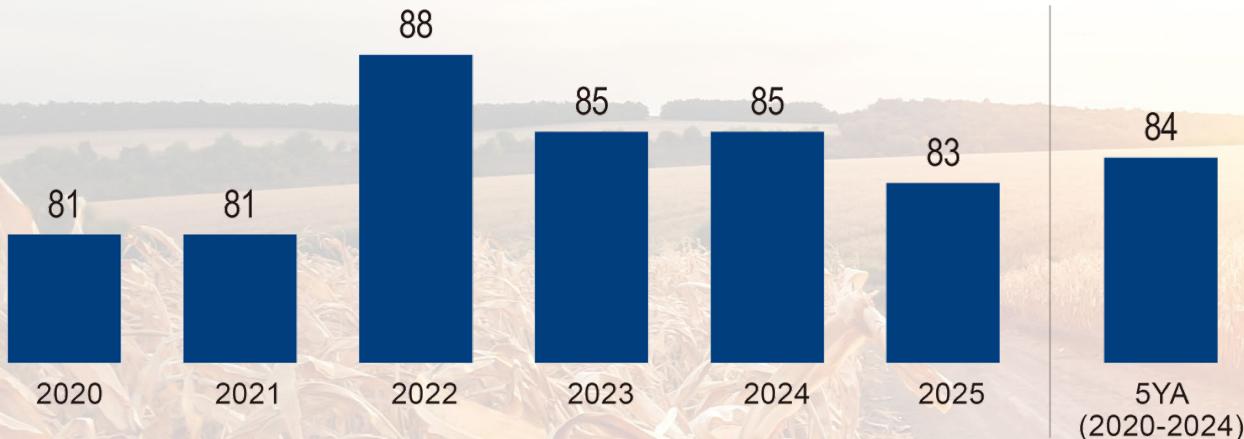
硬胚乳試験では穀粒の全胚乳中に硬胚乳が占める割合を測定しますが、この値は通常 70~100%の間となります。軟胚乳と比較して硬胚乳の量が多いほどトウモロコシ粒は硬くなると言われています。加工の種類によって硬さの程度が重要になってきます。ドライミリングで加工される大型フレーキンググリットの収率を高くするためには硬いトウモロコシが必要です。アルカリ処理には中~高程度の硬さのトウモロコシが望ましく、ウェットミリングや家畜飼料には低~中程度の硬さのトウモロコシが用いられます。硬さは破損しやすさ、飼料効率およびデンプン消化率と相関関係があります。軟質の粉状胚乳では硬胚乳ほどストレスクラックを生じる内部ストレスが蓄積されることはありません。したがって、硬胚乳の割合が大きいトウモロコシでは柔らかなトウモロコシよりもストレスクラックが発生しやすくなります。

全体的な硬さを知るための測定試験として得られる硬胚乳の値に良いも悪いもありません。それぞれのエンドユーザーにとって望ましい特定の硬胚乳率の範囲があるに過ぎません。ドライミリングおよびアルカリ処理を行う業者の多くは硬胚乳が 85%を超えるトウモロコシを好み、一方ウェットミリング業者および飼料業者は一般に硬胚乳率 70~85%の範囲のトウモロコシを好みます。しかし当然のことながら、ユーザーの好みには例外も存在します。

「2019/2020 年収穫時報告書」から、マイコトキシン試験用のサンプルに限定して硬胚乳試験が実施されることになりました。このプロトコルにより、今回の「収穫時報告書」では 180 以上のサンプルに硬胚乳試験が実施されました。この品質ファクターの相対許容誤差は、この品質ファクターについてすべてのサンプルを試験した際に、「2011/2012 年収穫時報告書」から「2018/2019 年収穫時報告書」において 0.4%を上回ったことはありません。この調査に用いたサンプリング基準の詳細は「調査および統計分析の方法」のセクションに記載されています。

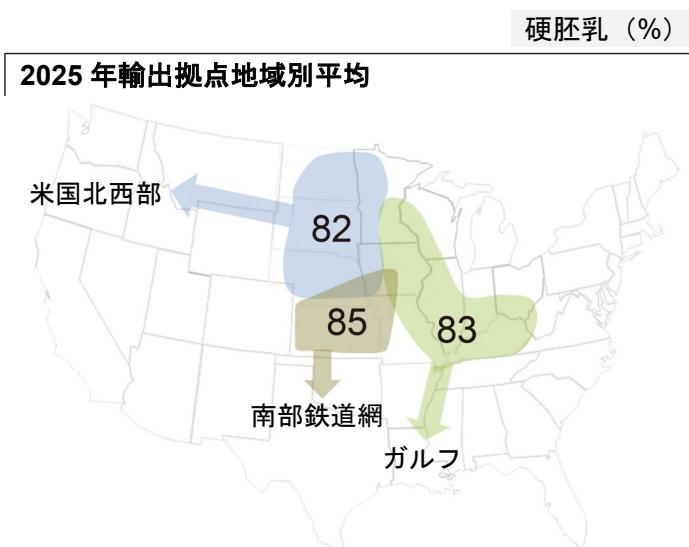
硬胚乳 (%)

米国集計結果の概要



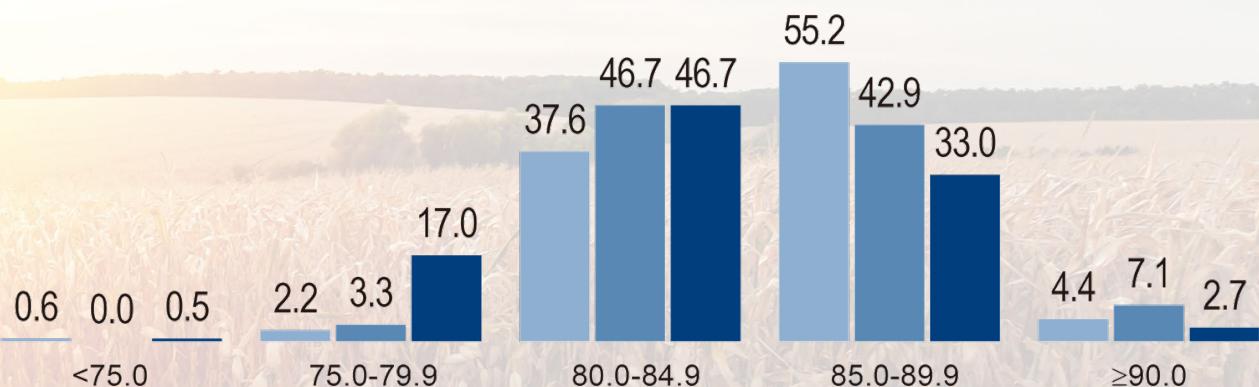
結果

- 2025 年の米国集計硬胚乳率の平均値 (83%) は 2024 年 (85%)、2023 年 (85%) および 5YA (84%) を下回るが、10YA (82%) を上回っている。
- 2025 年の米国集計硬胚乳率の標準偏差 (3%) は 2024 年、2023 年、5YA および 10YA と同じである。
- 2025 年の硬胚乳率のばらつき幅 (74~92%) は 2024 年 (77~92%) および 2023 年 (75~94%) とほぼ同じである。
- 2025 年のサンプル中、硬胚乳率が 80% を超えるものは 82.4% で、これは 2024 年 (96.7%) および 2023 年 (97.2%) を下回る。
- ガルフ ECA、米国北西部 ECA および南部鉄道網 ECA の硬胚乳率平均値はそれぞれ 83%、82% および 85% である。南部鉄道網 ECA の硬胚乳率は、2025 年、2024 年、2023 年、5YA および 10YA のいずれでも ECA の中で最も高い。



収穫年別サンプル割合

■ 2023 ■ 2024 ■ 2025



まとめ：物理的ファクター

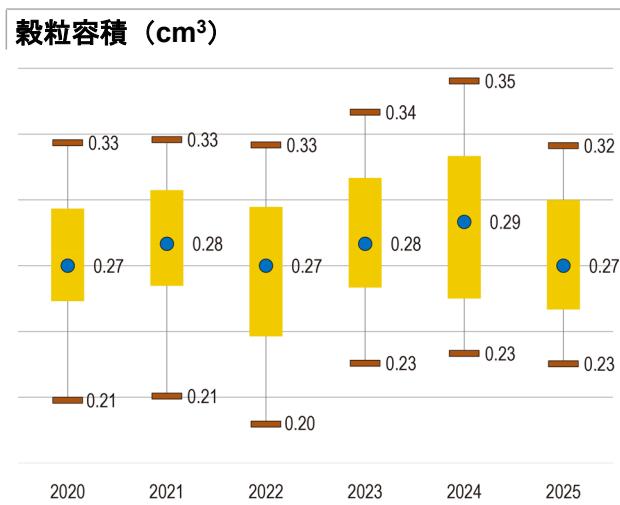
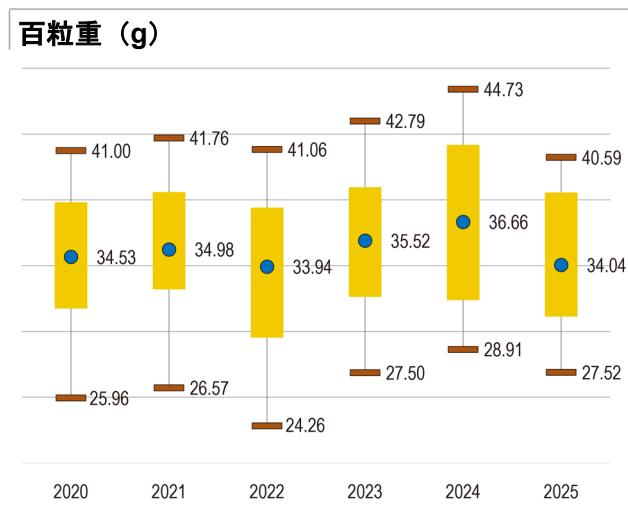
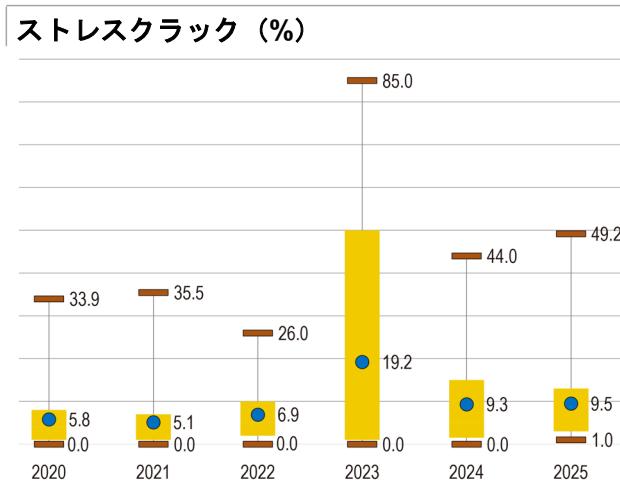
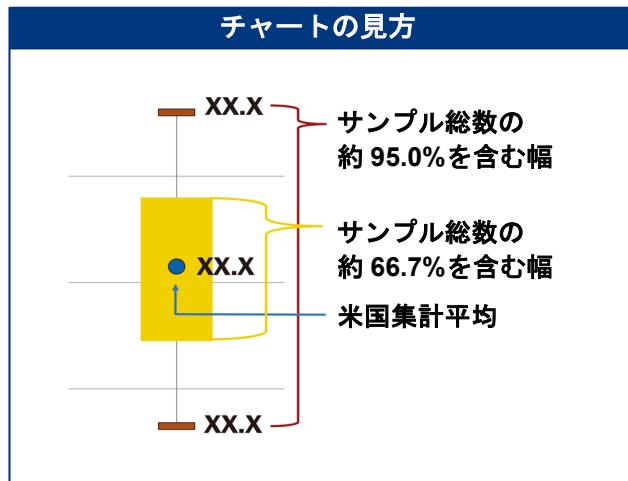
2025 収穫					2024 収穫		2023 収穫		5年平均 (2020~2024)		10年平均 (2015~2024)	
サンプル 数 ¹		標準 平均 偏差 最小 最大			標準 平均 偏差		標準 平均 偏差		標準 平均 偏差		標準 平均 偏差	
米国集計					米国集計		米国集計		米国集計		米国集計	
ストレスクラック (%)	621	9.5	8.3	0	96	9.3	9.4	19.2*	18.6	9.3	8.9	7.2* 7.6
百粒重 (g)	182	34.04	3.54	25.50	41.90	36.66*	4.33	35.52*	3.76	35.12*	3.87	35.09* 3.21
穀粒容積 (cm ³)	182	0.27	0.03	0.21	0.33	0.29*	0.03	0.28*	0.03	0.28*	0.03	0.28* 0.02
真の密度 (g/cm ³)	182	1.258	0.025	1.194	1.323	1.265*	0.022	1.250*	0.023	1.255	0.022	1.256 0.020
完全粒 (%)	621	90.6	4.9	66.4	99.4	93.1*	3.6	92.5*	3.9	92.3*	3.9	92.5* 3.7
硬胚乳 (%)	182	83	3	74	92	85*	3	85*	3	84*	3	82* 3
ガルフ					ガルフ		ガルフ		ガルフ		ガルフ	
ストレスクラック (%)	594	9.9	8.9	0	96	9.8	10.4	22.9*	22.0	10.7	10.3	8.0* 8.5
百粒重 (g)	172	34.70	3.55	25.50	41.90	37.99*	4.31	36.18*	3.74	36.13*	3.71	35.89* 3.14
穀粒容積 (cm ³)	172	0.28	0.03	0.21	0.33	0.30*	0.03	0.29*	0.03	0.29*	0.03	0.29* 0.02
真の密度 (g/cm ³)	172	1.260	0.025	1.194	1.323	1.267*	0.022	1.252*	0.023	1.257	0.022	1.258 0.020
完全粒 (%)	594	90.5	5.1	66.4	99.4	92.8*	3.8	92.1*	4.1	91.8*	4.2	92.3* 3.8
硬胚乳 (%)	172	83	3	74	92	85*	3	85*	3	84*	3	82* 3
米国北西部					米国北西部		米国北西部		米国北西部		米国北西部	
ストレスクラック (%) ²	271	10.7	9.8	1	96	9.2	8.1	11.5	10.8	7.1*	6.5	6.4* 6.6
百粒重 (g)	80	32.51	3.18	26.40	41.00	33.46	2.88	33.07	5.04	32.93	3.65	33.08 3.03
穀粒容積 (cm ³)	80	0.26	0.02	0.21	0.32	0.27	0.02	0.27	0.04	0.26	0.03	0.27 0.02
真の密度 (g/cm ³)	80	1.244	0.026	1.194	1.302	1.254*	0.018	1.236	0.138	1.246	0.043	1.247 0.031
完全粒 (%)	271	90.6	4.7	73.2	98.8	93.6*	3.3	93.4*	3.2	93.0*	3.5	92.7* 3.6
硬胚乳 (%)	80	82	4	74	92	84*	3	84	10	84*	5	82 4
南部鉄道網					南部鉄道網		南部鉄道網		南部鉄道網		南部鉄道網	
ストレスクラック (%) ²	351	6.7	4.7	0	59	8.2*	8.0	17.7*	17.8	8.0*	7.5	5.8* 5.9
百粒重 (g)	99	33.95	3.43	25.50	41.90	36.01*	4.46	36.42*	3.65	34.95*	3.79	35.25* 3.21
穀粒容積 (cm ³)	99	0.27	0.03	0.21	0.33	0.28*	0.03	0.29*	0.03	0.28*	0.03	0.28* 0.02
真の密度 (g/cm ³)	99	1.268	0.021	1.194	1.323	1.270	0.020	1.257*	0.022	1.259*	0.021	1.261* 0.019
完全粒 (%)	351	91.1	4.7	70.0	99.4	93.6*	3.1	92.6*	4.4	92.7*	3.7	92.8* 3.5
硬胚乳 (%)	99	85	3	74	91	86*	3	86*	3	85	3	83* 3

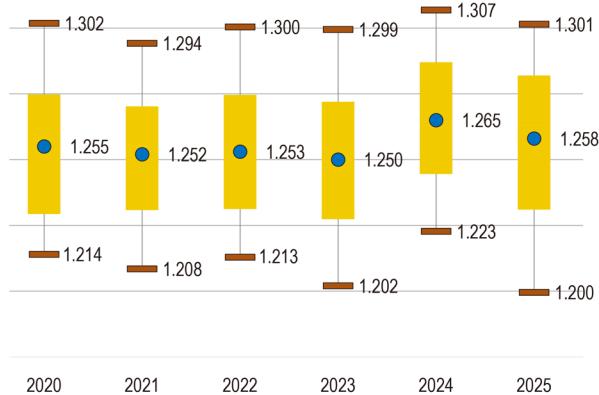
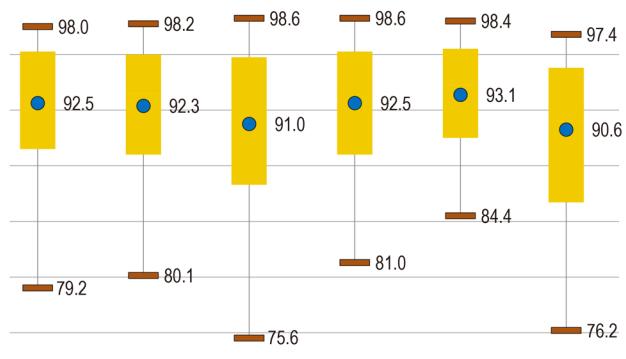
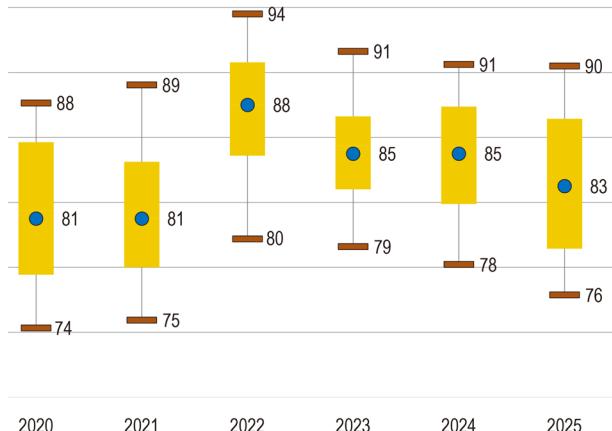
*は有意水準 95.0% で実施した両側 t 検定に基づき、平均値が本年との間で有意な差を示していることを意味する。

¹ ECA の結果は複合統計であるため 3ECA のサンプル数の合計は米国集計を超える。

² 収穫時母集団の平均値を予測するための相対許容誤差は±10.0% を超える。

物理的ファクター
6年集計比較



**物理的ファクター
6年集計比較**
真の密度 (g/cm³)

完全粒 (%)

硬胚乳 (%)


E. マイコトキシン

マイコトキシンは穀物に自然発生する菌類から產生される毒性のある化合物です。マイコトキシンを多量に摂取した場合には、動物にもヒトにも健康被害が発生する可能性があります。アフラトキシン、デオキシニバレノールおよびフモニシンはトウモロコシに発生する最も一般的なマイコトキシンの中の3種であると考えられています。

15年の「収穫時報告書」すべてにおいて、収穫時サンプルのサブセットにアフラトキシンおよびデオキシニバレノールの試験を実施しました。「2019/2020年収穫時報告書」から、試験対象であるマイコトキシンのリストにフモニシンを追加しました。「2020/2021年収穫時報告書」ではサンプルのオクラトキシンA、T-2およびゼアラレノン試験も開始しました。

年度ごとに、トウモロコシの栽培や保管の環境条件によって、特定のマイコトキシンの產生がヒトや家畜によるトウモロコシの消費に影響を及ぼすレベルまで上昇する年としない年があります。ヒトや家畜のマイコトキシンに対する感受性のレベルはそれぞれ異なります。そのため、米国食品医薬品局(FDA)は使用目的別に、アフラトキシンには規制レベルを、デオキシニバレノールとフモニシンには勧告レベルを設定しています。

規制レベルでは汚染限界値が設けられ、この限界値を超えるとFDAは規制措置の準備を整えます。規制レベルはシグナルで、毒素や汚染物質がその規制レベルを超えFDAがその選択をする場合は、FDAの見解において規制措置や法的措置を支持すべきデータが存在することを示します。輸入品または国産の飼料サプリメントを正当な方法で分析し、適用される規制レベルを上回っていることが明らかになった場合には、粗悪品とみなされ、FDAによって押収されたり、州境を越えた取引から排除されたりする場合があります。

勧告レベルは食品または飼料に含まれる物質に関して、FDAがヒトや動物の健康を守る上で安全性に十分な余裕があると判断するレベルについて、業界を指導するために設けられたものです。FDAは強制措置を実施する権利を有していますが、勧告レベルの基本的な目的は強制措置を実施することではありません。

マイコトキシンの产生には生育条件が大きな影響を及ぼすため、「収穫時報告書」の目的は収穫時のトウモロコシからマイコトキシンが検出された事例を報告することに限定され、輸出される米国産トウモロコシに存在する可能性のあるマイコトキシンのレベルを予測することではありません。米国穀物物流経路には複数の段階があり、業界に適用される法律や規制が存在するため、輸出トウモロコシのマイコトキシンレベルは、収穫時の当初のレベルを下回る場合があります。「収穫時報告書」の結果は、収穫時点のトウモロコシに存在する可能性のあるマイコトキシンに関する単なるひとつの指標として使用されるべきものです。「2025/2026年トウモロコシ輸出貨物品質報告書」は輸出時点でのトウモロコシの品質を報告するもので、米国産トウモロコシ輸出貨物中のマイコトキシンの存在についてより正確な指標が提供されることになります。

サンプリング基準は「調査および統計分析の方法」のセクションに記載されていますが、結果としてマイコトキシン試験の対象サンプル数は合計180となりました。このマイコトキシン調査に用いた試験方法の詳細は「試験分析法」のセクションに記載されています。

アフラトキシン

トウモロコシに関わる最も重要なマイコトキシンはアフラトキシンです。アスペルギルス属の様々な菌種によって產生されるアフラトキシンにはいくつかの種類があり、中でも最も広く知られている菌種は黄色アスペルギルスです。菌やアフラトキシンによる穀物汚染は収穫前の圃場でまたは貯蔵中に広がる可能性があります。しかし、この収穫前の汚染がアフラトキシンに付随するほとんどの問題を引き起こすと考えられています。黄色アスペルギルスは高温で乾燥した環境条件下や、干ばつが長引いた場合よく増殖します。高温で乾燥した条件が一般的である米国南部の州では、深刻な問題となることがあります。通常、菌が攻撃するのはトウモロコシの穂の中のわずか数粒に過ぎず、多くの場合、害虫が作った傷口から穀物内部へと侵入していきます。干ばつ条件下ではトウモロコシの絹糸から個々の穀粒へと進行していくこともあります。

食品の中で自然に見つかるアフラトキシンはアフラトキシン B1、B2、G1、G2 の 4 種類です。一般にこれらの 4 種類を「アフラトキシン」または「総アフラトキシン」と呼んでいます。アフラトキシン B1 は食品および飼料から最もよく検出されるアフラトキシンで、かつ最も毒性が強い種類でもあります。研究により、B1 は動物に自然発生する強力な発癌性物質であり、ヒトの癌の発生にも強い関係性のあることがわかっています。さらに、乳牛は B1 を代謝してアフラトキシン M1 という異なる形態のアフラトキシンに変化させ、乳汁に蓄積させることができます。

アフラトキシンはヒトや動物の体内で主に肝臓を攻撃することで毒性を発現します。アフラトキシンの汚染レベルが非常に高い穀物を短期間摂取するか、汚染レベルの低い穀物を長期間摂取すると中毒作用が起これ、動物の中で最も敏感な種である家禽類では死に至ることもあります。アフラトキシンが体内に入ると、家畜では飼料効率あるいは繁殖力が低下し、ヒト、動物のいずれも免疫系が抑制される可能性があります。

FDA は飲料用の牛乳についてはアフラトキシン M1 の規制レベルを、食品や穀物、家畜飼料についてはアフラトキシンの規制レベルを ppb で設定しています（下表）。

こうした基準値を超えるアフラトキシンが検出されたトウモロコシをブレンドすることについて、FDA は追加的な方針および法規定を設けています。基本的に現時点では、FDA は、アフラトキシンに汚染されたトウモロコシに、汚染されていないトウモロコシを混合することにより、アフラトキシン含量を一般的な商用として許容されるレベルにまで引き下げる認めていません。

アフラトキシン規制レベル	基準
20.0 ppb	乳畜、あらゆる年齢のペット、幼弱動物（家禽類の幼鳥を含む） および用途不明の動物
100.0 ppb	繁殖用の肉牛、繁殖用の豚、成長後の家禽類
200.0 ppb	100 ポンド以上の仕上げ豚
300.0 ppb	仕上げ肉牛（飼養場等）

出典 : www.ngfa.org

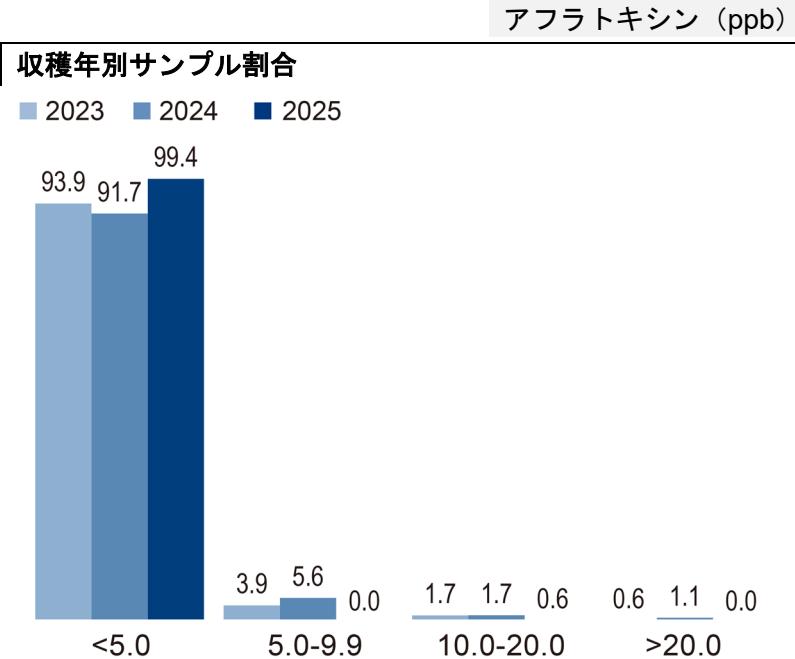
詳細情報については、米国穀物飼料協会のガイダンス文書 *«FDA Mycotoxin Regulatory Guidance»* (https://drive.google.com/file/d/1tqeS5_eOtsRmxZ5RrTnYu7NCIr896KGX/view) を参照してください。

米国から輸出されるトウモロコシについては、契約によりこの要件が免除される場合を除き、連邦法に従ったアフラトキシン試験を FGIS で実施しなければなりません。FDA の規制レベルである 20.0 ppb を超えているトウモロコシについては、その他の厳格な条件を満たさない限り輸出することはできません。結果として、輸出トウモロコシに含まれるアフラトキシンは相対的に低いレベルになっています。

結果

2025 年は、アフラトキシン試験用として合計 180 のサンプルを分析しましたが、これに対し 2024 年は 180 サンプル、2023 年は 181 サンプルが試験対象でした。2025 年の調査結果は以下のとおりです。

- 180 のサンプル中 179 サンプル、すなわち 99.4% に検出可能レベル FGIS 低準拠レベル 5.0 ppb 未満 のアフラトキシンは認められなかった。これは、検出可能レベルのアフラトキシンが認められなかった 2024 年と 2023 年のサンプルの割合（それぞれ 91.7%、93.9%）のいずれもはるかに上回っている。
- 180 サンプル中 0 サンプル、すなわち 0.0% は、アフラトキシンのレベルが 5.0 ppb 以上かつ 10.0 ppb 未満である。この割合は 2024 年 (5.6%) と 2023 年 (3.9%) のいずれも下回っている。
- 180 サンプル中、アフラトキシンのレベルが 10.0 ppb 以上かつ FDA の規制レベルである 20.0 ppb 以下のものは 1 サンプル、すなわち 0.6% である。この割合は 2024 年 (1.7%) と 2023 年 (1.7%) のいずれも下回っている。
- 180 サンプル中 0 サンプル、すなわち 0.0% は、アフラトキシンのレベルが FDA の規制レベルである 20.0 ppb を上回っている。この割合は 2024 年 (1.1%) と 2023 年 (0.6%) のいずれも下回っている。



こうした結果は、2025 年の調査対象収穫期サンプル中のアフラトキシンが 2024 年および 2023 年の収穫期サンプルのレベルを下回っていることを示しています。これらのサンプルから好ましい結果が得られた一因と考えられるのが、2025 年はアフラトキシンが発生しにくい気象条件だったことです（2025 年の生育条件の詳しい情報については、「作柄と気象条件」のセクションを参照してください）。

デオキシニバレノール (DON またはボミトキシン)

デオキシニバレノール (DON) は一部のトウモロコシ輸入者が懸念するもうひとつのマイコトキシンです。デオキシニバレノールはフザリウム属の特定の菌種から產生され、その中で最も重要なものが赤カビ菌類 (*Gibberellazaeae*) で、赤カビ病 (Gibberella ear rot または red ear rot) を発生させます。*Gibberellazaeae* 菌は開花時期の天候が低温または適温で、多雨になると発生しやすくなります。菌はトウモロコシの綱糸から下に広がって穂に入り、デオキシニバレノールを产生するだけでなく、穀粒にはっきりとわかる赤い変色を起こします。トウモロコシを圃場でそのままにしておくと菌は広がり続け、穂を腐らせることがあります。*Gibberellazaeae* 菌によるトウモロコシのマイコトキシン汚染は、多くの場合、極端に収穫が遅れたり、水分含量の高いトウモロコシを保存したりすると発生します。

多くの場合、デオキシニバレノールが問題になるのは単胃動物で、口や喉の炎症を引き起こすことがあるためです。結果としてこうした動物はやがてデオキシニバレノールに汚染されたトウモロコシを食べなくなり、増体率は低下し、下痢や不活動、腸の大量出血が引き起こされることもあります。免疫系を抑制する可能性もあり、そうなると様々な感染病にかかりやすくなります。

輸出市場向けのトウモロコシについて FGIS にはデオキシニバレノール試験が求められていませんが、バイヤー側からの要請があればデオキシニバレノールの定性試験または定量試験のいずれかを実施します。

FDA はデオキシニバレノールについて勧告レベルを設定しています。トウモロコシを含む製品に適用される勧告レベルは以下のとおりです。

デオキシニバレノール 勧告レベル	基準
5.0 ppm	豚、飼料の20%以下
5.0 ppm	他に記載のない他のすべての動物、飼料の40%以下
10.0 ppm	鶏、飼料の50%以下
10.0 ppm	月齢4か月を超えて反芻を開始した肉牛および乳牛

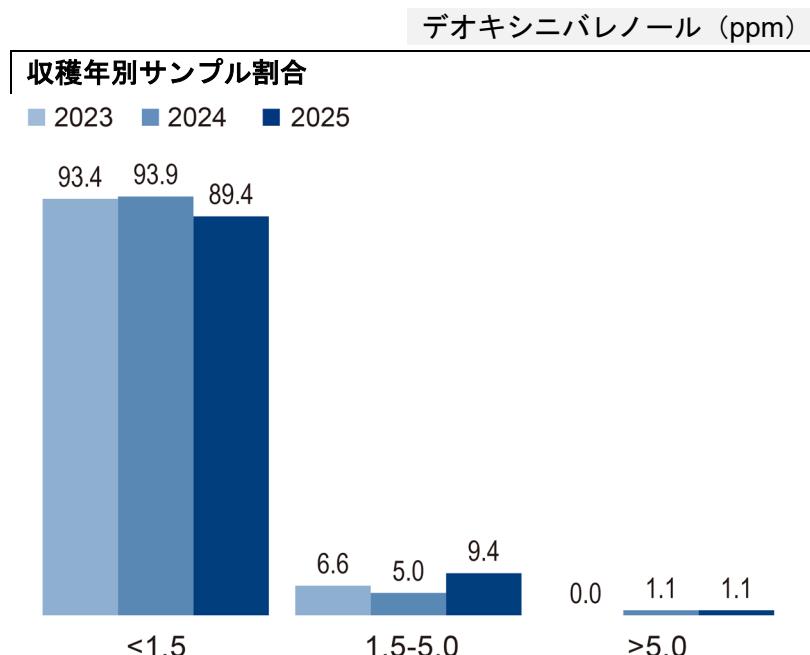
出典 : www.ngfa.org

詳細情報については、米国穀物飼料協会のガイダンス文書 「FDA Mycotoxin Regulatory Guidance」 (https://drive.google.com/file/d/1tqeS5_eOtsRmxZ5RrTnYu7NCIr896KGX/view) を参照してください。

結果

2025 年のデオキシニバレノールについては、合計 180 サンプルをまとめて分析しました。2024 年および 2023 年のデオキシニバレノール試験サンプル数はそれぞれ 180 件、181 件でした。2025 年の調査結果は以下のとおりです。

- 試験対象の 180 サンプル中 161 サンプル、すなわち 89.4% が 1.5 ppm を下回っている。2025 年のこの割合は 2024 年 (93.9%) と 2023 年 (93.4%) のいずれも下回っている。
- 試験対象の 180 サンプル中 17 サンプル、すなわち 9.4% が 1.5 ppm 以上で、かつ FDA の勧告レベルである 5.0 ppm 以下である。2025 年のこの割合は 2024 年 (5.0%) と 2023 年 (6.6%) のいずれも上回っている。
- 試験対象の 180 サンプル中 2 サンプル、すなわち 1.1% が FDA の勧告レベルである 5.0 ppm を上回っている。2025 年のサンプルでの結果は 2024 年 (1.1%) と同じで、2023 年 (0.0%) よりわずかに高い。



2025 年のデオキシニバレノールのレベルは、2024 年および 2023 年のそれとほぼ同じです。2025 年の試験対象サンプルのうち 5 ppm を下回るものの割合 (98.8%) が比較的高いのは、ほとんどの地域で一般的にデオキシニバレノールが発生しにくかった 2025 年の気象条件によるものと考えられます。

フモニシン

フモニシンは自然発生するマイコトキシンで、その多くは穀物、主にトウモロコシに見られます。フモニシンはアフラトキシンやデオキシニバレノールよりもかなり後になって発見されました。フモニシンはフザリウム属の様々な菌種から產生されます。フモニシン類はフモニシン B1、フモニシン B2 およびフモニシン B3 から構成されます。フモニシン B1 が最も多く、全フモニシンの約 70~80%を占めています。フモニシンに関する主要な懸念事項は飼料汚染で、特に馬や豚に対して有害な影響を及ぼすことがあります。菌およびフモニシンの形成は主に収穫前に起こります。虫は傷害因子として働くため、フモニシン汚染で重要な役割を果たします。温度および降雨条件は菌の増殖およびフモニシン汚染に関係します。一般に、フモニシン汚染は植物体のストレス、害虫による損傷、干ばつおよび土壌水分含量が関係しています。2001 年に FDA はヒトおよび動物への曝露を低減するために、トウモロコシ主体食品および飼料中のフモニシンの指導レベルを発表しました。FDA 勧告レベルは次のとおりです。

フモニシン勧告レベル	基準
5.0 ppm	ウマ科動物（馬）とウサギ、飼料の 20%以下
20.0 ppm	豚とナマズ、飼料の 50%以下
30.0 ppm	繁殖用反芻動物、繁殖用家禽類および繁殖用ミンク、飼料の 50%以下
60.0 ppm	月齢 3 か月を超える食肉用反芻動物、毛皮生産目的で飼養するミンク、飼料の 50%以下
100.0 ppm	食肉用に飼養する家禽類、飼料の 50%以下
10.0 ppm	上記以外のその他すべての動物、飼料の 50%以下

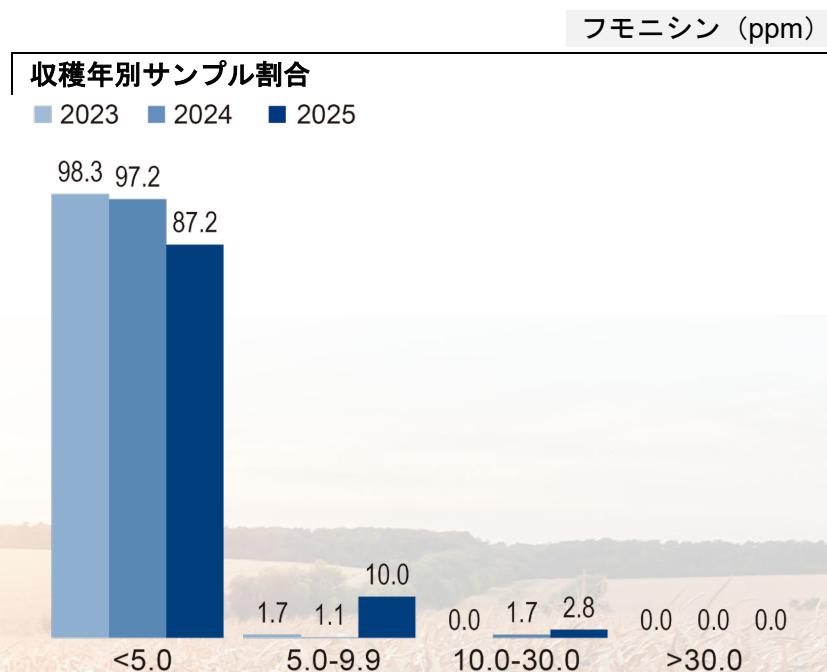
出典 : www.ngfa.org

詳細情報については、米国穀物飼料協会のガイダンス文書「FDA Mycotoxin Regulatory Guidance」(https://drive.google.com/file/d/1tqeS5_eOtsRmxZ5RrTnYu7NCIr896KGX/view) を参照してください。

結果

2025 年は合計 180 のサンプルをまとめてフモニシンを分析しました。フモニシンの試験は「2019/2020 年収穫時報告書」から実施しています。2025 年の試験結果は以下のとおりです。

- 試験対象 180 サンプル中 157 サンプル、すなわち 87.2%が動物に適用される勧告レベルの中で最も低い（ウマ類およびウサギ用）限界値である 5.0 ppm を下回っている。2025 年のこの割合は 2024 年 (97.2%) と 2023 年 (98.3%) のいずれも下回っている。
- 試験対象 180 サンプル中 18 サンプル、すなわち 10.0%が 5.0 ppm 以上 10.0 ppm 未満である。2025 年のこの割合は 2024 年 (1.1%) と 2023 年 (1.7%) のいずれも上回っている。
- 試験対象 180 サンプル中 5 サンプル、すなわち 2.8%が 10.0 ppm 以上 30.0 ppm 以下である。2025 年のこの割合は 2024 年 (1.7%) および 2023 年 (0.0%) をわずかに上回っている。
- 試験対象 180 サンプル中ゼロ、すなわち 0.0%が繁殖用反芻動物、家禽類およびミンクに適用される勧告レベルである 30.0 ppm を上回っている。2025 年のこの割合は 2024 年および 2023 年のいずれとも同じである。
- 5.0 ppm を下回る試験対象サンプルの割合が低いのは、おそらくフモニシンが発生しやすい環境条件によるものと考えられる。



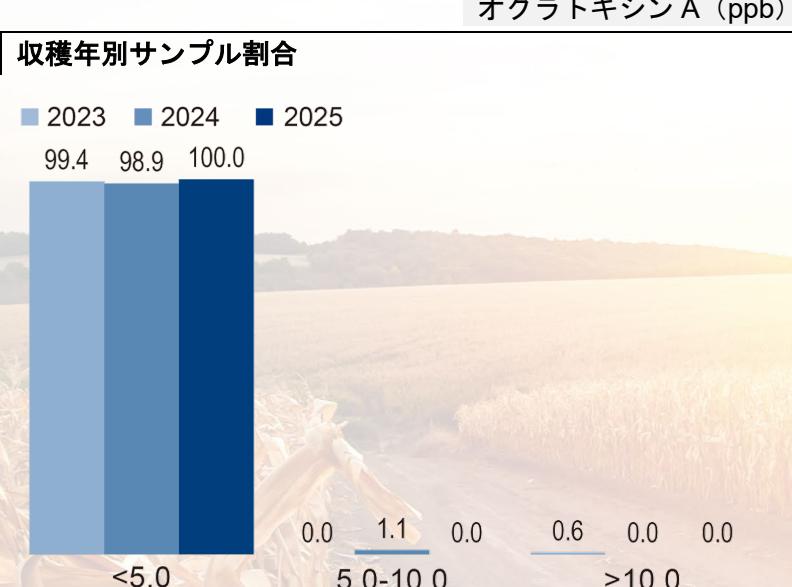
オクラトキシン A

オクラトキシンは、ペニシリウム・ベルコーサム (*Penicillium verrucosum*) やアスペルギルス・オクラセウス (*Aspergillus ochraceus*) など、穀類、穀物やその他の様々な食品にコロニーを形成できる多くの菌種から產生される危険なマイコトキシンと考えられています。これらの食品の中で、穀類や穀物が摂取されるオクラトキシンの 50~80%を占めると考えられています。菌類はオクラトキシン A、B および C を产生できますが、オクラトキシン A が最も大量に產生されます。オクラトキシン A は圃場から保管に至る製造経路のどこでも発生しますが、主に保管問題と考えられています。高水分含量・多湿 (14%超)、暖かさ (20°C 超)、および／または乾燥が不適切であった状況下で保管した穀物は、菌類に汚染されてオクラトキシンを产生する可能性があります。さらに、機械的、物理的な方法または害虫による損傷を受けた穀物は、菌類の侵入口になることがあります。菌類が穀物で最初に増殖すると代謝により十分な水分を形成でき、さらなる増殖とマイコトキシンの形成が可能になります。穀類や穀物食品は人間の食べ物の大きな割合を占めるため、いくつかの国では未加工穀物内のオクラトキシン A の最大レベルを設定しています。歐州委員会は、未加工穀物内のオクラトキシン A の最大レベルを 5.0 ppb に設定しました。FDA はオクラトキシン A に対する勧告レベルを設定していません。

結果

調査サンプルでのオクラトキシン A の試験は「2020/2021 年収穫時報告書」から実施しています。2025 年にオクラトキシン A について行った 180 サンプルの分析結果は次のとおりです。

- 試験したサンプル中 180 サンプル、すなわち 100.0%が、歐州委員会が設定したオクラトキシン A の最大レベルである 5.0 ppb を下回っている。この割合は 2024 年 (98.9%) と 2023 年 (99.4%) のいずれも上回っている。
- 試験したサンプル中、5.0 ppb 以上、10.0 ppb 以下のものはゼロサンプル、すなわち 0.0%である。2025 年のこの割合は 2024 年 (1.1%) を下回り、2023 年 (0.0%) と同じである。
- 試験したサンプル中 10.0 ppb を上回ったものはゼロ、すなわち 0.0%である。2025 年のこの割合は、2024 年 (0.0%) と同じで、2023 年 (0.6%) をわずかに下回っている。
- 2025 年は、2024 年および 2023 年よりオクラトキシン A がわずかに少なかった。5.0 ppb を下回る試験対象サンプルの割合が高いのは、オクラトキシン A が発生しにくい環境条件によるものと考えられる。



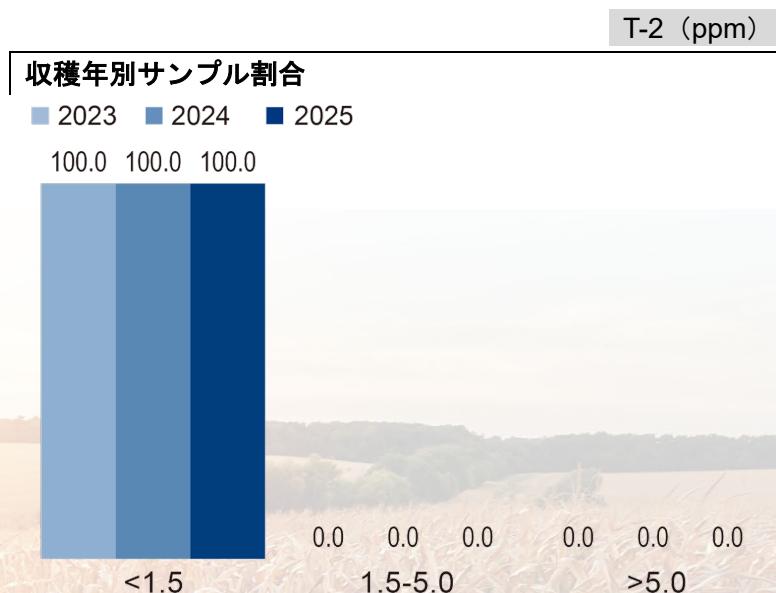
T-2

T-2 は、トリコテセンと呼ばれるマイコトキシン類に属するいくつかのマイコトキシン（デオキシニバレノール (DON) を含む）のひとつです。T-2 トキシンは、様々なフサリウム属の菌類によって生育中の穀物粒に产生します。この菌類は、広い温度範囲 (-2~35°C) と 0.88 を超える水分活性でのみ増殖できます。その結果、T-2 は収穫時の穀物には通常見られず、収穫後（特に冬季に）圃場に放置されて水害を被った穀物に見られます。一方、保管中に穀物が水害を被った場合は保管中に生じことがあります。FDA は T-2 トキシンに対する勧告レベルを設定していません。

結果

調査サンプルでの T-2 の試験は「2020/2021 年収穫時報告書」から実施しています。2025 年に T-2 について行った 180 サンプルの分析結果は次のとおりです。

- 2025 年に試験した 180 サンプル中 180 サンプル、すなわち 100.0% が 1.5 ppm を下回っている。2025 年のこの割合は 2024 年および 2023 年と同じである。
- 2025 年に試験したサンプル中、1.5 ppm 以上、5.0 ppm 以下のものはゼロ、すなわち 0.0% であり、これは 2024 年および 2023 年と同じである。
- 2025 年に試験したサンプル中、5.0 ppm を上回ったものはゼロ、すなわち 0.0% であり、これは 2024 年および 2023 年と同じである。



ゼアラレノン

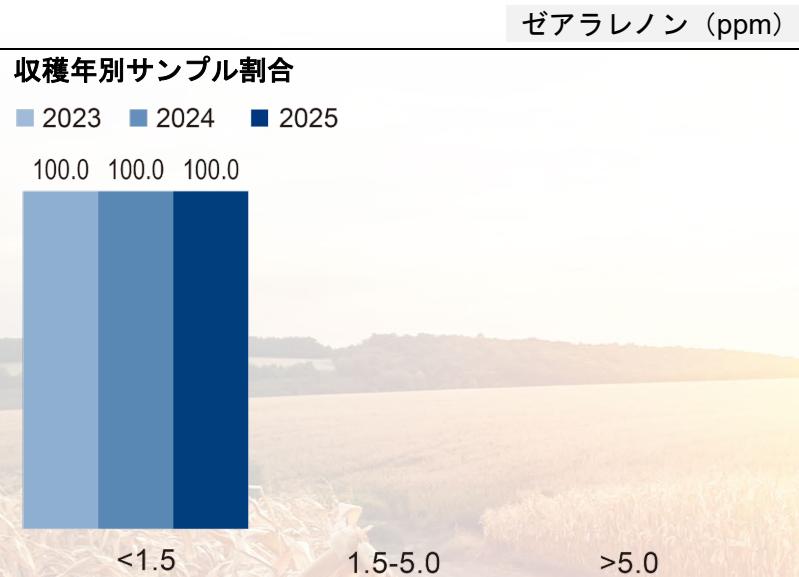
ゼアラレノンは、いくつかの例外を除く多くの点でデオキシニバレノール (DON) に非常に類似したマイコトキシンです。いずれもフザリウム属の菌類から產生されます。したがって、穀物と穀物製品内から両方のマイコトキシンが同時に見つかることは珍しくありません。ゼアラレノンとデオキシニバレノールの产生に対する生育条件は非常に類似しており、最適温度範囲は 65~85°F です。生育中の温度低下もまた、菌類によるトキシンの产生を刺激します。菌類がゼアラレノンを产生するのに必要な水分含量は 20%以上であり、この値もデオキシニバレノールの产生に必要な値とほぼ同じです。一方、生育中に水分含量が 15% 未満に低下するとトキシンの产生が停止します。これは、保管中のトウモロコシの水分含量レベルを 15% 未満まで乾燥させることが推奨される理由のひとつになっています。0.1~5.0 ppm という低いレベルでも豚に生殖問題が発生することが示されているため、汚染の可能性がある穀物を豚に与える場合は十分な注意が必要です。FDA はゼアラレノンに対する勧告レベルを設定していませんが、デオキシニバレノールに対する懸念レベルを守ることは推奨しています。

180 サンプルを試験してゼアラレノンに関する今年の生育条件の影響を評価した結果を以下に示します。用いたサンプリング基準と試験方法は、それぞれ「調査および統計分析の方法」および「試験分析法」のセクションに記載されています。

結果

「2020/2021 年収穫時報告書」から調査サンプルにゼアラレノンの試験を実施しています。2025 年の 180 サンプルの分析結果は次のとおりです。

- 2025 年に試験したサンプル中 180 サンプル、すなわち 100.0% が 1.5 ppm 未満である。この割合は 2024 年および 2023 年と同じである。
- 2025 年に試験したサンプル中、
1.5 ppm 以上だが 5.0 ppm 以下の
ものはゼロ、すなわち 0.0% であ
る。この割合は 2024 年および
2023 年と同じである。
- 2025 年に試験した 180 サンプル
中、5.0 ppm を上回ったものはゼ
ロ、すなわち 0.0% であり、これは
2024 年および 2023 年と同じであ
る。



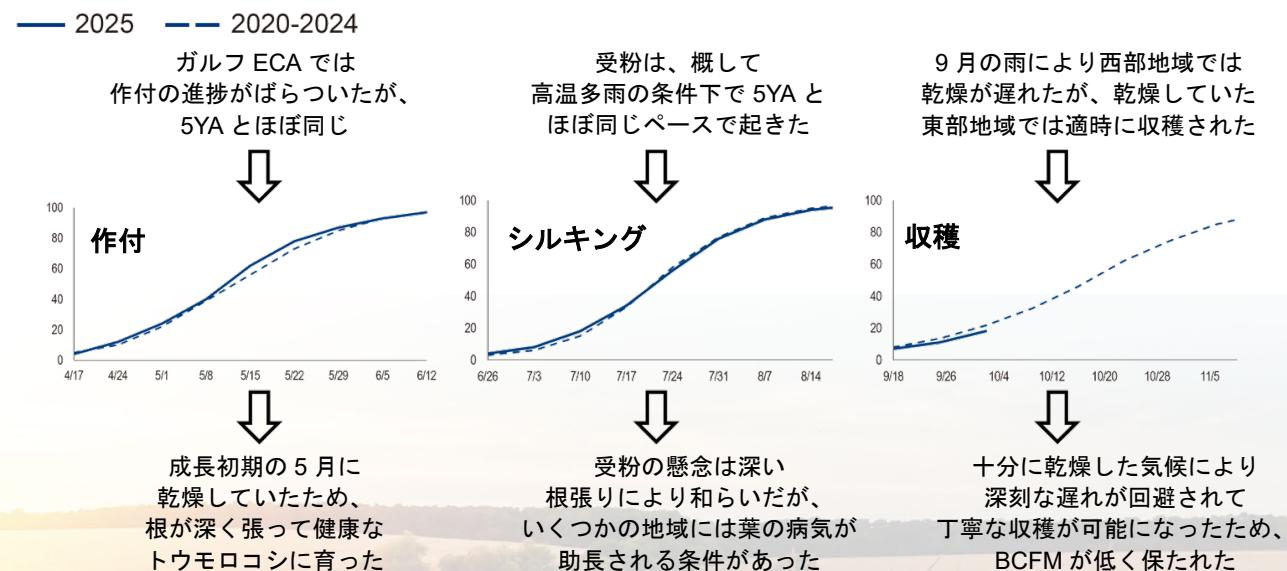
A. 2025 年収穫ハイライト

天候は、圃場におけるトウモロコシの作付作業、生育条件および穀粒の成長に大きな役割を果たします。そして、これらの要素は最終的な収量や品質に影響を及ぼします。全体的に、2025 年は成長を促す初期の雨と高温が登熟後期に和らいでそれに続く干ばつが緩和され、次いで申し分のない乾燥期と収穫期を迎えたという特徴があります。こういった条件が、シーズンを通して過去 5 年間で最も高い「良い」から「とても良い」の作柄評価¹につながりました。このような気象条件により、5YA と比べてデンプンのレベルは高いがタンパク質と油分含量のレベルが低い、わずかに小さく軽い穀粒のトウモロコシになりました。

以下に 2025 年生育期の重要な状況をハイライトとして記載します。

- ガルフ ECA 南部と南部鉄道網 ECA では、平均を超える降雨量と高温条件によって成長が早まった。
- 受粉期（シルキング段階）は高温多雨の条件によって 5YA とほぼ同じであった。
- 徐々に気温が下がって乾燥が進む条件の下で穀粒が成長したため、穀粒のサイズ、重量とタンパク質含量が抑えられた。
- シーズン末期の比較的高温で乾燥した条件により圃場がよく乾燥し、本報告書の 15 年の歴史の中で BCFM が最も少ないトウモロコシが、時間がかかりながらも安定して収穫された。

生育条件と作物成長への影響



注：連邦政府の閉鎖により、10 月から 11 月中旬までの米国農務省の収穫進捗データは入手できませんでした。11 月 16 日に終わる週の時点で、米国産トウモロコシは 91% が収穫されました (2024 年は 98%、5YA は 94%)。

¹ 米国農務省は、米国産トウモロコシの生産サイクル中に作柄を毎週評価しています。評価の基準は、単収見込みの他、極端な気温、水分の過多や不足、病害、虫害、雑草の影響といった多くの要因による植物体へのストレスです。

B. 作付と初期生育の状況

適時の開始、深い根張り

トウモロコシの単収と品質に影響を及ぼす気象ファクターとして、トウモロコシ生育期直前や期間中の降水量と気温が挙げられます。こうした気象ファクターは作付されたトウモロコシの品種や土壌の肥沃度に相互に影響を及ぼします。穀物の単収は1エーカー当たりの植物体数、1植物体当たりの穀粒数、および各穀粒の重量で決まります。作付時に低温多雨になると植物体の数が減少するか生育が妨げられ、単収の減少につながる可能性があります。根系が土深くまで発達すればするほど期間後半に水に到達しやすくなり、植物体の成育後期に窒素肥料が有効に保たれるので、作付時期や生育初期のある程度乾燥した天候は有利に働きます。

2025年

2025年の作付は例年通り進捗し、成長初期である5月は概して乾燥していたため、深い根張りが助長されました。その後の極端な降雨によりいくらかの懸念が生じたため、平均を下回る「良い」+「とても良い」の初期作柄評価につながりました。しかし、生き残ったトウモロコシは、受粉に向かって進むにつれて過去4年間を上回る健康な状態になりました。

米国北西部ECAでは作付が早まり、若いトウモロコシは受粉前の成長後期まで最初は多雨の条件で成長しました。

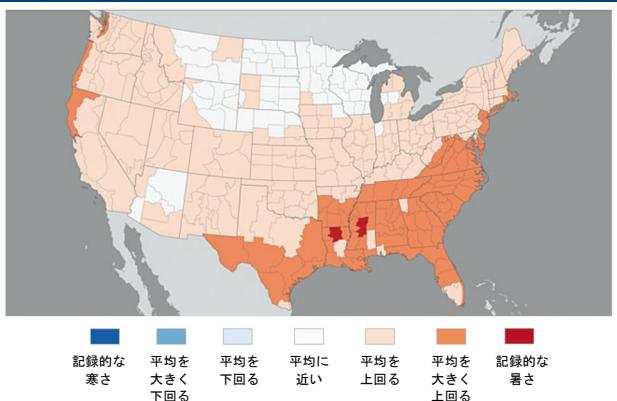
ガルフECA全体の作付は5YAと同じように進みましたが、早い作付と遅い作付が大きくばらつきました。若いトウモロコシは高温の極めて乾燥した条件で成長し、水を得るための根の深い伸長が促されました。受粉に向かって成長するにつれて高温多雨の天候に恵まれ、申し分のない成長が促されました。

南部鉄道網ECAのトウモロコシは平年より約1週間早く発芽し、多雨と洪水という条件と平年並みの気温～低温の中で成長しました。

地域別平均気温レベル

(期間 : 1895~2025)

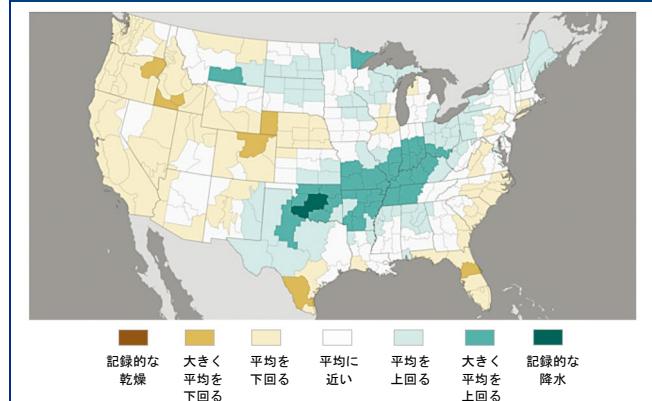
2025年4月



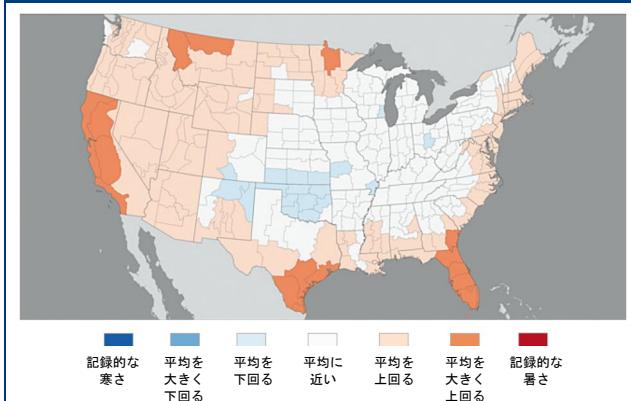
地域別降雨量レベル

(期間 : 1895~2025)

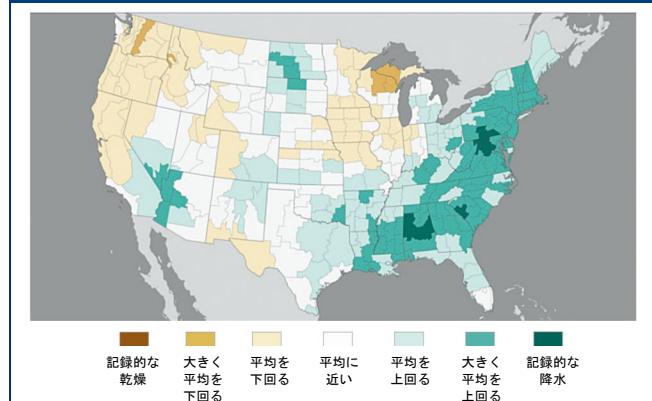
2025年4月



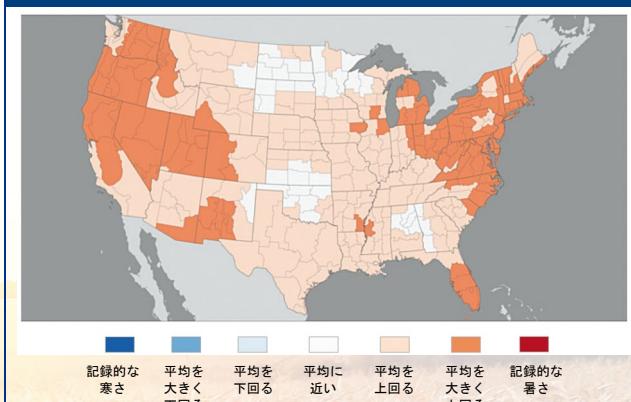
2025年5月



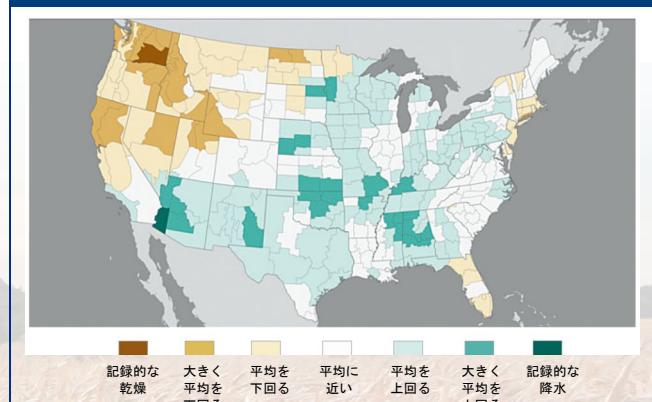
2025年5月



2025年6月



2025年6月



出典 : NOAA／地域気候センター

出典 : NOAA／地域気候センター

C. 受粉と登熟の状況

受粉と登熟に極めて良い条件

トウモロコシは通常 7 月に受粉しますが、この時期に気温が平均を上回ったりあるいは雨が不足したりすると、多くの場合穀粒数が減少します。7 月と 8 月の登熟期初期の気象条件は最終的な粒の組成に決定的な影響を及ぼします。受粉期に、降雨量がほどほどで気温、特に夜間の気温が平均気温を下回ると、収量が増加することとなります。とりわけ登熟期の後半（8 月から 9 月）に降雨量が少なく気温が高ければ、タンパク質が増加します。登熟期後半には窒素も葉から穀粒に再移動し、その結果穀粒のタンパク質と硬胚乳が増加します。

マイコトキシンの発生に関して、アフラトキシンの产生は、開花時期とそれに続く高温多湿期間中の熱ストレス、少雨および干ばつ状況によって誘発されます。デオキシニバレノールの产生は収穫の遅れや高水分含量のトウモロコシの保管に関連付けられますが、デオキシニバレノールを产生する真菌感染は、感染しやすい交配種のトウモロコシの穂の絹糸を通した感染による受粉後 3 週間以内に生じた低温や多雨の状況によって促進されます。

2025 年

2025 年は、ガルフ ECA 全体に高温多雨の条件で受粉が起こりました。このような条件ではアフラトキシンが発生しにくい一方、デオキシニバレノールへのかかりやすさも交配種に依存するため、今年はデオキシニバレノールがさらに発生しやすかったのです。

ガルフ ECA では、受粉期の熱ストレスにより、受粉するトウモロコシが減少するかもしれないという懸念が引き起こされました。ガルフ ECA の東部と中央部では、受粉後の干ばつストレスと熱ストレスの懸念がありました。このような状況では穀粒が脱落することがあります。穀粒数が少ないと、穀粒当たりの同化産物供給が増えて個々の穀粒が大きくなることがあります。しかし、初期の高温多雨の気候により、とりわけガルフ ECA で多くの葉の病気の増加が促されました。登熟期に気温が下がったとき、このような傷付いた葉は通常量の糖を産生できないために百粒重は 5YA より軽く、穀粒は（容積が）小さくなりました。

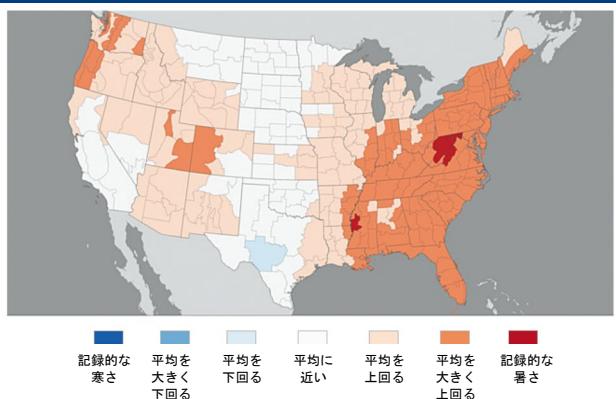
米国北西部 ECA の 7 月（受粉期）の気温は平年並みで平均を上回る降雨がありました。気温は登熟に適したものまで下ったため、穀粒中のデンプンのレベルは 5YA を上回りました。

南部鉄道網 ECA の気温は受粉期に一時的に上がりましたが、再び下がって穀粒が成長しました。以前に降った雨の貯留層に届くまで根が伸びたため、ストレスが緩和されました。平均～平均を超える降雨が続いたため、穀粒の成長が助けられるとともに真の密度は 5YA を上回るまでになりました。

地域別平均気温レベル

(期間 : 1895~2025)

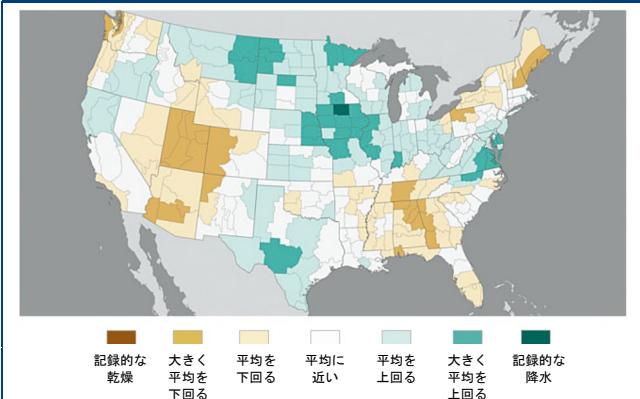
2025年7月



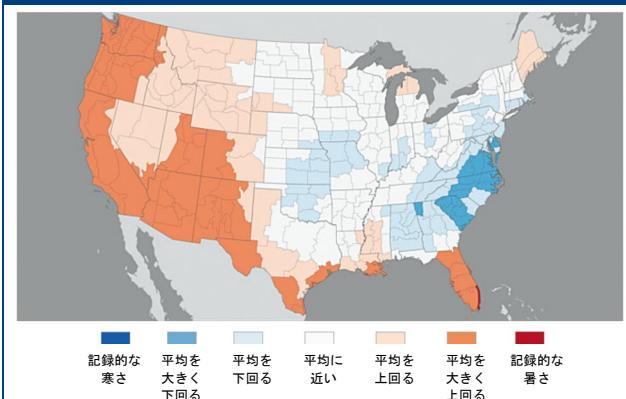
地域別降雨量レベル

(期間 : 1895~2025)

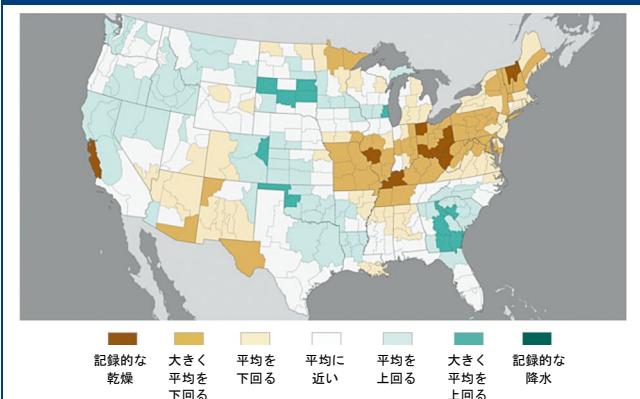
2025年7月



2025年8月



2025年8月



出典 : NOAA／地域気候センター

出典 : NOAA／地域気候センター

D. 収穫の状況

収穫は5YAよりわずかに遅れるが、地域によりばらつく

成熟したトウモロコシの水分含量の範囲は 25~35% です。生育期間の終盤において圃場での穀物の理想的な自然乾燥レベルは水分含量にして 15~20% ですが、これは日照、気温、湿度および土壌水分含量に左右されます。晴天で暖かく乾燥した日はトウモロコシが最も効果的に乾燥し、品質への悪影響も最小になります。生育期間終盤の天候上の懸念のひとつは、気温が氷点下になることです。穀粒が十分に乾燥する前に氷点下の気温になると単収や真の密度、容積重の低下に結びつくことがあります。また、十分に成熟する前に収穫すると水分含量が多くなり、水分含量の少ないトウモロコシと比較してストレスクラックや破損が発生しやすくなる可能性があります。非常に固い穀粒はストレスクラックも増えやすくなります。

2025 年

米国北西部 ECA と南部鉄道網 ECA では、9 月の高温と多雨のために穀粒の成熟と乾燥が遅れたため、5YA より収穫が遅れました。11 月中旬時点では米国北西部 ECA の収穫が最も遅れており、収穫完了率は 74%~90% の間でばらついていました。一方、南部鉄道網 ECA の推定収穫完了率は 92% でした。

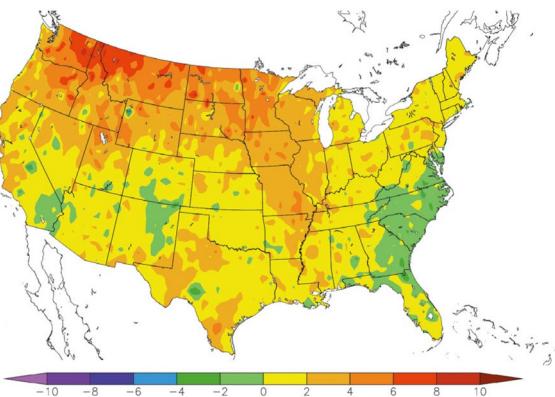
ガルフ ECA の大部分では高温乾燥条件が続き、登熟が拡大しました。成熟後もその気候が続いたため、生産者は雨による遅れや凍てつく天候のストレスなく丁寧に収穫でき、人工乾燥作業を実施する必要もありませんでした。

こういった季節的なストレスにもかかわらず、トウモロコシは高品質の穀粒を大量に付けることができました。熱ストレスと干ばつストレスに耐え、深く伸びた根で以前に降った雨水を吸い上げるトウモロコシ交配種の品種改良がますます進んでいます。生産者は、防カビ剤の使用機会を増やすことにより、高温多雨の天候や栽植密度の上昇によって助長される葉の病気と闘っています。防カビ剤は、穀粒内へのデンプンの蓄積を継続させるのに役立ちます。

生育期終盤が暖かかったことにより、デオキシニバレノール、フモニシン、オクラトキシン A、T-2、ゼアラレノンなどのマイコトキシンの大発生が食い止められました。

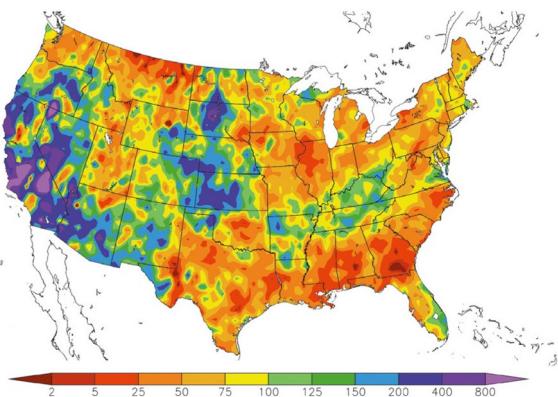
平年気温との差（°F）

2025年9月

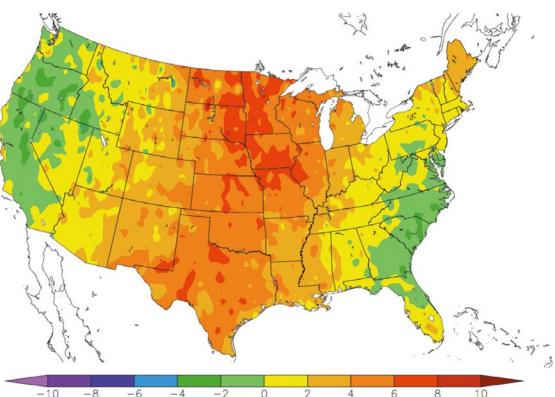


平年降雨量に対する割合

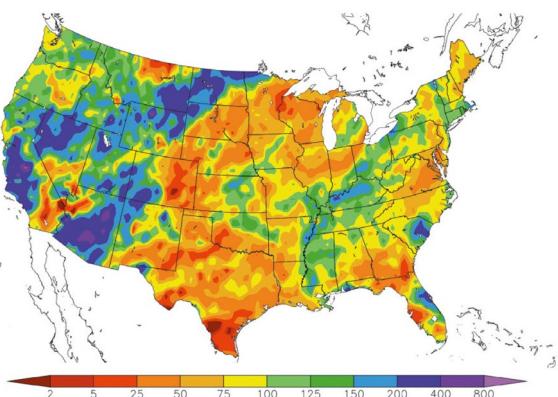
2025年9月



2025年10月



2025年10月



出典：ハイプレーンズ地域気候センター（HPRCC）、
連邦政府の閉鎖により本報告書出版時点でNOAAの
データは入手できていません。

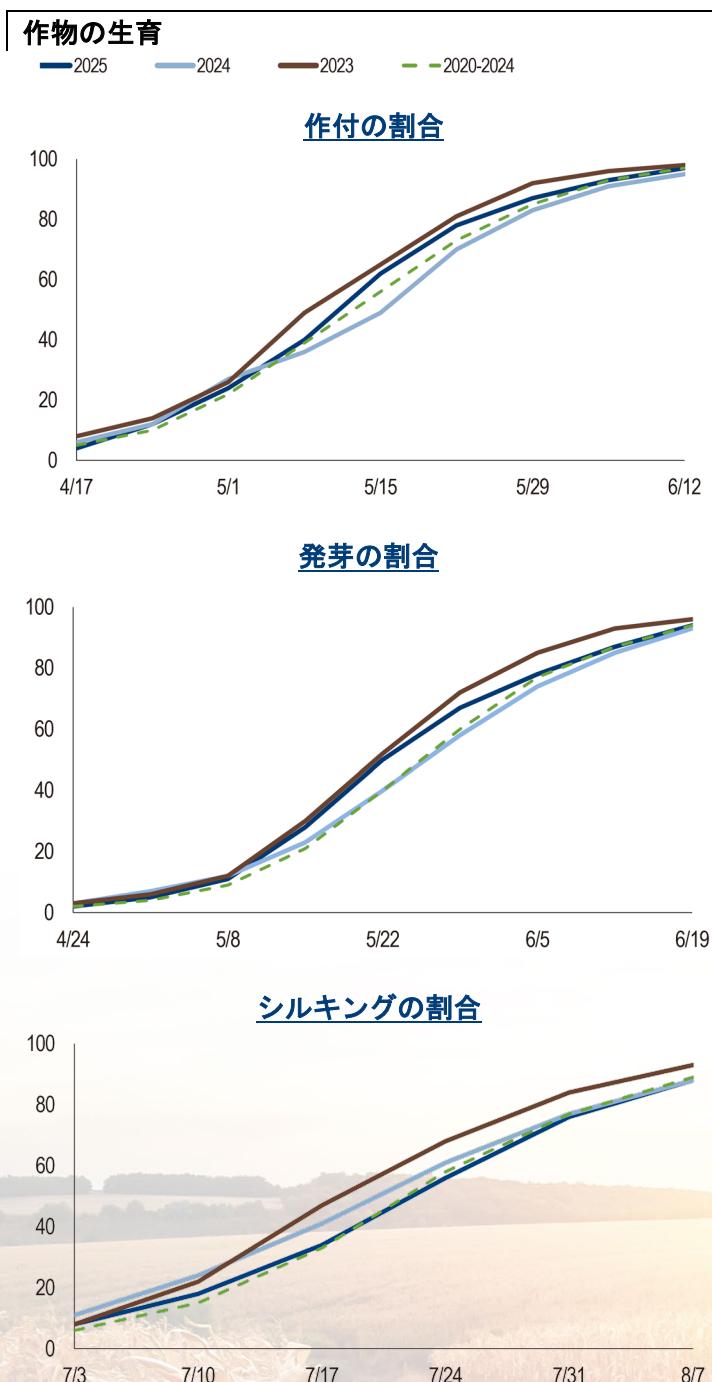
出典：ハイプレーンズ地域気候センター（HPRCC）、
連邦政府の閉鎖により本報告書出版時点でNOAAの
データは入手できていません。

E. 2024 年、2023 年および 5 年平均と比較した場合の 2025 年
2025 年のトウモロコシは穀粒が小さく軽く、デンプン含量は多い

2025 年のトウモロコシの作付は平均近くか平均よりわずかに早まったため、良好な生育能力を備えていました。2024 年のトウモロコシは雨による遅れを挟んだ 2 段階の作付になったため、生育、品質、収量がばらつく可能性が生じました。2023 年のトウモロコシの作付は、高温乾燥条件により 5YA より早まりました。

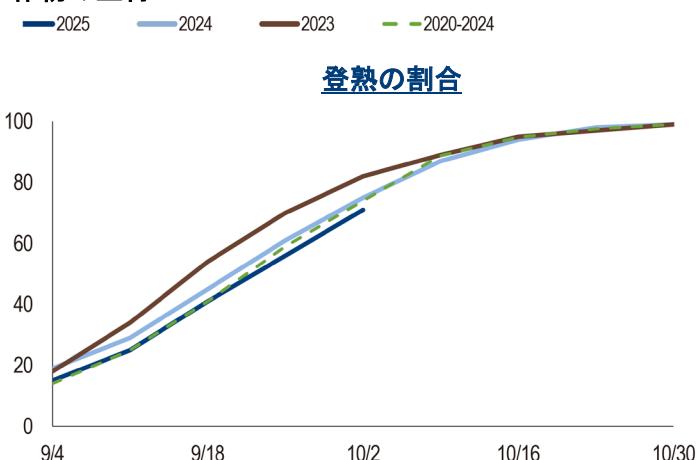
2025 年と 2023 年のトウモロコシの発芽は、高温条件により 5YA より早まりました。2024 年のトウモロコシは、季節にふさわしい気温ながら植物体成長期初期の多雨により、5YA と同じように発芽しました。2023 年は植物体成長期にわたって高温と干ばつが続いたため、穀粒数が抑えられました。

2025 年は高温条件の下でシルキングと受粉が起こりましたが、5YA とほぼ同じでした。2024 年のシルキングと受粉は 5YA および 2023 年より約 1 週間早く始まりましたが、次第に平年並みになりました。2023 年のシルキング／受粉は、雨のおかげで 5YA より全体に早まりました。



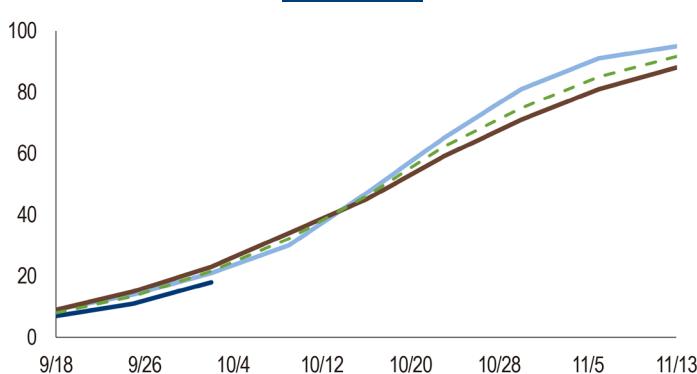
出典 : USDA NASS

作物の生育



2025 年は、登熟期の低温乾燥条件のおかげで 5YA とほぼ同じようにデンプンが蓄積され、成熟しました。2024 年は、カナダでの野火の煙により夏の暑さが和らげられましたが、光合成とデンプンの蓄積は増加しました。2023 年には高温乾燥条件により光合成が妨げられたため、デンプンと油分の蓄積が妨げられましたが、タンパク質と硬胚乳に望ましい状況となりました。

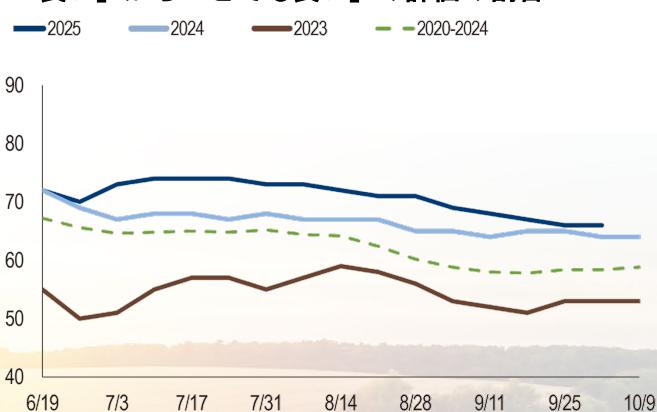
収穫の割合



2025 年の収穫は 5YA と同様に途切れることなく始まりましたが、雨のために遅れました。2024 年の収穫は乾燥条件により極めて早く終わりました。2023 年のトウモロコシは、干ばつ条件による急速な成熟、高温と落穂の懸念により当初は早期に収穫されましたが、10 月下旬には平年並みになりました。

米国産トウモロコシの作柄

「良い」から「とても良い」の評価の割合



2025 年は十分な降雨と高温～適温により、比較的高い「良い」から「とても良い」の作柄評価を維持しました²。2024 年のトウモロコシは高い評価で始まり、初期の十分な降雨とシーズンの大部分を通した適温に恵まれて、シーズンを通して 5YA を上回る評価にとどまりました。2023 年、作柄はやや低い格付けで始まり、過度な高温と干ばつにより、格付けは穀粒の植物体登熟期の間に 5YA を下回るまで急速に下がり、その後安定しました。

出典 : USDA NASS

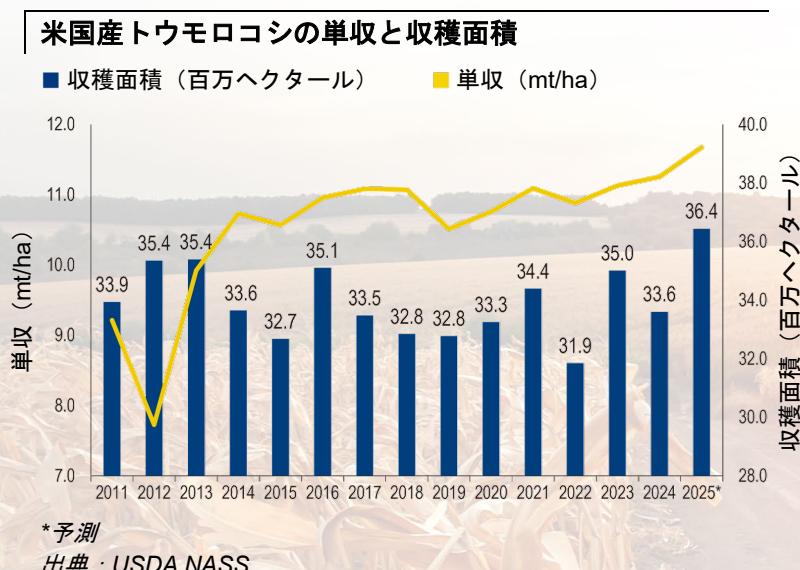
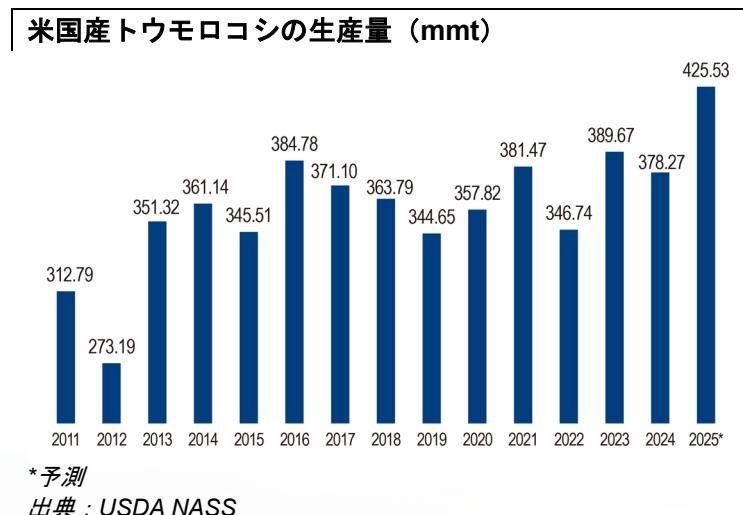
注 : 運邦政府の閉鎖により、10 月から 11 月中旬までの米国農務省の収穫進捗データは入手できませんでした。11 月 16 日に終わる週の時点で、米国産トウモロコシは 91% が収穫されました (2024 年は 98%、5YA は 94%)。

² 「良い」の評価は通常の単収が見込まれることを意味する。水分レベルは適切で、病害、虫害および雑草圧力の程度は低い。「とても良い」の評価は単収見込みが通常以上で、作物にストレスがほとんどまたは全くないことを意味し、病害、虫害および雑草圧力は取るに足りないレベルである。

A. 米国産トウモロコシの生産量

米国平均生産量および単収

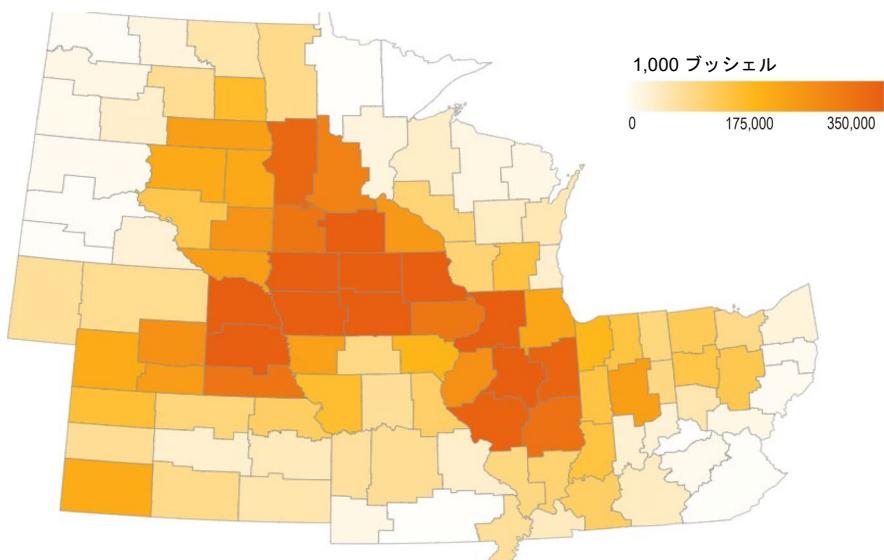
2025年11月USDA世界農業需給予測(WASDE)報告書では、2025年の米国産トウモロコシ生産量は4億2553万メートルトン(167億5200万ブッシュエル)と予測されています。これが実現すると、本年のこの量は従来の記録である2023/2024年の3億8967万メートルトン(153億4100万ブッシュエル)を凌ぐ、史上最大の記録になるでしょう。単収平均値は1ヘクタール当たり11.67メートルトン(1エーカー当たり186.0ブッシュエル)と予測されていますが、これは2024/2025年に作られた従来の記録的な単収(1ヘクタール当たり11.25メートルトン(1エーカー当たり179.3ブッシュエル))を上回ります。2025年は、1933年(3728万ヘクタール(9213万エーカー))以来最大の計3644万ヘクタール(9005万エーカー)での収穫が予測されています。



ASD と州レベルの生産量

「2025/2026 年収穫時報告書」の対象地域には米国最大のトウモロコシ生産地域が含まれています。下の地図は USDA 農業統計地域 (ASD) の 2025 年トウモロコシ生産量予測を示しています。これらの州が米国産トウモロコシ輸出量の 90%超を占めています¹。

2025 年 ASD 別米国産トウモロコシ生産量予測

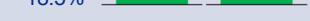
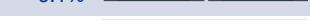
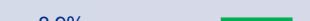
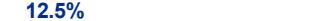
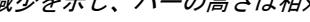


出典 : USDA NASS および Centrec の予測値

¹ 出典 : USDA NASS、USDA GIPSA および Centrec の予測値

州別米国産トウモロコシ生産量の図と表は各州の2024年生産量と2025年予測生産量との間の変化をまとめたものです。表には収穫面積と単収の相対変化も記載しています。緑のバーは2025年の予測値を2024年と比較した場合の相対的な増加を、赤色のバーは相対的な減少を示しています。

12の主要トウモロコシ生産州のすべてで2024年を上回る生産量が見込まれ、5つの州で生産量が前年から大きく(10%超)変わると予測されています。ケンタッキー、ミズーリ、ノースダコタを除くすべての州で、2024年を上回る平均単収が見込まれています。収穫面積は、12の主要トウモロコシ生産州のうちオハイオを除く各州で増加すると予測されています。オハイオの収穫面積はわずかに0.6%減少すると予測されています。

州	州別米国産トウモロコシ生産量		差異 mmt	パーセント	相対変化 (%) †	
	2024 (mmt)	2025 (mmt)*			面積	単収
イリノイ	58.70	61.75	3.05	5.2%		
インディアナ	25.40	27.47	2.07	8.2%		
アイオワ	66.72	71.32	4.60	6.9%		
カンザス	19.00	22.53	3.52	18.5%		
ケンタッキー	5.79	5.92	0.13	2.2%		
ミネソタ	34.16	41.08	6.92	20.2%		
ミズーリ	15.57	16.41	0.84	5.4%		
ネブラスカ	45.79	49.97	4.18	9.1%		
ノースダコタ	13.78	16.17	2.39	17.4%		
オハイオ	14.39	15.67	1.28	8.9%		
サウスダコタ	22.45	26.85	4.40	19.6%		
ウィスコンシン	13.08	14.73	1.65	12.6%		
米国合計	378.27	425.53	47.25	12.5%		

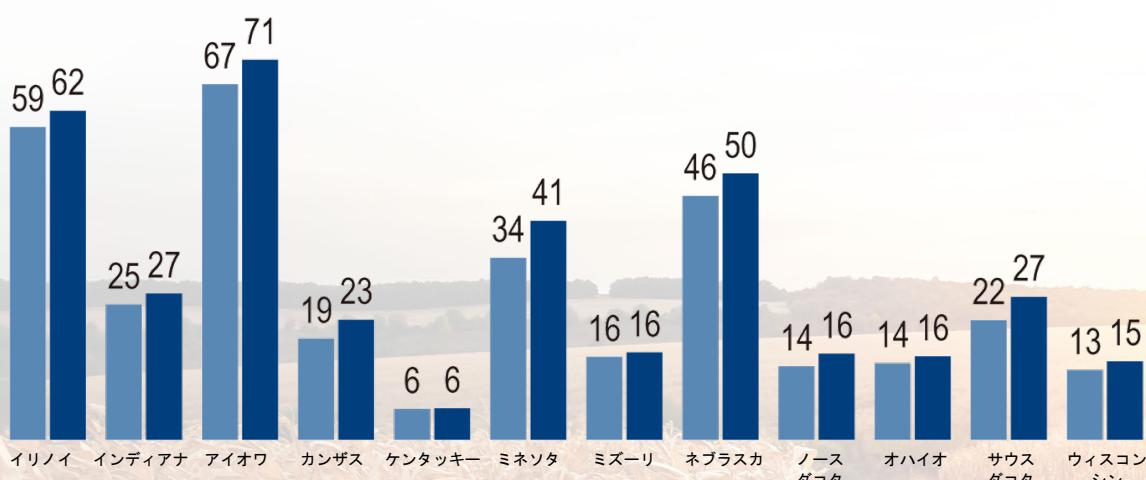
†緑は前年からの増加、赤は前年からの減少を示し、バーの高さは相対的な増減量を表す。

*予測

出典 : USDA NASS

州別米国産トウモロコシ生産量 (mmt)

■ 2024 ■ 2025*



*予測

出典 : USDA NASS

B. 米国産トウモロコシの消費量および最終在庫量

トウモロコシ生産量が対前年比で 2.9% 減少したことを受け、市場年度 24/25 の米国産トウモロコシのすべてのカテゴリーでの消費量と最終在庫量は市場年度 23/24 より減少しました。

食品、種子およびエタノール以外のその他産業用途でのトウモロコシ消費量は、一般に長期にわたって相対的に一定ですが、市場年度 24/25 は市場年度 23/24 より 0.4% 減少しました。

米国の精製業者が供給したガソリン最終製品がわずかに増加し、エタノール輸出量が増加し続けているにもかかわらず、市場年度 24/25 に国内のエタノール生産に用いられたトウモロコシの量は 23/24 より 1.0% 減少しました。米国の精製業者が供給したガソリン最終製品の量は、COVID-19 のパンデミック後に回復してから安定し、市場年度 23/24 から 24/25 にかけて 0.3% 増加しました²。エタノール輸出量の増加は、エタノール生産用トウモロコシの消費量の増加も意味します。エタノール輸出量は、市場年度 22/23（9 月～8 月）から 23/24 に 41.3% 増加した後、市場年度 23/24 から 24/25 にさらに 21.1%（13 億 8000 万リットル）増加しました³。エタノールの総生産量が増加したにもかかわらずエタノール生産用トウモロコシの消費量が 1.0% 減少したのは、市場年度 23/24 と比べて 24/25 にエタノール生産用ソルガムの消費量が 155 万メートルトン（254%）増加したことによって説明できます⁴。

市場年度 24/25 の国内の家畜・家禽用飼料原材料としてのトウモロコシの直接消費量もまた減少し、市場年度 23/24 を 5.8% 下回りました。

市場年度 24/25 の総国内消費量は 23/24 より 3.1% 減少する一方、市場年度 24/25 の米国産トウモロコシの輸出量は 23/24 より 25.5% 増加しました。

トウモロコシの国内生産量の減少と輸出量の増加が、国内消費量減少の影響を打ち消し、市場年度 24/25 の最終在庫量は 23/24 より 13.1% 減少しました。

² 米国エネルギー情報局「週次石油ステータスレポート」、2025 年 11 月 13 日に <https://www.eia.gov/petroleum/supply/weekly/> から評価した。最終製品である自動車用ガソリンとして供給された米国製品の週間見積もり（1000 バレル/日）は、9 月から 8 月までの平均を取って米国トウモロコシ市場年度に合わせて比較できるようにした。

³ USDA/外国農業サービス局 - 世界農業貿易システム。データは 2025 年 11 月に受領。

⁴ USDA/WASDE

C. 概要

米国の見通し

2025 年米国産トウモロコシの記録的な予想生産量から、市場年度 25/26 は消費量と輸出量のレベルが上昇すると予想されています。

エタノール生産用トウモロコシの市場年度 25/26 の消費量は、24/25 より 417 万メートルトン (3.0%) 増加すると予測されています。

市場年度 25/26 の飼料およびその他の用途での国内トウモロコシ消費量は 1 億 5495 万メートルトンと見込まれています。この予想は 24/25 を 1544 万メートルトン (11.1%) 上回ります。

食品、種子およびエタノール以外の産業用途でのトウモロコシ消費量は 3505 万メートルトンと見込まれ、これは 5YA (3573 万メートルトン) に近いレベルです。

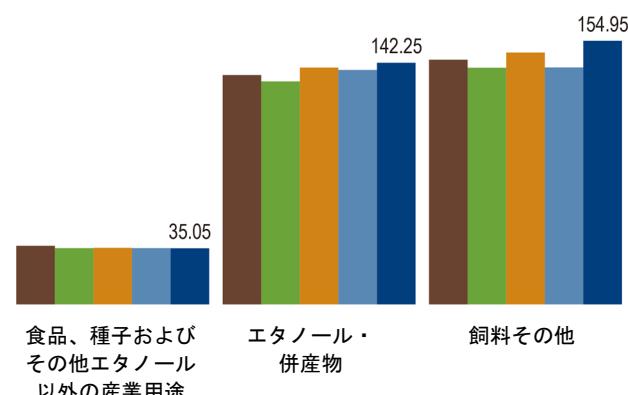
市場年度 25/26 の米国産トウモロコシ輸出量は、記録的なトウモロコシ収穫量が予想されることから増加すると予測されています。市場年度 25/26 の米国産トウモロコシ輸出量は 7811 万メートルトンと予測され、これは市場年度 24/25 を 622 万メートルトン (8.7%) 上回り、5YA を 1732 万メートルトン (28.5%) 上回ります。

市場年度 25/26 の米国最終在庫は 5471 万メートルトンと予測され、前年から 1580 万メートルトン (40.6%) 増加します。これが現実になると、5682 万メートルトンであった市場年度 18/19 以来最も多い米国最終在庫となるでしょう。

対消費在庫率に関しては、市場年度 25/26 は 13.3% と予測されています。これは、14.5% であった市場年度 19/20 以来最も高い値です。

市場年度別米国産トウモロコシ消費量 (mmt)

■ 市場年度 21/22 ■ 市場年度 22/23 ■ 市場年度 23/24
■ 市場年度 24/25 ■ 市場年度 25/26*

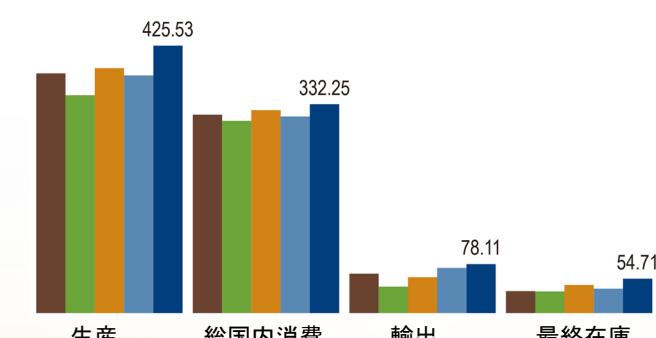


*予測

出典 : USDA WASDE および ERS

米国産トウモロコシ生産量および消費量 (mmt)

■ 市場年度 21/22 ■ 市場年度 22/23 ■ 市場年度 23/24
■ 市場年度 24/25 ■ 市場年度 25/26*



*予測

出典 : USDA WASDE および ERS

世界の見通し⁵

世界の供給

市場年度 25/26 の世界のトウモロコシ生産量は 12 億 8623 万メートルトンと見込まれています。これは、市場年度 24/25 より 5550 万メートルトン（4.5%）多い量です。

さらに、市場年度 25/26 の世界のトウモロコシ輸出は 2 億 347 万メートルトンと見込まれ、市場年度 24/25 を 1497 万メートルトン（7.9%）上回ります。セルビア、カナダおよび欧州連合（EU）からの輸出量の減少は、ブラジル、アルゼンチン、ウクライナおよび米国からの輸出量の増加によって埋め合わされると予想されています。

世界の需要

市場年度 25/26 には、世界のトウモロコシ消費量は市場年度 24/25 の 12 億 5461 万メートルトンから 3.3% 増加して、12 億 9654 万メートルトンになると見込まれています。市場年度 25/26 では、米国、中国、メキシコ、ブラジルおよびインドの消費量はいずれも前年度を 100 万メートルトン以上上回ると予想されています。これに対し、市場年度 25/26 のトウモロコシ消費量は、トルコのみ昨市場年度を 100 万メートルトン以上下回ると予想されています。

中国と EU は、それぞれの輸入量が昨市場年度を 100 万メートルトン以上上回ると予想されています。トルコのみ、市場年度 25/26 のトウモロコシ輸入量が昨市場年度を 100 万メートルトン以上下回ると予想されています。

⁵ USDA/Foreign Agricultural Service-Production, Supply and Distribution Database。データは 2025 年 11 月に取得した。

米国産トウモロコシ供給量および消費量の市場年度別まとめ

単位（メートル法単位）	21/22	22/23	23/24	24/25	25/26*
面積（百万ヘクタール）					
作付	37.76	35.69	38.28	36.79	39.94
収穫	34.39	31.85	35.01	33.61	36.44
単収（メートルトン/ヘクタール）	11.09	10.88	11.13	11.25	11.67
供給量（百万メートルトン）					
期首在庫	31.36	34.97	34.55	44.79	38.91
生産量	381.47	346.74	389.67	378.27	425.53
輸入量	0.62	0.98	0.72	0.51	0.64
総供給量	413.44	382.70	424.94	423.58	465.07
消費量（百万メートルトン）					
食品、種子、その他エタノール以外の産業用途	36.50	35.12	35.32	35.18	35.05
エタノール・併産物	135.12	131.47	139.42	138.08	142.25
飼料その他	144.04	139.35	148.13	139.50	154.95
輸出量	62.80	42.21	57.28	71.89	78.11
総消費量	378.47	348.15	380.15	384.65	410.36
最終在庫	34.97	34.55	44.79	38.91	54.71
平均農家出荷価格（ドル/メートルトン**）	236.21	257.47	179.13	166.92	157.47

英國単位	21/22	22/23	23/24	24/25	25/26*
面積（百万エーカー）					
作付	93.3	88.2	94.6	90.9	98.7
収穫	85.0	78.7	86.5	83.0	90.0
単収（ブッシュル/エーカー）	176.7	173.4	177.3	179.3	186.0
供給量（百万ブッシュル）					
期首在庫	1,235	1,377	1,360	1,763	1,532
生産量	15,018	13,651	15,341	14,892	16,752
輸入量	24	39	28	20	25
総供給量	16,277	15,066	16,729	16,675	18,309
消費量（百万ブッシュル）					
食品、種子、その他エタノール以外の産業用途	1,437	1,382	1,391	1,385	1,380
エタノール・併産物	5,320	5,176	5,489	5,436	5,600
飼料その他	5,671	5,486	5,832	5,492	6,100
輸出量	2,472	1,662	2,255	2,830	3,075
総消費量	14,900	13,706	14,966	15,143	16,155
最終在庫	1,377	1,360	1,763	1,532	2,154
平均農家出荷価格（ドル/ブッシュル**）	6.00	6.54	4.55	4.24	4.00

*予測値

**農家出荷価格は出荷量に基づく加重平均値である。

WASDE の 2025 年 11 月予測価格に基づく 25/26 平均農家出荷価格

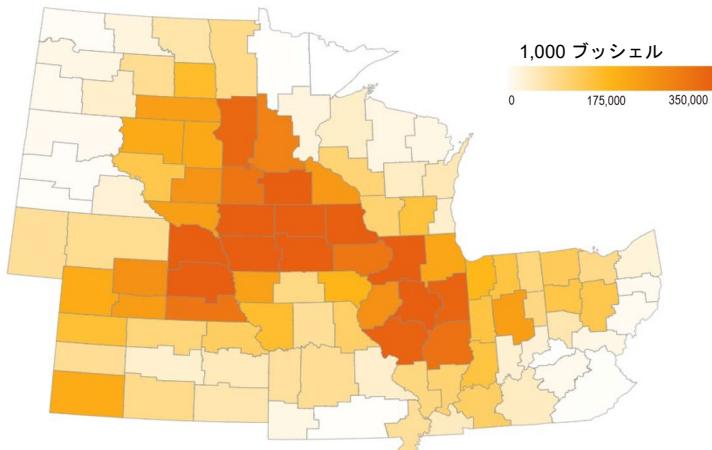
出典 : USDA WASDE および ERS

A. 概要

本「2025/2026 年収穫時報告書」の調査デザインとサンプリングおよび統計分析の要点は以下のとおりです。

- 過去 14 年の収穫時報告書のために開発した方法に沿って、米国産トウモロコシ輸出量の 90%超を占める 12 の主要トウモロコシ生産州を対象とし、農業統計地域 (ASD) に従つてサンプルを層別比例配分した。
- 12 州から採取した合計 600 のサンプルを対象とし、信頼度 95.0%での米国集計の品質ファクター予測で最大 10.0%の相対許容誤差を達成することを目指した。
- ブレンドされていない合計 621 のトウモロコシのサンプル入手し、報告するために試験した。これらのサンプルは、2025 年 8 月 5 日から 11 月 8 日の間に地域のエレベーター業者によって農家からトラックで搬入されたトウモロコシから抜き出した。
- 他の品質ファクターについては、試験対象 12 州の ASD すべてに対し、マイコトキシン試験に層別比例配分サンプリング法を用いた。このサンプリングの結果、180 のサンプルをアフラトキシン、デオキシニバレノール、フモニシン、オクラトキシン A、T-2 およびゼアラレノン試験に採用した。
- 層別比例配分サンプリングのための標準的な統計手法を用いて、米国集計と 3 つの輸出拠点地域 (ECA) の加重平均値および標準偏差を計算した。
- サンプルの統計的妥当性を評価するため、米国集計と 3 つの ECA のレベルで各品質ファクターの相対許容誤差を計算した。いずれの品質ファクターについても、相対許容誤差は米国集計の 10.0% を上回ることはなかった。一方、米国北西部 ECA のストレスクラックの相対許容誤差は 10.9% であった。これらの精度レベルは望ましいレベルより低いものの、推算を無効にするものではない。
- 本年の品質ファクターの平均値と、過去 2 年間の報告書、5YA および 10YA の品質ファクターの平均値の統計的差異を求めるために、信頼度 95.0% で両側 t 検定を実施した。

2025 年 ASD 別米国産トウモロコシ生産量予測



出典 : USDA NASS および Centrec の予測値

B. 調査設計とサンプリング

調査設計

本「2025/2026 年収穫時報告書」では、米国産トウモロコシ輸出量の 90%超を占める米国の 12 の主要生産州のイエローコーンを目標母集団としています¹。流通経路の最初の段階で米国産トウモロコシの統計的サンプリングを正しく確実に実施するために、層別比例無作為抽出法を採用しました。この手法の重要な 3 つの特徴はサンプリング対象の母集団の階層化、層別のサンプリング比、および無作為試料の抽出手順です。

階層化では調査対象母集団を地域、すなわち階層（ストラータ）と呼ばれる重複のない部分母集団に分割します。今回の試験では、調査母集団はトウモロコシを海外市場に輸出する可能性の高い地域で生産されたトウモロコシです。米国農務省（USDA）は各州をいくつかの農業統計地域（ASD）に分割し、ASD 別のトウモロコシ生産予測を行っています。海外輸出予測を伴う USDA のトウモロコシ生産データは、12 の主要トウモロコシ生産州の調査対象母集団を定義する目的で用いています。ASD は部分母集団、すなわち今回のトウモロコシ品質調査に用いられる階層です。当協会ではこうしたデータから、各 ASD の総生産量および海外輸出量に占める割合を計算してサンプリング比（ASD ごとのサンプル総数に占める割合（パーセント））を求め、最終的に各 ASD から採取すべきトウモロコシサンプルの数を決定しました。ASD それぞれに予測される生産量や海外輸出レベルの割合が異なるため、「2025/2026 年収穫時報告書」のために採取するサンプルの数は ASD ごとに異なるものになりました。

採取サンプルの数は、当協会が一定レベルの正確度で種々の品質ファクターの真の平均値を推算できるように決定しました。「2025/2026 年収穫時報告書」のために採用した正確度は相対許容誤差 (ME) が 10.0% 以内で、信頼度は 95.0% で推算されます。

目標とする相対許容誤差を満たすことのできるサンプル数を決定するために、理想を言えば品質ファクターそれぞれについて母分散（すなわちトウモロコシ収穫時の品質ファクターのばらつき）を用います。品質ファクターのレベルや数値にはばらつきが大きいほど、定めた信頼限界での真の平均値を推算するために多くのサンプルが必要となります。これに加えて、多くの場合品質ファクターの分散はそれに異なります。したがって、各品質ファクターについて同じレベルの精度を得ようとすると、異なる数のサンプルが必要となります。

¹ 出典 : USDA NASS、USDA GIPSA およびCentrec の予測値

今年度のトウモロコシの評価に用いられる品質ファクターの母分散は未知であるため、「2024/2025 年収穫時報告書」からの分散推計値を代用しました。2024 年の 620 サンプルの結果を用いて、13 の品質ファクターについて相対許容誤差を 10.0%以下にするのに必要なばらつきと、最終的にはサンプル推定数を計算しました。破損粒、異物、熱損傷は試験対象外としました。これらのデータに基づき、サンプル数が最低 600 あれば当協会は米国集計について望ましいレベルの正確度で品質特性の真の平均値を推算できると考えました。

2024 年の米国集計でのストレスクラックの相対許容誤差は 10.0%以内でしたが、過去 14 年の報告書のうち 3 年の報告書でこの品質ファクターの相対許容誤差は 10.0%をわずかに上回りました。「2025/2026 年収穫時報告書」のサンプル数とこの品質ファクターのばらつきの予測が不可能であることを考慮すると、米国集計ではストレスクラックの目標正確度を達成できない可能性がありました。しかし、過去の報告書でストレスクラックの相対許容誤差が 12%を超えたことは一度もありませんでした。

等級、水分含量、化学的特性および物理的特性を試験したトウモロコシのサンプルと同じ層別比例サンプリング手法を適用してトウモロコシサンプルのマイコトキシン試験を行いました。同じサンプリング手法を用いることに加えて、95.0%の信頼度で推定した相対許容誤差が 10.0%以下という同じ精度レベルが望まれました。

最低サンプル数（600）の 25%以上を試験することによって、そのレベルの精度を得ることができると推測されました。言い換えれば、150 個以上のサンプルを試験すると、試験したサンプルのうち FDA のアフラトキシン規制レベル（20.0 ppb）を下回るサンプルの割合、FDA のデオキシニバレノール勧告レベル（5.0 ppm）を下回る割合の相対許容誤差が 10.0%以下であることが信頼度 95.0%で示されることになります。フモニシン、オクラトキシン A、T-2 およびゼアラレノンについては、今年度の報告書では目標とする正確度を設定していません。層別比例サンプリング手法ではサンプリング対象地域の ASD それぞれから少なくとも 1 サンプルを試験しなければなりませんでした。最低サンプル数（600）の 25%を試験し、各 ASD のサンプルを最低でも 1 サンプル試験するというサンプリング基準を満たすため、マイコトキシン試験の目標サンプル数は 180 となりました。

「2019/2020 年収穫時報告書」で初めてのこととして、マイコトキシン試験を行ったサンプルに限定して硬胚乳試験を実施しました。この試験プロトコルは、「2020/2021 年収穫時報告書」における百粒重、穀物容積および真の穀粒密度試験にも適用しました。これらの品質ファクターの相対許容誤差は「2020/2021 年収穫時報告書」より前の 10 年間の報告書の試験サンプルで 0.6%を超えたことがなく、目標最大精度である 10.0%を大きく下回っていました。したがって、硬胚乳試験、百粒重試験、穀粒容積試験および真の穀粒密度試験を実施するサンプル数を減らしても、これらの品質ファクターの推定値は目標最大レベルである 10.0%を優に下回る精度を維持すると考えられます。

当初 8 年の「収穫時報告書」では、ストレスクラック比率に加えてストレスクラック指標も報告してストレスクラックの深刻度がわかるようにしていました。ストレスクラック指標は以下の数式を用いて求めることができます。

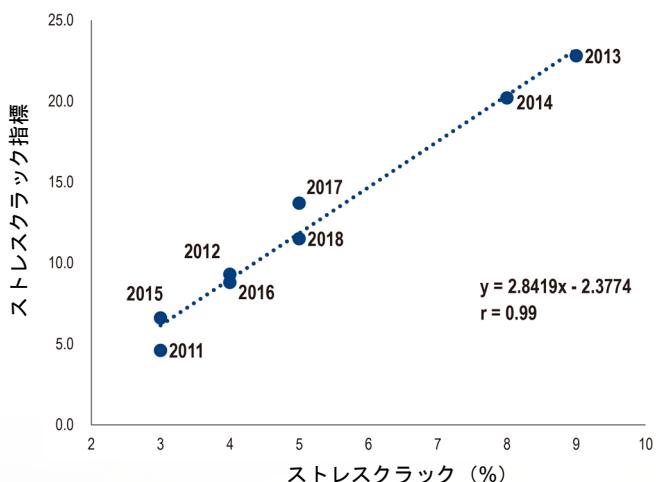
$$[\text{SSC} \times 1] + [\text{DSC} \times 3] + [\text{MSC} \times 5]$$

ここで、

- SSC は亀裂が 1 本のみの粒の割合 (%)
- DSC は亀裂が 2 本の粒の割合 (%)
- MSC は亀裂が 3 本以上の粒の割合 (%)

当初 8 年の「収穫時報告書」での米国集計のストレスクラック比率とストレスクラック指標を右の散布図に示します。ストレスクラック比率との強い相関関係 ($r = 0.99$) を考慮すると、ストレスクラック指標を追加する価値は限られているため、「2018/2019 年収穫時報告書」を最後にストレスクラック指標は報告しないことに決定しました。

**ストレスクラック指標とストレスクラック (%) の相関
8 年間の米国集計**



サンプリング

無作為抽出のプロセスは、電子メールおよび電話を使用して 12 州の地域穀物エレベーターに依頼することから始まりました。要求した 2050~2250 グラムのサンプル用トウモロコシを提供することに同意したエレベーター宛てに、返送料金前払いのサンプリングキットを郵送しました。エレベーター業者には、生産者から受け取った古いトウモロコシがサンプルに含まれることを防ぐため、新しいトウモロコシのために保管サイロを清掃するよう依頼しました。個々のサンプルは、圃場から到着したトラックがエレベーターの通常の試験手続を受ける際に抽出しました。各エレベーターがこの調査用として提出するサンプルの数は、サンプル提出を快諾してくれたエレベーターの数と当該 ASD で必要とされるサンプルの目標総数に合わせて決定しました。参加エレベーター業者に郵送したサンプリングキットにはそれぞれ、最大 4 サンプルを採取することのできるバッグが含まれ、採取サンプルに地理的な多様性を持たせました。総数 621 のブランドされていないトウモロコシのサンプルは、農場からトラックで地域のエレベーターに搬入され、そこから採取・提出され検査に供されました。参加したエレベーターは、各サンプルバッグ上に採取日を記載することで、こうしたサンプルが 2025 年 8 月 5 日から 11 月 8 日の間に農場からの搬入トラックから採取されたものであることを明記しました。

C. 統計分析

等級ファクター、水分含量、化学組成および物理的ファクターに関するサンプルの試験結果を米国集計として、また以下に示す 3 つの複合地域によるグループごとにまとめました。これらのグループは 3 つの主要輸出拠点地域 (ECA) それぞれにトウモロコシを供給する地域です。

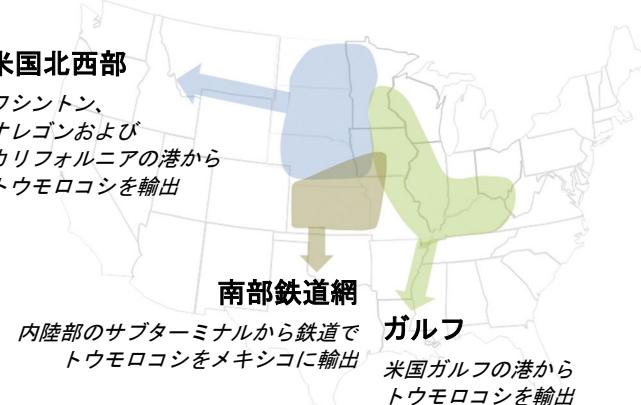
サンプル試験結果の分析にあたって、当協会は加重平均値および標準偏差²を含め、層別比例サンプリング用の標準的な統計手法に従いました。米国集計の加重平均値および標準偏差に加え、複合地域 ECA それぞれの加重平均値および標準偏差も推計しました。利用できる輸送手段の関係で、これら ECA に輸出用トウモロコシを輸送する地域が重複しています。そのため、各 ECA の複合統計値は各 ECA へと移動するトウモロコシの推定比率に基づいて算定しました。結果として、トウモロコシのサンプルが複数の ECA の値に算入される可能性があります。こうした推計作業は業界の情報、輸出データおよび米国内のトウモロコシの流通についての研究評価に基づいて実施しました。

「2025/2026 年収穫時報告書」には過去 5 年の「収穫時報告書」(2020/2021 年、2021/2022 年、2022/2023 年、2023/2024 年および 2024/2025 年) の品質ファクター平均値の単純平均値および標準偏差が含まれています。これらの単純平均値は米国集計と 3ECA 地域それについて求めたもので、本報告書の本文および要約の表では「5YA」と表示しています。本報告書を通して「10YA」にも言及しています。10YA は、「2015/2016 年収穫時報告書」から本「2024/2025 年収穫時報告書」までの品質ファクターの平均値の単純平均値を表します。

相対誤差範囲 (ME) は米国集計と各 ECA の品質ファクターごとに計算しました。米国集計では相対許容誤差が 10.0% を超える品質ファクター推定値はありませんでした。一方、米国北西部 ECA の総損傷とストレスクラックの相対許容誤差はそれぞれ 10.9% でした。これらの精度レベルは望ましいレベルより低いものの、推算を無効にするものではありません。集計表の脚注に、この品質ファクターの相対許容誤差が 10.0% を超えている項目を記載しています。

「品質試験結果」セクションにある、本年の品質ファクターの平均値と過去 2 年間の報告書、5YA および 10YA の品質ファクターの平均値の信頼度 95.0%での統計的差異（有意差）への言及の妥当性を両側 t 検定で確認しました。本年の品質ファクターの平均値と過去 2 年間の報告書、5YA および 10YA の品質ファクターの平均値間の差異は、信頼度 95.0% で統計的に有意でない限り、「ほぼ同じ」と表現します。

輸出拠点地域 (ECA)



² 報告した硬胚乳、百粒重、穀粒容積および真の穀粒密度の標準偏差は、試験を実施したサンプル数が少ないため加重平均していない。

「2025/2026 年収穫時報告書」で使用したサンプル（各約 2200 グラム）は地域の穀物エレベーターからイリノイ州シャンペーンのイリノイ州穀物改良協会の分別流通管理穀物研究所 (IPG ラボ) に直接届けられました。プロセスの概要は以下のとおりです。

- サンプル到着後すぐに、その化学組成と水分含量を近赤外透過分光法 (NIR) で分析しました。この分析により、サンプルのタンパク質、デンプンおよび油分含量の試験結果が得られます。
- 参加したエレベーターには、エレベーター自体にある電子水分計で測定した水分含量を供給時に各サンプルバッグに記録するよう依頼しました。各サンプルの到着時に実施した NIR 分析の結果ではなく、この水分含量の結果を報告します。
- 各サンプルの到着時に実施した NIR 分析で得られた水分含量の結果は、報告しないものの、試験期間中にそれ以上劣化しないようにするために、さらに乾燥させてサンプルの水分含量を適切なレベルまで減らす必要があるかどうかを決定するために使用しました。水分含量が 16.0% を超えるサンプルは、ストレスクラックや熱損傷を防ぐために周囲温度による乾燥法で乾燥させました。
- 次に、サンプルは Boerner のディバイダーを用いて約 1100 グラムのサブサンプルに 2 分割しましたが、この時、トウモロコシのサンプルの特性が両サブサンプル間で均等に配分されるよう分割しました。
- 片方のサブサンプルは等級付けのためにイリノイ州アーバナのシャンペーン-ダンビル穀物検査所 (CDGI) に送付しました。CDGI は USDA の連邦穀物検査局 (FGIS) の指定を受けたイリノイ州中部・東部担当の公的な穀物検査サービス機関です。等級試験の手順は FGIS が発行している「穀物検査ハンドブック」に従ったもので、次のセクションで説明しています。
- その他のサブサンプルについては、業界の基準または十分に確立された手順のいずれかに従って、IPG ラボで物理的ファクターとマイコトキシン汚染を分析しました。IPG ラボは、化学組成、ストレスクラック、百粒重、穀粒容積および真の穀粒密度に対する国際規格 ISO/IEC17025:2017 に基づく認証を受けています。この認証の全容については <https://www.ilcrop.com/about/lab-services/> を参照してください。

A. 等級ファクター

容積重

容積重はワインチェスター・ブッシュル（2150.42 立方インチ）を満たすために必要とされる穀物の量を示す単位です。容積重はトウモロコシの等級基準のための FGIS 公式米国規格の一部です。

この試験では、あらかじめ容積がわかっている試験用のカップに、その上方の一定の高さに設置された漏斗を通してトウモロコシがテストカップの両側からあふれ始める時点まで注ぎます。ストライクオフ・スティックと呼ばれる「すりきりへら」でテストカップのトウモロコシを平らにし、カップの中に残ったトウモロコシの重量を測定します。その後、この重量を伝統的な米国の単位である 1 ブッシュル当たりのポンド重量 (lb/bu) の値に変換し、報告に用います。

破損粒&異物 (BCFM)

破損粒&異物 (BCFM) は FGIS 米国公式穀物規格の一部であり、等級付け基準のひとつです。

この BCFM 試験では目開き 12/64 インチのふるいを通過するすべての物質、およびこのふるいの表面に残るトウモロコシ以外のすべての物質の量を計測します。BCFM の計測では破損粒と異物を区分することができます。目開き 12/64 インチのふるいを通過し、目開き 6/64 インチのふるいの表面に残るすべての物質を破損粒と定義します。目開き 6/64 インチのふるいを通過する物質と目開き 12/64 インチのふるいの表面に残るトウモロコシ以外の粗い物質はすべて異物と定義します。BCFM は当初サンプルに占める割合を重量比（パーセント）で報告します。

総損傷/熱損傷

総損傷は穀物等級基準のための FGIS 米国公式規格の一部です。

損傷粒を調べるため、訓練を受けライセンスを有する試験担当官が BCFM の存在しないトウモロコシの代表的なサンプル 250 グラムを対象に目視検査を実施します。損傷の種類にはブルーアイモールド、コブロット、乾燥機による損傷粒（熱損傷粒とは異なる）、胚芽損傷粒、熱損傷粒、害虫損傷粒、カビ損傷粒、カビ様物質、絹糸切断粒、表面カビ（葉枯れ病）、カビ (*pink Epicoccum*)、芽損傷粒などがあります。総損傷はサンプルの総損傷粒の重量比（パーセント）で報告します。

熱損傷は総損傷のひとつの要素で、熱損傷粒には熱による明らかな変色および損傷のある穀粒やそのかけらが含まれます。熱損傷粒は訓練を受けライセンスを有する試験担当官が BCFM の存在しないトウモロコシのサンプル 250 グラムを対象として目視検査を実施して確定します。熱損傷が発見された場合には、総損傷とは別に報告します。

B. 水分含量

トウモロコシがエレベーターに到着した時点で電子水分計に記録された水分含量が報告されます。電子水分計は水分含量に応じて変化する誘電率と呼ばれる穀物の電気特性を検知します。水分含量が多くなるに従って誘電率が上昇します。水分含量は総水分重量比として報告されます。

C. 化学組成

近赤外透過分光法（NIR）近似分析

トウモロコシの化学組成（タンパク質、油分およびデンプン含量）は近赤外透過型分析計（NIR）を用いて計測します。NIR はそれぞれのサンプルに対する個別の光の波長の特異な相互作用を利用するものです。サンプルに含まれるタンパク質、油分およびデンプンの含量を予測するために、従来からある化学的方法に適合するよう較正します。これはトウモロコシを破壊しない分析方法です。

タンパク質、油分およびデンプンの化学組成試験は、全粒用 Foss Infratec 1241 近赤外透過測定器（NIR）により 550~600 グラムのサンプルを用いて実施しました。NIR は化学試験に適合するよう較正し、タンパク質、油分およびデンプンの予測標準誤差はそれぞれ約 0.22%、0.26% および 0.65% でした。21箇所のラボで試験されたサンプルについて、2016 年より前の「収穫時報告書」に用いられた Foss Infratec 1229 と Foss Infratec 1241 とを比較して、これらの測定器によりタンパク質、油分およびデンプンそれぞれにつき 0.25%、0.26% および 0.25% 以内の平均値が得られることを示しました。結果は乾物ベース（無水物質のパーセント）で報告します。

D. 物理的ファクター

百粒重、穀粒容積および真の穀粒密度

百粒重は、1 群百粒の 2 反復群を対象とし、0.1 mg 単位の値まで測定する化学天秤を用いて平均重量を求めます。平均百粒重はグラムで報告します。

各百粒反復群の穀粒容積はヘリウム比重瓶を用いて計測し、穀粒当たりの体積を立方センチメートル (cm^3) で表します。1 穀粒当たりの容積は通常 $0.14\text{--}0.36 \text{ cm}^3$ の範囲にあり、前者は小型トウモロコシ粒、後者は大型トウモロコシ粒となります。

各百粒サンプルの真の密度は、外観が完全なトウモロコシ百粒の質量（または重量）と同じ百粒の体積（押しのけ容積）で除して求めます。2 反復群のそれぞれの結果の平均を取ります。真の密度は 1 立方センチメートル当たりのグラム数 (g/cm^3) で報告します。トウモロコシ粒の真の密度は、水分含量がおおよそ 12~15% の「無加工の状態」で、通常 $1.20\text{--}1.30 \text{ g}/\text{cm}^3$ です。

ストレスクラック分析

ストレスクラック率は亀裂が際立って見えるよう、バックライトの付いた観察板の上で評価します。外観に損傷のない無傷のトウモロコシ百粒を 1 サンプルとして、その 1 粒 1 粒を調べます。光は硬胚乳を通過するため、各トウモロコシ粒のストレスクラックの損傷度を評価することができます。穀粒は (1) 亀裂なしまたは (2) 1 本以上の亀裂ありの 2 つのカテゴリーに分類されます。パーセント比率で表されるストレスクラックの値は、亀裂が 1 本以上あるすべてのトウモロコシ粒を百粒で除して求めます。ストレスクラックの値が高いと取扱い時に破損しやすいため、どのような場合でも低い値ほど良いということになります。使用目的に応じて容認できる亀裂のレベルを契約で指定するエンドユーザーもいます。

完全粒

完全粒試験では、50 g のクリーンな（すなわち BCFM が含まれていない）トウモロコシを 1 粒ずつ調べます。亀裂、破損または欠けのある粒だけでなく、種皮の損傷が顕著な粒も取り除きます。残った完全粒の重量を測定し、結果を当初 50 g のサンプルに占める割合（パーセント）で示します。同じ試験を実施し、「亀裂&破損」率として報告する企業もあります。完全粒の値が 97.0% というのは亀裂&破損率 3.0% に相当します。

硬胚乳

硬胚乳試験ではバックライトの付いた観察台の上に胚芽を上向きに配置し、外観上健全なトウモロコシ 20 粒を目視で等級付けします。各粒の等級の基礎となるのは全胚乳中推定される硬胚乳の割合です。軟胚乳は不透明で光を遮断しますが、硬胚乳は半透明です。穀粒の先端部の軟胚乳がどの程度胚芽の方に向かって伸びているかを見極め、標準ガイドラインに照らし合わせて格付けを行います。健全な外観 20 粒の平均硬胚乳等級を報告します。70~100% の範囲で硬胚乳の等級を定めますが、大半のトウモロコシ粒は 70~90% の範囲に入ります。

E. マイコトキシン試験

トウモロコシのマイコトキシンの検出方法は複雑です。多くの場合、マイコトキシンを産生する菌は圃場単位または地域単位で均一に広がるわけではありません。そのため、仮にトウモロコシにマイコトキシンが存在していても、その検出はトウモロコシのロット別のマイコトキシン含量・分布に決定的に左右されることになります。このロットはトラック輸送の場合のロット、保管時のロットまたは鉄道貨物としてのロットを問いません。

トウモロコシの輸出には正確な結果が不可欠であるため、FGIS のサンプリング手順はマイコトキシンの真の含量の過小評価や過大評価を最小限に抑えることを目的としています。ただし「2025/2026 年収穫時報告書」のマイコトキシン評価の目的は、輸出用トウモロコシのマイコトキシンの個別レベルを特定することではなく、現時点のトウモロコシのマイコトキシン発生頻度を報告することに尽きます。

「2025/2026 年収穫時報告書」用としてアフラトキシン、デオキシニバレノールおよびフモニシンの発生頻度を報告するため、IPG ラボで FGIS プロトコルや承認された試験キットを用いてマイコトキシン試験を実施しました。FGIS のプロトコルでは、トラック上のトウモロコシから 908 グラム (2 ポンド) 以上のサンプルを採取してアフラトキシン試験用に、約 200 グラムのサンプルをデオキシニバレノール試験用に、約 908 グラム (2 ポンド) のサンプルをフモニシン試験用に粉碎することが求められています。今回の試験ではアフラトキシン分析用として、穂軸からはずしたトウモロコシ粒 2 キログラムの調査サンプルを 1000 グラムの試験サンプルに小分けしました。この 1 キログラムの調査サンプルを、ディスタンスリングと目開き 1 ミリメートルの台形孔ふるいを備えた Retsch ZM 200 ミルを用いて粉碎し、その 60~75%が 20 番のメッシュスクリーンを通過するようにしました。このサンプルをよく混合して各マイコトキシンの試験用としてそれぞれ 50 g を取り分けました。アフラトキシン分析用として EnviroLogix AQ 309 BG、デオキシニバレノール分析用として AQ 304 BG、フモニシン分析用として AQ 411 BG の定量試験キットを使用しました。デオキシニバレノールおよびフモニシンの抽出には水 (5:1) を、アフラトキシンの抽出には緩衝用水 (3:1) を用いました。抽出物は EnviroLogix QuickTox 側方流動ストリップを用いて試験し、マイコトキシンの定量化には QuickScan システムを用いました。

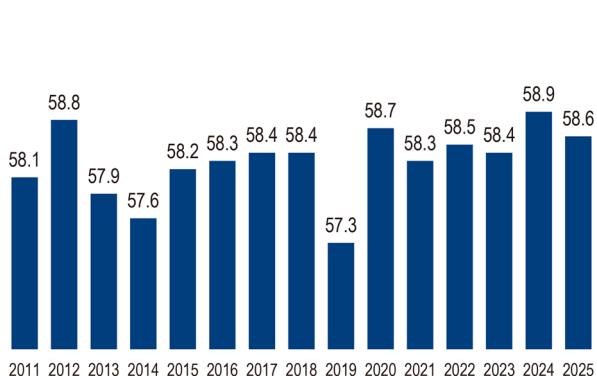
EnviroLogix 定量化試験キットは、マイコトキシン含量が「検出限界」と呼ばれる特定のレベルを超えた場合にその個別の含量を知らせるものです。検出限界は分析上の空白（マイコトキシンが存在しない）を測定する方法とは統計的に異なる分析方法を用いて測定することのできる最低含量と定義されます。マイコトキシンの種類、テストキット、コモディティの組み合わせが異なれば、この検出限界も変化します。EnviroLogix AQ 309 BG のアフラトキシン検出限界値は 2.7 ppb です。EnviroLogix AQ 304 BG を用いるデオキシニバレノールの検出限界値は 0.1 ppm です。フモニシンの試験に用いられる EnviroLogix AQ 411 BG の検出限界値は 0.1 ppm です。EnviroLogix AQ 309 BG、AQ 304 BG および AQ 411 BG それぞれのキットを用いたアフラトキシン、デオキシニバレノール、フモニシンの各定量化については、FGIS から性能書が発行されます。

「2020/2021 年収穫時報告書」から開始した、オクラトキシン A、T-2 およびゼアラレノンが分析対象のマイコトキシンのリストに追加され、アフラトキシン、デオキシニバレノールおよびフモニシンの試験結果によってもたらされた情報を補足しています。追加されたこれらの 3 つのマイコトキシンの試験は本年の「収穫時報告書」でも継続して行われました。EnviroLogix AQ 113 BG、AQ 314 BG および AQ 412 BG 定量化試験キットは、それぞれオクラトキシン A、T-2 およびゼアラレノンに用いました。オクラトキシン A の試験に用いた EnviroLogix AQ 113 BG 定量化試験キットの検出限界値は 1.5 ppb です。オクラトキシン A は穀物バッファー (1 グラム当たり 5 ml) を用いて抽出しました。T-2 の試験に用いた AQ 314 BG 定量化試験キットの検出限界値は 50 ppb です。T-2 は水 (1 グラム当たり 5 ml) を用いて抽出しました。ゼアラレノンの試験に用いた EnviroLogix AQ 412 BG 定量化試験キットの検出限界値は 50 ppb です。ゼアラレノンの試験には、試験に用いるトウモロコシのうち 25 グラムを用います。ゼアラレノンは、EB17 抽出試薬パウダーとサンプル当たり 75 ml の水バッファーを用いて抽出しました。

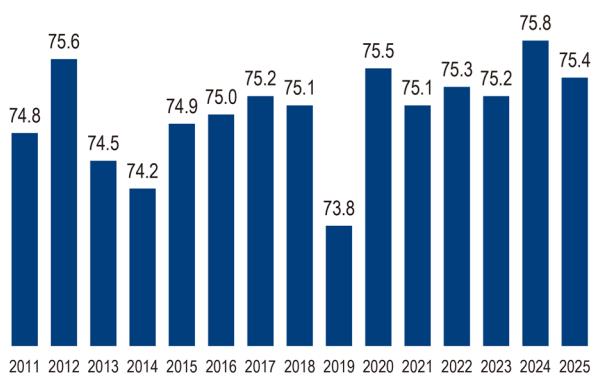
A. 等級ファクターと水分含量

2011 年以降、アメリカ穀物バイオプロダクト協会の「収穫時品質報告書」は、世界中の流通経路に投入される各米国産トウモロコシの品質に関する明確で、簡潔、かつ一貫性のある情報を提供しています。この品質報告書シリーズでは、全対象期間を通じて豊かな比較ができるよう、首尾一貫した透明性のある方法を用いています。次に示す図表では、全収穫時報告書から抜粋した、試験対象の各品質ファクターの米国集計平均値を示し、今期の結果と過去の履歴とを照らし合わせることができます。

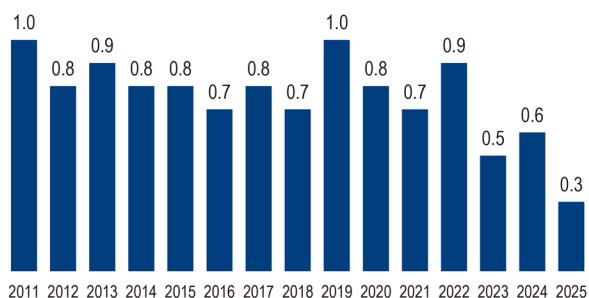
作物年度別容積重 (lb/bu)



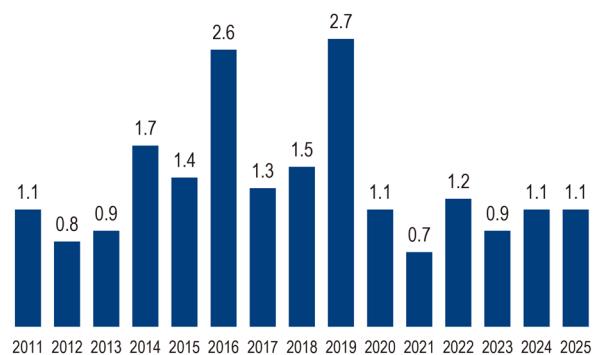
作物年度別容積重 (kg/hl)



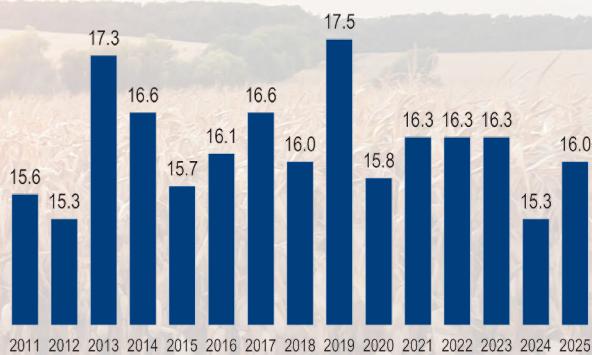
作物年度別BCFM (%)



作物年度別総損傷 (%)

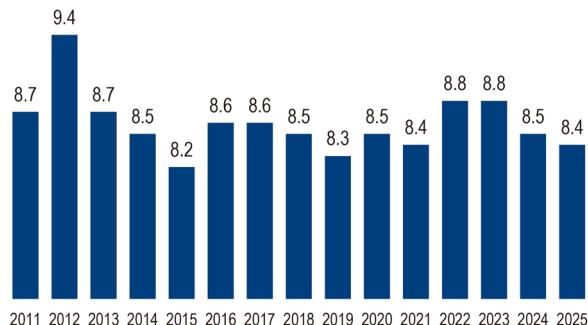


作物年度別水分含量 (%)

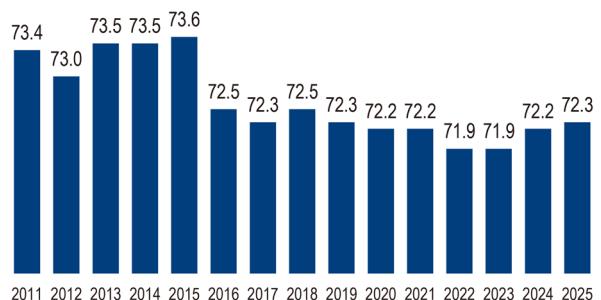


B. 化学組成

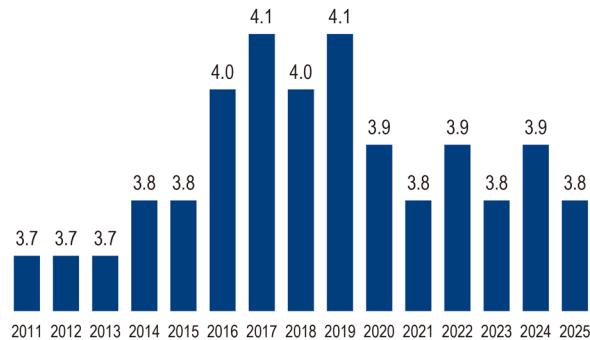
作物年度別タンパク質（乾物ベース%）



作物年度別デンプン（乾物ベース%）



作物年度別油分（乾物ベース%）

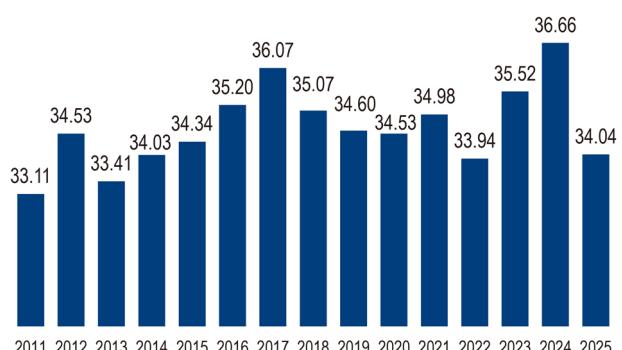


C. 物理的ファクター

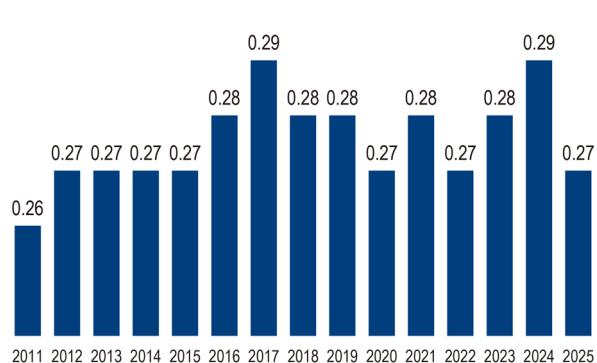
作物年度別ストレスクラック (%)



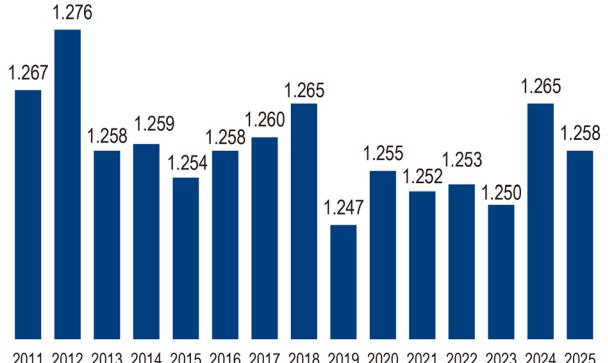
作物年度別百粒重 (g)



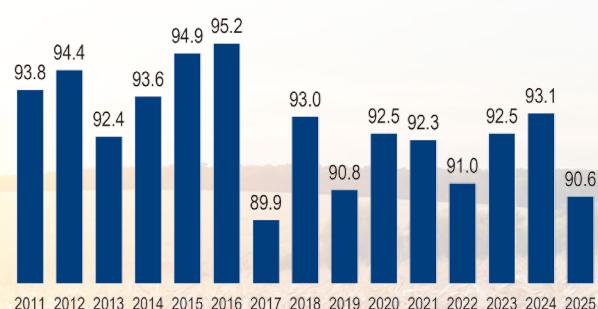
作物年度別穀粒容積 (cm³)



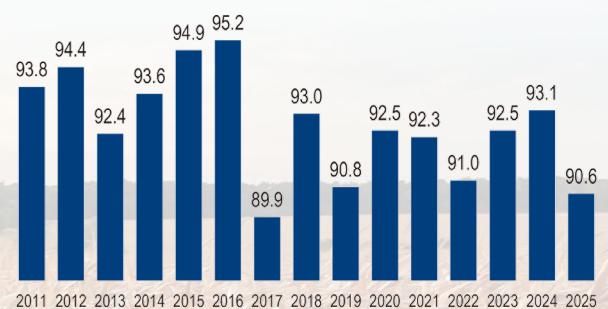
作物年度別真の密度 (g/cm³)



作物年度別完全粒 (%)

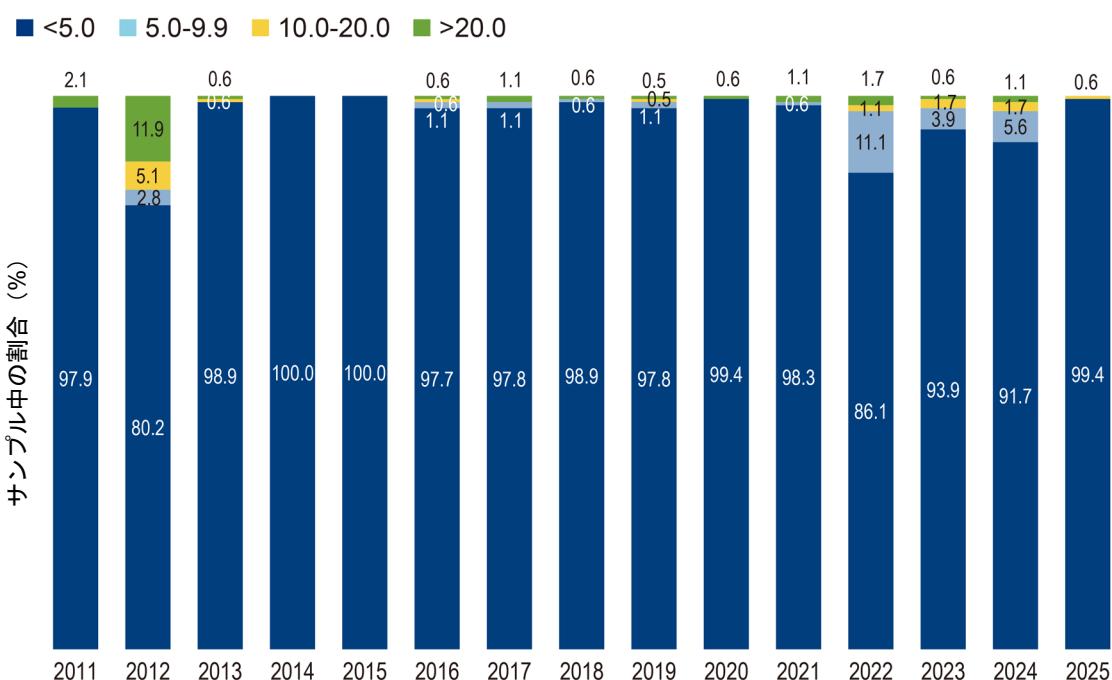


作物年度別硬胚乳 (%)

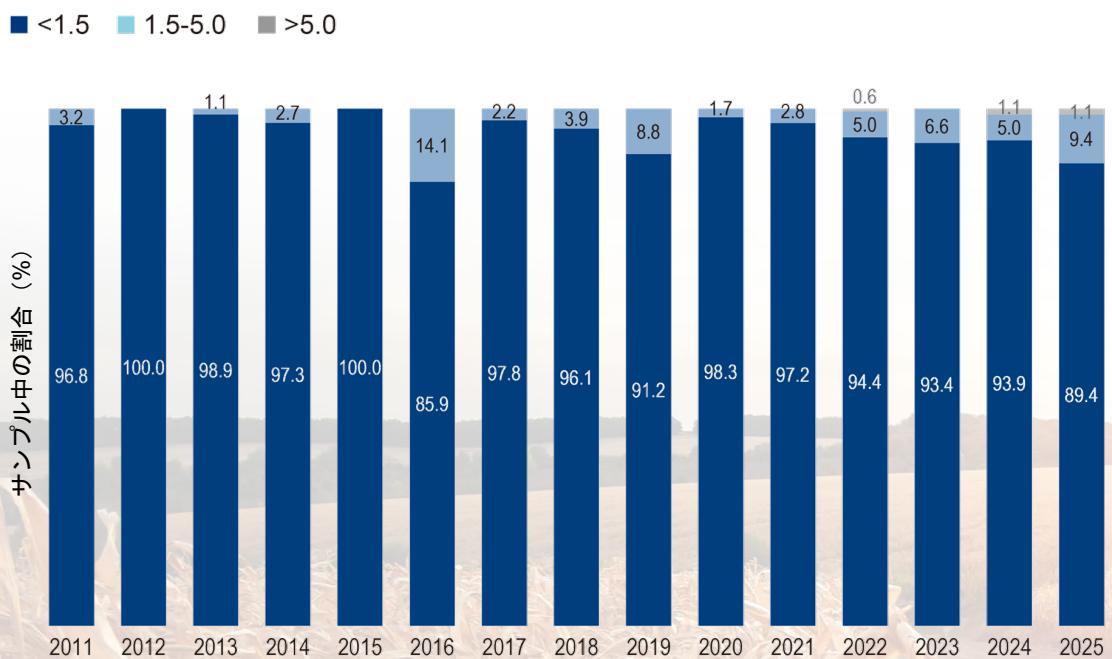


D. マイコトキシン

作物年度別アフラトキシンの結果 (ppb)



作物年度別デオキシニバレノール (DON またはボミトキシン) の結果 (ppm)



米国産トウモロコシの等級要件

等級	ブッシェル 当たりの 容積重最小値 (ポンド)	最大限界値		
		損傷粒		
		熱損傷 (%)	総損傷 (%)	破損粒&異物 (%)
米国 (US) No.1	56.0	0.1	3.0	2.0
米国 (US) No.2	54.0	0.2	5.0	3.0
米国 (US) No.3	52.0	0.5	7.0	4.0
米国 (US) No.4	49.0	1.0	10.0	5.0
米国 (US) No.5	46.0	3.0	15.0	7.0

米国のトウモロコシの等級は次のとおり：(a) 1、2、3、4、5 の等級要件を満たさないもの、(b) 1,000 グラムのサンプル中、合計で 0.1% を超える小石が含まれているもの、2 個以上のガラス片が混じっているもの、3 個以上のタヌキマメ (*Crotalaria spp.*) の種子、2 個以上のトウゴマ (*Ricinus communis L.*) の実、4 個以上の特定できない異物の粒が一般に有害・有毒とみなされる物質、8 個以上のオナモミ (*Xanthium spp.*) 等、1 種または複数種の種子、または動物の汚物が 0.2% を超えて混入しているもの、(c) カビ臭や酸っぱい臭いなど、販売上好ましくない異臭がするもの、または (d) 熱損傷やその他の明確に品質の低下があるもの

出典 : Code of Federal Regulations, Title 7, Part 810, Subpart D, United States Standards for Corn

米国単位／メートル単位換算表

トウモロコシ換算		メートル換算	
1ブッシェル = 56ポンド (25.40キログラム)		1ポンド = 0.4536キログラム	
39.368ブッシェル = 1メートルトン		1ハンドレッドウェイト = 100ポンドまたは45.36キログラム	
15.93ブッシェルエーカー = 1メートルトン/ヘクタール		1メートルトン = 2204.6ポンド	
1ブッシェル/エーカー = 62.77キログラム/ヘクタール		1メートルトン = 1000キログラム	
1ブッシェル/エーカー = 0.6277キンタル/ヘクタール		1メートルトン = 10キンタル	
56ポンド/ブッシェル = 72.08キログラム/ヘクトリットル		1キンタル = 100キログラム	
		1ヘクタール = 2.47エーカー	

略語

cm ³ = 立方センチメートル
g = グラム
g/cm ³ = グラム/立方センチメートル
kg/hl = キログラム/ヘクトリットル
lb/bu = ポンド/ブッシェル
ppb = 十億分率
ppm = 百万分率



米国産穀物とエタノールの世界的な需要を確立し、 市場を発展させる専門家のグローバルネットワーク



HEADQUARTERS

20 F Street NW, Suite 900 • Washington, D.C., 20001

Phone: 202-789-0789 • Fax: 202-898-0522

Email: grains@grains.org

PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA: [Beijing](#)

Tel1: 011-86-10-6505-1314 • Tel2: 011-86-10-6505-2320
Fax: 011-86-10-6505-0236 • china@grains.org

JAPAN: [Tokyo](#)

Tel: 011-81-3-6206-1041 • Fax: 011-81-3-6205-4960
japan@grains.org • www.grainsjp.org

KOREA: [Seoul](#)

Tel: 011-82-2-720-1891 • Fax: 011-82-2-720-9008
seoul@grains.org

TAIWAN: [Taipei](#)

Tel: 011-886-2-2523-8801 • Fax: 011-886-2-2523-0149
taipei@grains.org

MEXICO: [Mexico City](#)

Tel1: 011-52-55-5282-0244 • Tel2: 011-52-55-5282-0973
Tel3: 011-52-55-5282-0977 • mexico@grains.org

MIDDLE EAST, AFRICA AND EUROPE: [Tunis](#)

Tel: 011-216-71-191-640 • Fax: 011-216-71-191-650
tunis@grains.org

INDIA: [New Delhi](#)

Tel: +91-11-4603-6437 • usgcindia@grains.org

SOUTH EAST ASIA: [Kuala Lumpur](#)

Tel: 011-603-2789-3288 • sea-oceania@grains.org

LATIN AMERICA: [Panama City](#)

Tel: 011-507-315-1008 • ita@grains.org